

安宁老师的日语课

【0-N1】讲义

N2

目录

N2 第 1 课 江户时代的流行色(单词)	1
N2 第 2 课 江户时代的流行色(语法)	4
N2 第 3 课 江户时代的流行色(课文)	7
N2 第 4 课 秋天的七种花草(单词)	8
N2 第 5 课 秋天的七种花草(语法)	11
N2 第 6 课 秋天的七种花草(课文)	14
N2 第 7 课 夏天的问候(单词)	15
N2 第 8 课 夏天的问候(语法)	19
N2 第 9 课 夏天的问候(课文)	22
N2 第 10 课 盖房子的不容易(单词)	23
N2 第 11 课 盖房子的不容易(语法)	26
N2 第 12 课 盖房子的不容易(课文)	29
N2 第 13 课 雨水和农耕(单词)	30
N2 第 14 课 雨水和农耕(语法)	34
N2 第 15 课 雨水和农耕(课文)	37
N2 第 16 课 母子心理的不合拍(单词)	38
N2 第 17 课 母子心理的不合拍(语法)	41
N2 第 18 课 母子心理的不合拍(课文)	44
N2 第 19 课 雨水和植物(单词)	45
N2 第 20 课 雨水和植物(语法)	48
N2 第 21 课 雨水和植物(课文)	51
N2 第 22 课 七夕也叫乞巧节(单词)	52
N2 第 23 课 七夕也叫乞巧节(语法)	56
N2 第 24 课 七夕也叫乞巧节(课文)	59
N2 第 25 课 水果的家庭消费差异(单词)	60
N2 第 26 课 水果的家庭消费差异(语法)	64
N2 第 27 课 水果的家庭消费差异(课文)	69
N2 第 28 课 平安时代的贵族颜色(单词)	70
N2 第 29 课 平安时代的贵族颜色(语法)	73
N2 第 30 课 平安时代的贵族颜色(课文)	76

N2 第 31 课 一封书信(单词)	77
N2 第 32 课 一封书信(语法)	80
N2 第 33 课 一封书信(课文)	82
N2 第 34 课 除夜的钟声(单词)	83
N2 第 35 课 除夜的钟声(语法)	86
N2 第 36 课 除夜的钟声(课文)	89
N2 第 37 课 入春(单词)	90
N2 第 38 课 入春(语法)	93
N2 第 39 课 入春(课文)	96
N2 第 40 课 古代百姓的参拜(单词)	97
N2 第 41 课 古代百姓的参拜(语法)	101
N2 第 42 课 古代百姓的参拜(课文)	104
N2 第 43 课 地震预告(单词)	105
N2 第 44 课 地震预告(语法)	109
N2 第 45 课 地震预告(课文)	111
N2 第 46 课 梅桃争艳迎春天(单词)	112
N2 第 47 课 梅桃争艳迎春天(语法)	115
N2 第 48 课 梅桃争艳迎春天(课文)	118
N2 第 49 课 夏天的风物诗——萤火虫(单词)	119
N2 第 50 课 夏天的风物诗——萤火虫(语法)	122
N2 第 51 课 夏天的风物诗——萤火虫(课文)	125
N2 第 52 课 浮世绘中的樱叶年糕(单词)	126
N2 第 53 课 浮世绘中的樱叶年糕(语法)	129
N2 第 54 课 浮世绘中的樱叶年糕(课文)	132
N2 第 55 课 橘红色的早晚(单词)	133
N2 第 56 课 橘红色的早晚(语法)	136
N2 第 57 课 橘红色的早晚(课文)	138
N2 第 58 课 各国婴儿无不同(单词)	139
N2 第 59 课 各国婴儿无不同(语法)	142
N2 第 60 课 各国婴儿无不同(课文)	144

N2 第1课 江戸时代的流行色(单词)

媚茶

黄色がかった濃い茶色をしています。「媚」 というなんとも艶っぽい名前がついていますが、なんと語源は「昆布茶」。といっても「昆布のお茶」ではなく、「昆布のような茶色」です。この「こんぶ」が「こび」と訛る過程で「媚」の字があてられたといわれています。8代将軍徳川吉宗の時代に江戸庶民に愛され、小袖の地色などに流行しました。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

媚茶

媚茶色是帶着黃色的深茶色。媚茶色的名字里帶着非常嬌媚的字“媚”，其實它的起源竟然是“昆布茶”。即便这么说，但不是“昆布的茶”，而是“像昆布那樣的茶色”。據說這個“昆布”在變成“媚”的發音的過程中被安上了“媚”這個字。在第8代將軍徳川吉宗的時代被江戸庶民喜愛，流行在日本和服的小袖的底色等上。

单词

- * 媚茶: (2, 名) 带有黑色的深茶色
- * 媚びる: (2, 自上一) 谄媚, 献媚. [记]. こ(小)+び(微)+る(留→长)→媚
- * 赤: (1, 名) 赤
- * 橙色: (0, 名) 橙色
- * 黄色: (0, 名) 黄色
- * 绿: (1, 名) 绿
- * 青: (1, 名) 青
- * 蓝色: (0, 名) 靛蓝色
- * 紫: (0, 名) 紫色
- * 茶色: (0, 名) 茶色
- * 绀: (1, 名) 深蓝色
- * ベージュ: (0, 名/法语 beige) 米色
- * カーキ色: (0, 名/印地语) 草绿色
- * なんとも: (1, 副) 简直

- * なんとも: (0, 副) (后面接否定) 什么都(不)
- * 語源: (0, 名) 辞源
- * 源: (0, 名) 源泉; 水源; 根源. [记]. み(水)+な(なる→也→是)+もと(元→原)→水+原→源
- * 昆布茶: (2, 名) 昆布茶
- * 昆布: (1, 名) 昆布, 海带
- * 昆布だし: (3, 名) 昆布高汤, 昆布高汤料
- * 訛る: (2, 自他五) 有口音
- * 訛り: (3, 0, 名) 口音. [记]. なま(生)+り(る→留→长)→说普通话不熟练→口音
- * 過程: (0, 名) 过程
- * プロセス: (2, 名/process) 过程
- * 庶民: (1, 名) 庶民, 百姓
- * 大臣: (1, 名) 大臣
- * 愛: (1, 名/他サ) 爱
- * 可愛い: (3, 形) 可爱的
- * 可愛らしい: (5, 形) 可爱的
- * 愛らしい: (4, 形) (孩子或年轻女性的小巧、弱小、美丽) 可爱的
- * 愛おしい: (4, 形) 可爱的; 珍爱的; 可怜的. [记]. い(一)+と(特)
- * 愛おしむ: (4, 他五) 珍爱; 爱惜; 疼爱
- * 愛しい: (3, 形) 爱恋的; 依恋的
- * 恋しい: (3, 形) 恋恋不舍的; 眷恋的; 留恋的. [记]. こい(濃い)
- * いじらしい: (4, 形) 令人怜爱的. [记]. い(一)+じ(ぢ→ち→小さい)
- * 可憐: (0, 形动) 楚楚动人
- * 可哀相: (4, 形动) 可怜
- * 気の毒: (3, 4, 形动) 可怜; 内疚
- * 悲惨: (0, 形动) 悲惨

* 悲しい: (3, 形) 伤心的; 悲哀的

* 辛い: (0, 2, 形) 痛苦的; 艰辛的, 辛苦的

* 苦しい: (3, 形) 痛苦的; 难受的; 苦闷的; 牵强的

* 苦痛: (0, 名) 痛苦

* 痛み: (3, 名) 疼痛; 痛苦

* 痛む: (2, 自五) 疼痛; 痛苦

* 傷む: (2, 自五) 伤; (食品/商品等) 破损

* 痛める: (3, 他下一) 使疼痛; 使痛苦

* 傷める: (3, 他下一) 弄伤

* 傷付ける: (4, 他下一) 弄坏; 伤害

* 傷付く: (3, 自五) 负伤; 出瑕疵, 有损伤; 受伤

* 傷付きやすい: (6, 形) 容易受伤的

* ガラスのハート: (0+0, 名) 玻璃心

* 小袖: (0, 1, 名) 袖子比较小的平时穿的和服

* 袖: (0, 名) 袖子; 两侧的东西. [记]. そ(其)+で(出る)→(手) 从那里出来→袖子

* 長袖: (0, 名) 长袖

* 半袖: (0, 名) 半袖

* 七分袖: (0, 名) 七分袖

* 袖なし: (0, 名) 无袖

* ノースリーブ (4, 名/和式英语/no+sleeve) 无袖

* 地色: (0, 名) 底色

* 生地: (1, 名) 质地, 面料

* 生真面目: (2, 形动) 过于认真, 较真; 死心眼

N2 第2课 江戸时代的流行色(语法)

こびちゃ 媚茶

黄色がかった濃い茶色をしています。「媚」 というなんとも艶っぽい名前がついていますが、なんと語源は「昆布茶」。といっても「昆布のお茶」ではなく、「昆布のような茶色」です。この「こんぶ」が「こび」と訛る過程で「媚」の字があてられたといわれています。8代将軍徳川吉宗の時代に江戸庶民に愛され、小袖の地色などに流行しました。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

媚茶

媚茶色是带着黄色的深茶色。媚茶色的名字里带着非常娇媚的字“媚”，其实它的起源竟然是“昆布茶”。即便这么说，但不是“昆布的茶”，而是“像昆布那样的茶色”。据说这个“昆布”在变成“媚”的发音的过程中被安上了“媚”这个字。在第8代将军徳川吉宗的时代被江戸庶民喜爱，流行在日本和服的小袖的底色等上。

语法

好像～

一っぽい

* 解释：つ(促音表示语气的加强)+ぽい(颇为)

* 意思：1. 特别像；2. 不符合本质(子供っぽい)；对应的是符合本质的子供らしい

* 接续：名词/动词的连用形+

1. 彼は飽きっぽくてなかなか物事が続かない性格をしています。

* 他的性格是没长性很难坚持。

* 飽きる：(2, 自上一)饱和，厌烦。[记]。あ(上)+き(く→方向)+る(留→长)→向上→饱和→厌烦

* うんざり：(3, 拟态)厌烦，腻烦。[记]。うん(无)+ざ(昨→咂嘴声)→不要

* 物事：(2, 名)事物

* 性格：(0, 名)性格

2. 運転が荒っぽくて、ルールを全然守らない。

* 开车粗野，完全不遵守(交通)规则。

* 運転：(0, 名/自他サ)开车；运转

* 荒い/粗い：(0, 2, 形)气势凶猛的；无节制的；粗糙的；粗鲁的；粗暴的。[记]。あら(哎呀→惊讶)→疯狂

- * 荒々しい: (5, 形) 粗暴的; 粗鲁的; 疯狂的
- * 荒れる: (0, 自下一) 波涛汹涌; 狂风暴雨; 行为粗鲁; 皮肤粗糙. [记]. あれ(哎呀→惊讶)+る(留→长)→狂
- * 肌: (1, 名) 皮肤; 物体表面. [记]. は(哈→放)+だ(大)→暴露多→皮肤
- * 肌荒れ: (0, 名) 皮肤粗糙

3. ちやらちらした光り物の付いている服はどこか安っぽい印象が目立つ。

- * 带有亮片的衣服总觉得给人很便宜的印象。
- * ちやらちらら: (1, 拟声) (小而薄的金属互相碰撞时发出的) 哗啦哗啦声; 喋喋不休; (穿着便宜且花哨的衣服) 怯(北京方言)
- * 光る: (2, 自五) 发光, 闪光; 出众. [记]. ひ(日)+か(火)+る(留→长)→发光
- * 光り物: (0, 5, 名) 闪光的东西
- * 服: (2, 名) 衣服
- * どこか: (1) 不知道是什么地方总觉得
- * なぜか: (1) 不知道为什么总觉得
- * なんだか: (1) 不知道是什么原因总觉得
- * なんか: (1) なんだか的口语
- * なんとなく: (4, 他五) 总觉得
- * 印象: (0, 名) 印象
- * 目立つ: (2, 自五) 显眼

一めく

- * 解释: め(目)+く(方向)→看上去
- * 语气: 正式生硬
- * 词性: 作为形容词使用的自动词
- * 接续: 名词/形容动词+

1. すっかり春めいてまいりました。

- * 完全春意盎然了。

2. 彼は私にとって一種の威圧めいたものにしだいに変わっていった。

- * 他对于我, 渐渐的又几乎变成一种威压。
- * ~にとって: 对~来说
- * 一種: (1, 名) 一种

* 威压: (0, 名/他サ) 威压

* 次第に: (0, 副) 漸渐地

* 一変: (0, 名/自他サ) 完全改变

3. あの人はいつも皮肉めいた言い方をしています。

* 那个人说话总是带着挖苦。

* 皮肉: (0, 形动) 讽刺, 挖苦, 讥讽

* 皮肉る: (3, 自他五) 讽刺, 挖苦, 讥讽

* 言い方: (0, 名) 说法

N2 第3课 江戸时代的流行色(课文)

こびちゃ 媚茶

黄色がかった濃い茶色をしています。「媚」というなんとも艶っぽい名前がついていますが、なんと語源は「昆布茶」。といっても「昆布のお茶」ではなく、「昆布のような茶色」です。この「こんぶ」が「こび」と訛る過程で「媚」の字があてられたといわれています。8代将軍徳川吉宗の時代に江戸庶民に愛され、小袖の地色などに流行しました。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

媚茶

媚茶色是帶着黃色的深茶色。媚茶色的名字里帶着非常嬌媚的字“媚”，其實它的起源竟然是“昆布茶”。即便这么说，但不是“昆布的茶”，而是“像昆布那样的茶色”。据说这个“昆布”在變成“媚”的發音的過程中被安上了“媚”這個字。在第8代將軍徳川吉宗的時代被江戸庶民喜愛，流行在日本和服的小袖的底色等上。

N2 第4课 秋天的七种花草(单词)

おみなえし 女郎花

秋の野原にひっそりと佇む姿が若い女性にも例えられる花、オミナエシの色。透明感のある

黄色は、中秋の名月の色でもあります。

「秋の七草」にも数えられるオミナエシの花の色のよう、爽やかで涼しげな黄色です。平安時代

に誕生し、秋に身に着ける色とされました。「女郎」とは、身分の高い女性や若い女性のこと、

この花が静かに秋風に揺れるさまが例えられたといいます。ちなみに秋の七草とは「ハギ・ススキ・クズ・ナデシコ・オミナエシ・フジバカマ・キキョウ」のことです。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

女郎花

在秋天的原野里静静地伫立的样子被比做是年轻女性的花——女郎花，其颜色带着透明感的黄色，也是中秋明月的颜色。

像是被数进“秋七草”的女郎花的颜色那样清爽且让人感到凉爽的黄色。在平安时代诞生，被当作秋天着装的颜色。“女郎”指身份高的女性和年轻的女性，据说是这种花在秋风中安静地摇摆的样子而来。顺便提一句，秋七草指：胡枝子、芒草、葛、石竹、女郎花、佩兰、桔梗。

单词

* 女郎花: (3, 名)女郎花 更多好课加星哥唯一微信36903863

* 野原: (1, 名)原野

* ひっそりと: (3, 拟态/副)鸦雀无声，寂静；无声无息。[记] ひ(根据字形→低)+そ(素→轻)

* 佇む: (3, 自五)伫立。[记] たた(立つ)+ず(吱啦一声→错位→动)+む(闷→不)→站着不动→伫立

* 佇まい: (4, 名)站着的样子；(自然景象的)样子

* 若い: (2, 形)年轻的

* 若手: (0, 名)年轻人

* 若々しい: (5, 形)年轻的；显年轻的

* 若气: (0, 2, 名)年轻气盛

* 過ち: (3, 0, 名)过错，失误。[记] あや(啊呀→吃惊)+ま(む→嗯)+ち(其)→惊讶后悔状→出错

* 若氣の過ち: (0, 名)年轻的过错

- * たとえる: (3, 他下一) 比喻, 举例. [记]. た(他)+と(和)+え(挨)+る(留→长)→往其他的方向走→把～比喻成～
- * たとえば: (2, 副) 比如, 例如
- * とうめいかん 透明感: (3, 名) 透明感
- * とうめい 透明: (0, 形动) 透明
- * ちゅうしゅう 中秋: (0, 名) 中秋
- * めいげつ 名月: (1, 名) 中秋的月亮
- * ななくさ 七草: (2, 名) 七草
- * かぞえる: (3, 他下一) 数, 数数; 列举. [记]. か(加)+そ(其)+浊音(拖泥带水→有关)+え(挨)+る(留→长)→添加→数数
- * かぞえられないほど多い: (6+1) 数不清地多, 不计其数
- * さわ 爽やか: (2, 形动) (空气或心情) 清爽; (人) 爽快. [记]. さ(飒/爽)+わ(あ→上→特)+や(也)+か(加)→飒爽
- * そうかい 爽快: (0, 形动) (心情) 爽快
- * き ぶん そうかい 气分爽快: (1+0) 心情爽快
- * すがすが 清清しい: (5, 形) 空气清新的; 神清气爽的. [记]. す(丝→轻→清)+が(状态)+し(像)→清
- * もじもじ: (1, 拟态) 磨叽, 扭捏. [记]. もじ(磨叽)
- * もたもた: (1, 拟态) 磨(蹭). [记]. も(磨)+た(多)
- * ぐずぐず: (1, 拟态) (磨) 蹭; 抱怨, 发牢骚. [记]. ぐ(滚)+ず(蹭)
- * づるづる: (1, 拟态) (吸物时的) 拖拉状; 拖延不决. [记]. づる(毗溜)
- * ひ 引きづる: (0, 自他五) 拖, 拽, 拖拉, 心里放不下, 想不开
- * に き 煮え切らない: (5, 形) 犹豫不决的; (俗语) 肉
- * み つ 身に着ける: (0+2, 他下一) 穿在身上
- * み つ 身に付ける: (0+2, 他下一) 附着在身上; 掌握
- * いらつめ 女郎: (0, 名) (古代称呼) 女郎, 姑娘
- * み ぶん 身分: (1, 名) 身份
- * い ち 位置: (1, 名) 位置

* 立ち位置: (3, 0, 名) (发言或形动时的)位置, 立场, 定位

* 位置付け: (0, 名)定位

* 静か: (1, 形动)安静

* 静まる/鎮まる: (3, 自五)变得安静, 平静; 平息

* 静める/鎮める: (3, 他下一)使安静, 平静; 平息

* 沈む: (0, 自五)下沉; 太阳落山; 忧郁

* 静けさ: (3, 名)安静

* 嵐: (1, 名)暴风雨. [记]. あら(哎呀)+し(像)→拟声词(惊讶)→暴风雨

* 嵐の前の静けさ: (1+1+3)暴风雨前的寂静

* 摆れる: (0, 自下一)摇晃; 动摇. [记]. ゆ(摇)+れ(来)+る(留→长)→摇晃

* 摆れ動く: (4, 自五)动摇

* 動じない: (4, 形)不动的, 坚定的

* 摆るぎない: (4, 形)不变的, 不动摇的

* 摆るぎない愛情: (4+0)不变的爱

* 様: (2, 名)样子

* ちなみに: (0, 1, 接续)顺便提一句

* 荚: (1, 名)胡枝子

* 芒: (0, 名)芒草

* 葛: (1, 名)葛

* 藤袴: (3, 名)佩兰

* 裾: (3, 名)和服裙裤

* 桔梗: (0, 名)桔梗

N2 第 5 课 秋天的七种花草(语法)

おみなえし 女郎花

秋の野原にひっそりと佇む姿が若い女性にも例えられる花、オミナエシの色。透明感のある

黄色は、中秋の名月の色でもあります。

「秋の七草」にも数えられるオミナエシの花の色のよう、爽やかで涼しげな黄色です。平安時代

に誕生し、秋に身に着ける色とされました。「女郎」とは、身分の高い女性や若い女性のこと、

この花が静かに秋風に揺れるさまが例えられたといいます。ちなみに秋の七草とは「ハギ・ススキ・クズ・ナデシコ・オミナエシ・フジバカマ・キキョウ」のことです。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

女郎花

在秋天的原野里静静地伫立的样子被比做是年轻女性的花——女郎花，其颜色带着透明感的黄色，也是中秋明月的颜色。

像是被数进“秋七草”的女郎花的颜色那样清爽且让人感到凉爽的黄色。在平安时代诞生，被当作秋天着装的颜色。“女郎”指身份高的女性和年轻的女性，据说是这种花在秋风中安静地摇摆的样子而来。顺便提一句，秋七草指：胡枝子、芒草、葛、石竹、女郎花、佩兰、桔梗。

语法

1. 好像～

—げ

- * 解释: 気(感觉)
- * 意思: 感觉好像
- * 词性: 形容动词
- * 接续: 名词/形容动词词干/形容词词干/动词的连用形(ありげ) +

1. その小説には魔法の怪しげな雰囲気とワクワク感が詰まっています。

* 那本小说里全是魔法的让人感到怪异的气氛和兴奋感。

* 小説: (0, 名) 小说

* 魔法: (0, 名) 魔法

* 魔法瓶: (2, 名) 保温杯

* 怪しげ: (0, 形动) 令人感到怪异的，令人感到奇怪的，令人感到可疑的

* 雰囲気: (3, 名) 气氛

- * ワクワク感: (4, 名) 兴奋的感觉
- * わくわく: (1, 拟态) (因期待或喜悦等大的) 心情雀跃. [记]. わく(沸く)→わ(あ→上)+く(方向)
- * 詰まる: (2, 自五) 塞满, 填满

2. 博士は得意げにうなずいて答えた。

- * 博士好像很得意的样子点头回答。
- * 博士: (1, 名) 博士
- * 得意げ: (0, 形动) 给人得意的感觉
- * 得意: (2, 0, 名/形动) 拿手, 擅长; 得意, 得心应手
- * 頷く: (3, 0, 自五) 点头; 同意. [记]. うな(うえだ→上→项→脖子)+ずく(づく→つく→突く)→项部前突→点头
- * 答える: (3, 2, 他下一) 回答
- * 応える: (3, 2, 他下一) 回应, 反应

3. 大人気ない特徴として感情的で短絡的であることが挙げられる。

- * 没有大人样儿的特点是, 诸如有情绪化和武断。

* 大人気ない: (5, 形) 没大人样的

* 特徴: (0, 名) 特征, 特点

* 感情的: (0, 形动) 情绪化

* 短絡的: (0, 形动) 武断

* 挙げる: (0, 他下一) 举例; 举证; 检举; 举行

2. 下定义

～とは～ことだ。

* 解释: と(引号)+は(强调/大主语)+こと(事情)+だ(是)

* 推广: ～というのは～ことだ。

1. ニューセラミックスとは、陶磁器やガラス、レンガなど、熱処理をして作った固体の材料のことである。

* 新陶瓷是陶瓷器和玻璃、还有砖等, 经过热处理而制成的固体材料。

* ニューセラミックス: (5, 名/new ceramics) 新陶瓷器

* 陶磁器: (3, 名) 陶瓷器

* ガラス: (0, 名/荷兰语/glas) 玻璃

* 煉瓦: (1, 名) 砖

* 赤煉瓦: (3, 名) 红砖

* 热處理: (3, 名/他サ) 热处理

* 固体: (0, 名) 固体

* 材料: (3, 名) 材料

2. 「停車場」とは、上野駅のことだと言われています。

* 据说“停车场”是上野站。

* 停車場: (0, 名) 停车场

* 上野駅: (3, 名) 上野站

3. パンゲアとは、すべてが一つの大陸という意味である。

* 泛大陆的意思是所有的都是一个大陆。

* パンゲア: (1, 名/Pangaea) 泛大陆

* 大陸: (0, 名) 大陆

N2 第 6 课 秋天的七种花草(课文)

おみなえし 女郎花

あき のはら たたず すがた わか じよせい たと はな いろ とうめいかん
秋の野原にひっそりと佇む姿が若い女性にも例えられる花、オミナエシの色。透明感のある

きいろ ちゅうしゅう めいげつ いろ
黄色は、中秋の名月の色でもあります。

あき ななくさ かぞ はな いろ さわ すず きいろ へいあん じだい
「秋の七草」にも数えられるオミナエシの花の色のよう、爽やかで涼しげな黄色です。平安時代

たんじょう あき み つ いろ いらつめ みぶん たか じよせい わか じよせい
に誕生し、秋に身に着ける色とされました。「女郎」とは、身分の高い女性や若い女性のこと、

はな しづ あきかぜ ゆ たと あき ななくさ
この花が静かに秋風に揺れるさまが例えられたといいます。ちなみに秋の七草とは「ハギ・ススキ
・クズ・ナデシコ・オミナエシ・フジバカマ・キキョウ」のことです。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

女郎花

在秋天的原野里静静地伫立的样子被比做是年轻女性的花——女郎花，其颜色带着透明感的黄色，也是中秋明月的颜色。

像是被数进“秋七草”的女郎花的颜色那样清爽且让人感到凉爽的黄色。在平安时代诞生，被当作秋天着装的颜色。“女郎”指身份高的女性和年轻的女性，据说是这种花在秋风中安静地摇摆的样子而来。顺便提一句，秋七草指：胡枝子、芒草、葛、石竹、女郎花、佩兰、桔梗。

N2 第7课 夏天的问候(单词)

暑中見舞い

お世話になっている相手や親しい友人への、暑さをねぎらう便りは、もともとは直接訪問してあいさつしづらい遠方の人へのあいさつ状でした。それが遠方の相手にかぎらず、広く送られるようになったのは大正のころのよう。小暑までに出すのは梅雨見舞い、小暑から立秋までが暑中見舞い、立秋以降は残暑見舞い。ただ、小暑を過ぎてもまだ雨の日が続いているときは、梅雨明けを待って出すのがよさそうです。日付は書かず、〇〇年 盛夏と書き添えます。

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

夏天的问候

给平时关照自己的人和亲友发出的夏天问候函，过去是给无法直接拜访的远方之人的信。从寄给远方的亲友扩展到给众多人是在大正时期。在小暑之前发出的叫做梅雨问候，小暑到立秋之间的叫暑中问候，立秋以后叫残暑问候。但是过了小暑还一直下雨的话，最好等到梅雨季节过后寄出。不写日期，而是写上某年、盛夏。

单词

- * 暑中見舞い: (4, 名) 暑期问候
- * 見舞い: (0, 名) 看望; 慰问
- * 見舞う: (2, 0, 他五) 探望(病人等); (用被动式)遭遇. [记]. 見+舞う→巡视
- * 見舞われる: (4, 自下一) 遭遇
- * 世話: (2, 名/他サ) 照顾, 关照
- * 世話好き: (0, 形动) 爱照顾人
- * 世話を焼く: (2+0) 不嫌麻烦地帮助人
- * 余計なお世話: (0+2) 多管闲事
- * 余計なことを言わないで: (0+2+3) 别废话
- * 余計なことをしないで: (0+2+2) 别做多余的事
- * 相手: (0, 名) 对方, 对象
- * ~を相手にする: 理睬

- * 相手にしない: 不理睬
- * 親しい: (3, 形) 亲密的, 熟悉的. [记]. し(しん→親)+た(多)+し(像)→亲
- * 慕う: (0, 2, 他五) 仰慕, 敬慕, 爱慕. [记]. した(下)+う(状态)→在下面→仰→慕
- * 恋い慕う: (4, 他五) 爱慕
- * 友人: (0, 名) 朋友, 友人
- * 親友: (0, 名) 好友
- * 劳う/犒う: (3, 他五) 慰劳, 犒劳. [记]. ね(念)+ぎ(げ→给)+ら(拉)+う(状态)→精神慰劳
- * 劳を犒う: (1+3) 犲劳, 慰劳
- * 劳いの言葉: (3, 0+0) 慰劳的话
- * 便り: (1, 名) 书信, 消息. [记]. た(他)+よ(悠)+り(る→留→长)→到其他的地方→信
- * 直接: (0, 名/副) 直接
- * 訪問: (0, 名/他サ) 拜访; 访问
- * 挨拶: (1, 名/自サ) 打招呼; 致词
- * 挨拶状: (0, 名) 问候信
- * 遠方: (0, 名) 远方
- * 友遠方より来たる: (1+5+2) 有朋自远方来
- * 大正: (0, 名) 1912年7月30日至1926年12月15日。明治之后, 昭和之前。
- * 小暑: (1, 名) 小暑
- * 立秋: (0, 名) 立秋
- * 以降: (1, 名/副) 以后
- * 残暑: (1, 名) 秋老虎
- * 梅雨明け: (0, 名) 梅雨季节结束
- * 梅雨入り: (0, 名) 梅雨季节开始

- * 梅雨: (0, 名) 梅雨. [记]. つ(次)+ゆ(雨)→次于雨的东西→小雨→梅雨
- * 露: (1, 名) 露水; 短暂. [记]. つ(次)+ゆ(湯→水)→次于水→露
- * 麵つゆ: (3, 名) 面条佐料
- * 梅雨: (1, 名) 梅雨
- * 日付: (0, 名) (记载文书或信函等的)年月日, 日期
- * 日にち: (0, 名) 日子, 日期
- * まるまる: (0) 某某
- * まるまる: (0, 副) 整整
- * ある~: (1, 连体) 某~
- * 盛夏: (1, 名) 盛夏
- * 盛り: (0, 3, 名) 最盛时期, 壮年. [记]. さか(さく→咲く→开花)+り(る→留→长)→花开得长→盛
- * 育ち盛り: (4, 名) 正是长身体的时期
- * 働き盛り: (5, 名) 正是干工作的时期; 正是工作中出成绩的时期
- * 女盛り: (4, 名) 女人最美的时期或是最成熟的时期
- * 男盛り: (4, 名) 男人最好的时期, 一般指三四十岁
- * 菜の花は今が盛り: (1+2+1+0) 油菜花现在盛开
- * 盛ん: (0, 形动) 旺盛; 昌盛
- * 旺盛: (0, 名/形动) (气力或精力等) 旺盛
- * 繁盛: (1, 名/形动/自サ) 兴隆; 繁荣昌盛
- * 盛る: (0, 1, 他五) 盛入; 堆高. [记]. も(もの→物)+る(留→长)→盛
- * もり付ける: (4, 他五) 装盘
- * もり付け: (0, 名) 装盘
- * もりあわせる: (5, 0, 他下一) 拼盘
- * もりあわせ: (0, 名) 拼盘

* 盛り上る：(4, 0, 自五) 隆起，堆起；高涨，热闹

* 盛り上げる：(4, 他下一) 使堆起；使高涨，使热闹

* 盛り返す：(3, 他五) 重振旗鼓

* 書き添える：(4, 0, 他下一) 附带写上，补充写上

* 添える：(0, 2, 他下一) 添加，附加。[记]。そ(其)+え(挨)+る(留→长) → 在其旁边 → 添加

N2 第8课 夏天的问候(语法)

暑中見舞い

お世話になっている相手や親しい友人への、暑さをねぎらう便りは、もともとは直接訪問してあいさつしづらい遠方の人へのあいさつ状でした。それが遠方の相手にかぎらず、広く送られるようになったのは大正のころのよう。小暑までに出すのは梅雨見舞い、小暑から立秋までが暑中見舞い、立秋以降は残暑見舞い。ただ、小暑を過ぎてもまだ雨の日が続いているときは、梅雨明けを待って出すのがよさそうです。日付は書かず、〇〇年 盛夏と書き添えます。

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

夏天的问候

给平时关照自己的人和亲友发出的夏天问候函，过去是给无法直接拜访的远方之人的信。从寄给远方的亲友扩展到给众多人是在大正时期。在小暑之前发出的叫做梅雨问候，小暑到立秋之间的叫暑中问候，立秋以后叫残暑问候。但是过了小暑还一直下雨的话，最好等到梅雨季节过后寄出。不写日期，而是写上某年、盛夏。

语法

不限于～

～にかぎらず

* 解释：に(方向/対象)+限らず(限らない→限る)→不限于

* 接续：名词+

* 扩展：～限り(只要～)/～に限って(只限于)/～が限られている(～有限)/限られた～(有限的～)

1. 只要～

～限り、

* 解释：限り→极限→条件性强→只要

* 接续：谓语词（动词的简体/形容词/名词和形容动词+である）+

1. 親と一緒にいる限り、安心していられる。

* 只要和父母在一起，就能一直放心。

2. よほどのことがない限り、どたキャンすることはない。

* 只要没有特殊情况，不会临时取消。

* よほど：(0, 名/副)(程度非常超出)相当

* どたキャン：(0, 名/他サ)临时取消

3. 完璧主義をやめない限り、考え方過ぎる性格も直らない。

* 只要不放弃完美主义，考虑过多的性格就改不了。

* 完璧主義: (5, 名) 完美主义

* 完璧: (0, 名/形动) 完美

* 主義: (1, 名) 主义

* 考え過ぎる: (6, 他上一) 考虑得过多

2. 只限于～

～に限って

* 解释: に(方向/対象)+限って(只限)

* 意思: 只限于～；越是～越～

* 特点: 倾重于限定

* 接续: 名词+

1. 弱い人間とか未熟な人間に限って、遙かに膨れ上がる可能性を持っている。

* 越是弱小的人和不成熟的人越有可能特别膨胀。

* 遥か: (1, 形动) 遥远的。[记]. はる(张る)+か(加)→张开→遥

* 膨れる: (0, 自下一) (肚子、脸蛋儿、花粉管等)鼓起。[记]. ふく(吹く)+れ(来)+る(留→长)→吹起来→肿胀

* 膨れ上がる: (5, 自五) 鼓起；数量高涨；膨胀

* 可能性: (0, 名) 可能性

2. 大したことのない人間に限って、偉そうに振舞う。

* 越是小人物越是耀武扬威。

* 大した: (1, 连体) 大的

* 偉そう: (3, 形动) 摆出一副了不起的样子

* 振舞う: (3, 自五) 动作，举止。[记]. 振る(挥)+舞う→挥舞

3. 強い魂を持つ人に限って、人間関係で苦労することが多い。

* 越是拥有强大的灵魂的人，越是在人际关系上吃苦头。

* 魂 たましい : (1, 名) 灵魂. [记]. たま(魂/玉)+し(像)+い(一)

* 人間関係 にんげんかんけい: (5, 名) 人际关系

* 苦勞 くろう: (1, 名/自サ) 吃苦, 受苦

3. 未必

(かなら 必 はず しも / あなが 強 ち) ~ とは限らない。

* 解释: と(引号)+は(强调)+限らない(不限)

* 意思: 未必~

* 接续: 任何词+

1. いくらクリスマスイブだからって、みんなは幸 しあわ せになれるとは限らない。

* 即使是圣诞夜，大家也未必都能幸福。

* いくら~からって: (いくら~からと言って→いくら~からと言っても) 不管怎么说因为~

* クリスマスイブ: (6, 名/Christmas Eve) 圣诞夜

* クリスマス: (3, 名/Christmas) 圣诞节

2. 必 かなら ずしも事実に基づいた発言ばかり(だ)とは限らない。

* 未必全是基于事实的发言。

* 必 かなら ずしも: (4, 副) (后面接否定形) (未) 必

* 事実: (1, 名) 事实

* 基づく: (3, 自五) 基于, 根据, 按照. [记]. もと(元)+づく(つく→付く)→附着于原地→基于

* 発言: (0, 名/自サ) 发言

3. 必 かなら ずしも本音(だ)とは限らない。

* 未必就是真心话。

* 本音: (0, 名) 真心话, 心里话

* 建前: (3, 2, 名) 场面话

N2 第9课 夏天的问候(课文)

暑中見舞い

お世話になっている相手や親しい友人への、暑さをねぎらう便りは、もともとは直接訪問してあいさつしづらい遠方の人へのあいさつ状でした。それが遠方の相手にかぎらず、広く送られるようになったのは大正のころのよう。小暑までに出すのは梅雨見舞い、小暑から立秋までが暑中見舞い、立秋以降は残暑見舞い。ただ、小暑を過ぎてもまだ雨の日が続いているときは、梅雨明けを待って出すのがよさそうです。日付は書かず、〇〇年 盛夏と書き添えます。

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

夏天的问候

给平时关照自己的人和亲友发出的夏天问候函，过去是给无法直接拜访的远方之人的信。从寄给远方的亲友扩展到给众多人是在大正时期。在小暑之前发出的叫做梅雨问候，小暑到立秋之间的叫暑中问候，立秋以后叫残暑问候。但是过了小暑还一直下雨的话，最好等到梅雨季节过后寄出。不写日期，而是写上某年、盛夏。

N2 第 10 课 盖房子的不容易(单词)

家を建てた人が、楽にその家を建てたか、それとも、かなり苦しい思いをして建てたかという
ことは照明器具を見ればわかるという。そういう目で見たことはないが、そういうもんだそうだ。
建築でいえば、照明の取り付けが最後になる。従って、だんだんに資金につまつくると、
最後のところでお粗末になる。

(山口瞳『男性自身 困った人たち』新潮文庫による)

盖了房子的人是轻松地盖的，还是历经痛苦盖的，据说从照明器具就能看出来。虽然我没有用那种眼光看过，但是听说就是那么回事。

在建筑上的话，安装照明是最后的工程。从而，资金变得紧张的话，在最后的时候就会敷衍了事。

单词

- * 楽: (2, 名/形动) 安乐，舒服
- * それとも: (3, 接续) (用于疑问句之间) 还是
- * かなり: (1, 副) 相当. [记]. か(加)+なり (「也」→是)→相当
- * 相当: (0, 名/自サ/形动/副) 相当
- * だいぶ: (0, 副) (侧重变化) 相当
- * 随分: (1, 副) (侧重超出) 相当
- * 遥かに: (1, 副) (侧重比较) 遥远
- * 余程: (0, 名/副) (程度相当高) 相当
- * よっぽど: (0, 名/副) 余程的口语
- * よっぽどのことがなければ: 如果没有特殊情况的话
- * とても~ない/なかなか~ない: 怎么也不~
- * 甚だ: (0, 副) 甚，非常，极其. [记]. はなはだ(はしだはしだ→端だ端だ)→极端
- * 甚だしい: (5, 形) 甚的，非常的. [记]. はなはだ(はしだはしだ→端だ端だ)+し(像)→极端
- * 凄まじい: (4, 形) 骇人听闻的；凶猛的，猛烈的. [记]. す(死→非常)+さ(那么)+ま(满)+し(像)+浊音(加重)→非常
- * 凄い: (2, 形) 厉害的；出色的；可怕的. [记]. す(死→非常)+ご(过)→特别超过→厉害
- * 照明器具: (5, 名) 照明器具
- * 照明: (0, 名) 照明；灯

- * 明かり： (0, 名) 光亮，灯光
- * 点く： (2, 1, 自五) 点燃
- * 点る/灯る： (2, 0, 自五) 点燃
- * 点す/灯す： (2, 0, 他五) 把～点燃
- * 心に点る明かり： (2+2+0) 心里点燃的明灯；心灵鸡汤
- * 建築： (0, 名/他サ) 建筑
- * 築く： (2, 他五) 构筑，打造(关系、团队)，营造(气氛)，建立(社会，家庭等). [记]. き(城)+づく(突く)→累城堡→构筑
- * 建立： (0, 名/他サ) 建立
- * 建立： (0, 名/他サ) 建立寺庙殿堂塔等
- * 取り付け： (0, 名) 安装
- * 取り付ける： (0, 4, 他下一) 安装；(从常去的固定商店)购买
- * 据え付ける： (4, 他下一) 安装
- * 据える： (0, 他下一) 安上，(坐、放)稳；稳住(气). [记]. す(其)+え(挨)+る(留→长)→放→据
- * 目を据える： (1+0) 定睛，注视
- * 腰を据える： (0+0) 坐稳；集中精力
- * 取り壊す： (4, 0, 他五) 拆除(建筑物)
- * 従う： (3, 0, 自五) 服从，跟随；随着. [记]. した(下)+が(状态)+う(状态)→下面的状态→随从
- * 従つて： (0, 3, 接续) 从而
- * 従順： (0, 名/形动) 顺从
- * 従順で優しい： 温顺
- * 柔順： (0, 名/形动) (性格、态度等) 柔顺，温顺
- * 資金： (2, 1, 名) 资金

* 頭金: (0, 名) 首付

* 元金: (0, 名) 本金

* やり繰り: (2, 0, 名/他サ) 周转

* 資金繰り: (0, 名) 周转资金

* 粗末: (1, 名/形动) 粗糙, 简陋; 糟蹋不爱惜物品

* ぞんざい: (3, 0, 形动) 粗枝大叶, 粗糙; 粗暴, 不用心, 不细致

N2 第 11 課 盖房子的不容易(语法)

家を建てた人が、らくにその家を建てたか、それとも、かなりくろいをして建てたかということは照明器具を見ればわかるという。そういう目で見たことはないが、そういうもんだそうだ。建築といえば、照明の取り付けが最後になる。従って、だんだんに資金につまつくると、最後のところでお粗末になる。

(山口瞳『男性自身 困った人たち』新潮文庫による)

盖了房子的人是轻松地盖的，还是历经痛苦盖的，据说从照明器具就能看出来。虽然没有用那种眼光看过，但是听说就是那么回事。

在建筑上的话，安装照明是最后的工程。从而，资金变得紧张的话，在最后的时候就会敷衍了事。

语法

1. 经历心情～

～おも思^いをする

- * 解释：思^い(心情)+を(接在他动词前的助词)+する(经历)→经历心情
- * 接续：形容词+；形容动词+な+
- * 特点：1. 前面常接表示消极心情的词
2. する代替的是他动词「経験する」，所以前面用助词を，而不是表示小主语的助词が。

1. あの時、思^い切り本心をさらけ出して、悔^{くや}しい思^いをしなかった。

* 那个时候痛痛快快地道出了心里话，没有留下遗憾。

* 思^い切り：(0, 副)痛痛快快地

* 本心：(1, 0, 名)本心

* 曝^{さら}け出す：(4, 他五)暴露出；揭露。[记]。曝^け(さら→拉走沙子→治理河床→河床暴露→暴露；け→开)+出す→暴露出

* 悔^{くや}しい：(3, 形)悔恨的；遗憾的；窝心的；懊恼的；搓火的

2. こんな(に)辛^{つら}い思^いをするくらいなら、最初から出会わなきやよかったのに。

* 要是这么痛苦，还不如当初没有遇到。

* 出会う：(2, 自五)邂逅，相遇

3. 嫌^{いや}な思^いをさせられたら、許^{ゆる}して忘^{わす}れるべきですか？

- * 如果有人给你带来了厌恶的心情，你应该原谅 TA 并且选择遗忘吗？
- * 許す: (2, 他五) 允许，准许，同意；原谅。[记] ゆ(裕)+る(留)+す(做) → 使宽裕

2. 漸渐～

- だんだんーてくる、だんだんーていく**
- * 解释：表示“渐渐”的副词要和句尾的表示时间的推移的语法ーてくる和ーていく一起使用
 - * 接续：比だんだん语气正式生硬的是次第に

2.1 一次第、

- * 解释：次第 → 接下来 → 下一步
- * 意思：接下来；一～就～
- * 特点：语气正式生硬
- * 接续：动词的连用形 +

1. わかり次第、ご報告します。

- * 知道了就跟您汇报。
- * 報告: (0, 名/他サ) 报告，汇报

2. 決まり次第、お知らせします。

- * 定下来就通知您。
- * 決まる: (0, 自五) 定下来
- * 決まり: (0, 名) 决定；规定；结果；定了的事
- * 定める: (3, 他下一) 定；决定；规定；制定。[记] さ(そ)+だ(是)+める(む→凶) → それだ → 就是他 → 定
- * 定まる: (3, 自五) 定下来；安定；平静。[记] さ(そ)+だ(是)+まる(む→凶) → それだ → 就是他 → 定
- * 定め: (0, 名) 规定；命运
- * 捉: (0, 名) 规矩；处置；心理准备。[记] おき(置き→定)+て(手→才) → 才+定→捉→制定
- * 知らせる: (0, 他下一) 通知；告知

3. 会社に戻り次第、お電話します。

- * 回公司就给您打电话。

2.2 ~次第です。

* 解释: 次第→接下来→下一步→看~而定

* 接续: 名词+

1. 結果が思い通りになるかどうかは、努力次第です。

* 结果是否会如意要看努力的程度了。

* 結果: (0, 名)结果

* 思い通り: (4, 名/形动)如意, 如愿

2. 信じるか信じないかはあなたの次第です。

* 信不信由你。

3. 地獄の沙汰も金次第。

* 有钱能使鬼推磨。

* 地獄: (0, 3, 名)地狱

* 沙汰: (2, 1, 名)分辨好坏后采取的行动; 音讯

* ご無沙汰しております: 旧疏问候

* 狂気の沙汰: (1+2, 名)发狂的行为

N2 第 12 課 盖房子的不容易(课文)

家を建てた人が、楽にその家を建てたか、それとも、かなり苦しい思いをして建てたかということは照明器具を見ればわかるという。そういう目で見たことはないが、そういうもんだそうだ。建築といえば、照明の取り付けが最後になる。従って、だんだんに資金につまつくると、最後のところでお粗末になる。

(山口瞳『男性自身 困った人たち』新潮文庫による)

盖了房子的人是轻松地盖的，还是历经痛苦盖的，据说从照明器具就能看出来。虽然没有用那种眼光看过，但是听说就是那么回事。

在建筑上的话，安装照明是最后的工程。从而，资金变得紧张的话，在最后的时候就会敷衍了事。

N2 第 13 课 雨水和农耕(单词)

雨水

うすい ふゆき あめ か こおり と だ むかし きせつ のうこう じゅんび
雨水とは、降る雪が雨へと変わり、氷が解け出すころのこと。昔からこの季節は農耕の準備
をはじめる目安とされてきました。

獭魚を祭る

しちじゅうにこう ちゅうごく にほん でんらい こよみ ちゅうごく こだい てんもんがく しちじゅうにこう
そもそも七十二候は、中国から日本に伝來した暦。中国古代の天文学による七十二候では、
うすい しょこう だっさいぎょ かわうそ さかな とら さかな きし なら あと た
雨水の初候は獭祭魚でした。獭は魚をよく捕えるものの、魚を岸に並べた後なかなか食べよう
としません。それが祭の供え物のように見えたことから、獭が先祖の祭をしているといつて、
この季節の名が生まれたそうです。

ちゃき おそ まつり なら かた まさおか し き
茶器どもを獭の祭の並べ方 正岡子規

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

雨水

雨水这个节气指的是降雪变成雨、冰开始融化的时候。从古至今一直把这个季节当做开始准备农耕的大致基准。

水獭祭祀鱼

说起来，七十二候是从中国传入日本的日历。根据中国古代天文学的七十二候，雨水的初候是獭祭鱼。水獭虽然能捕鱼，但是却把鱼摆到岸边不吃。因为像是祭祀时供品的样子，所以都说水獭在祭祀祖先，这个季节因此得名。

茶具都是水獭祭祀的摆法 正岡子规

单词

* 雨水: (1, 名) 24 节气中的雨水。大致是阳历的 2 月 18, 19 日左右。

* 雨水: (2, 名) 雨水

* 雨具: (2, 名) 雨具

* 雨靴: (2, 名) 雨鞋

* 雨宿り: (3, 名/自サ) 避雨

* 宿る: (2, 自五) 住宿; 寄居; 怀孕. [记]. や(夜)+と(止→泊)+浊音(拖泥带水→有关)+る(留→长)
→夜里停泊→宿

* 氷: (0, 名) 冰. [记]. こ(固)+おる(折る→转折→变化)→变成固体→冰

- * **凍る**: (0, 自五) 冻
- * **凍える**: (0, 自下一) 冻僵. [记]. こ (固→固体)
- * **凍りつく**: (4, 自五) 冻住
- * **凍てつく**: (0, 3, 自五) 冻住. [记]. い(一→一个固体)
- * **溶け出す**: (2, 名) 开始融化
- * **溶ける**: (2, 自下一) 溶解. [记]. とけ(脱开)+る(留→长)→溶解
- * **解ける**: (2, 自下一) 解开
- * **溶かす**: (2, 他五) 使溶解, 使融化. [记]. と(脱)+か(加)+す(做)→脱落→溶解
- * **解く**: (1, 他五) 解开, 解题. [记]. と(脱)+く(开)→解开
- * **とろける**: (3, 0, 自下一) 溶化; 心神荡漾. [记]. とろける(脱落开来)
- * **農耕**: (0, 名) 农耕
- * **耕す**: (3, 他五) 耕, 耕作. [记]. た(田)+がやす(かえす→返す)→翻田→耕
- * **目安**: (0, 1, 名) 大致基准
- * **獺**: (0, 名) 水獭. [记]. かわ(川/河)+うそ(おそ→おそろしい)→生长在河里、看着害怕的动物
- * **獺**: (2, 0, 名) 水獭
- * **恐れる**: (3, 他下一) 害怕
- * **恐れ**: (3, 名) 恐怕, 不好的可能形
- * **おそろしい**: (4, 形) 可怕的, 恐怖的
- * **恐らく**: (2, 副) 恐怕
- * **魚**: (0, 2, 名) 鱼. [记]. う(字/雨/鱼)
- * **獺祭魚**: (3, 名) 獺祭鱼
- * **祭る**: (0, 他五) 祭祀
- * **祭り**: (0, 名) 祭祀活动
- * **そもそも**: (1, 接续/副) 说起来/最初

- * 七十二候: (5, 名) 72 侯。把 24 节气再分别分成 3 等份。
- * 伝来: (0, 名/自サ) 传来
- * 曆: (0, 名) 日历. [记]. こ(か→日)+よみ(読み)→读日子→日历
- * 花曆: (3, 名) 关于开花的日历
- * カレンダー: (2, 名/calendar) 日历
- * 古代: (1, 名) 古代
- * 天文学: (3, 名) 天文学
- * 文学: (0, 名) 文学
- * 初候: (0, 名) 初候; 在 72 候当中, 把节气用 5 天分等分后的第一个
- * 捕える: (3, 他下一) 捕捉(东西), 抓住(东西). [记]. と(て→手→才)+ら(拉)+へ(挨)+る(留→长)
- * 捉える: (3, 他下一) 理解(意思、心思、语气)
- * 捉え方: (0, 名) 理解方式
- * 岸: (2, 名) 岸. [记]. き(きる→切る)+し(细)→切断水的地方→岸
- * 岸辺: (0, 3, 名) 岸边
- * 並べる: (0, 他下一) 摆, 把~排列. [记]. な(那→长)+ら(拉)+べ(摆)+る(留→长)→摆
- * 並ぶ: (0, 自五) 排队
- * 並べ方: (0, 名) 摆的方式, 排列方式
- * 供え物: (0, 5, 名) 供品
- * 供える: (3, 他下一) 上供. [记]. そ(其)+な(那)+え(挨)+る(留→长)→往那个上→上供
- * 供物: (1, 名) 供品
- * 茶器: (1, 名) 茶具
- * 正に: (1, 副) 确实, 就是. [记]. ま(真)+さ(そ→其)+に(副词)→真→正
- * 正しく: (2, 副) 确实
- * まさか: (1, 副) 怎么可能

* 岡/丘/陵: (0, 名) 丘陵, 山丘. [记]. オ (根据嘴型→圆) + カ (加) → 圆的高的→丘

N2 第 14 课 雨水和农耕(语法)

うすい 雨水

うすい ふゆき あめ か こおり と だ むかし きせつ のうこう じゅんび
雨水とは、降る雪が雨へと変わり、氷が解け出すころのこと。昔からこの季節は農耕の準備
をはじめる目安とされてきました。

かわうそ まつ 獭魚を祭る

しちじゅうにこう ちゅうごく にほん でんらい こよみ ちゅうごく こだい てんもんがく しちじゅうにこう
そもそも七十二候は、中国から日本に伝來した暦。中国古代の天文学による七十二候では、
うすい しょこう だつさいぎよ かわうそ さかな とら さかな きし なら あと た
雨水の初候は獭祭魚でした。獭は魚をよく捕えるものの、魚を岸に並べた後なかなか食べよう
としません。それが祭の供え物のように見えたことから、獭が先祖の祭をしているといつて、
この季節の名が生まれたそうです。

ちゃき おそ まつり なら かた まさおか しき
茶器ともを獭の祭の並べ方 正岡子規

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

雨水

雨水这个节气指的是降雪变成雨、冰开始融化的时候。从古至今一直把这个季节当做开始准备农耕的大致基准。

水獭祭祀鱼

说起来，七十二候是从中国传入日本的日历。根据中国古代天文学的七十二候，雨水的初候是獭祭鱼。水獭虽然能捕鱼，但是却把鱼摆到岸边不吃。因为像是祭祀时供品的样子，所以说水獭在祭祀祖先，这个季节因此得名。

茶具都是水獭祭祀的摆法 正岡子规

语法

1. 强调“虽然”～

～ものの、

* 解释：もの(强调)+の(が→表示逆接的接续助词→虽然)→强调“虽然”

* 接续：谓语词(形容词/动词+；形容动词+である+)

1. 辛い思いをたくさんしたものの、やっぱり自分を曲げることができない。

* 虽然经历了很多痛苦，但还是不能委曲自己。

* 曲げる：(0, 他下一)使弯曲；歪曲；放弃。[记]。ま(满→圆)+げ(给)+る(留→长)→使弯曲

* 曲がる：(0, 自五)弯曲；拐弯

2. あの庭園は戦争で打撃を受けたものの、復元されて、現在は美しい姿を湛えている。

* 那个庭园虽然在战争中受到了打击，但是被修建后，现在非常美。

* 戰爭: (0, 名) 战争

* 打擊: (0, 名) 敲打; 打击

* ショック: (1, 名/shock) 打击

* 復元: (0, 名/自他サ) 复原

* 姿: (1, 名) 姿势, 样子, 身影

* 湛える: (0, 3, 2, 他下一) 装满; 洋溢. [记]. た(多)+た(多)+え(挨)+る(留→长)→满

3. 車夫が早く車を止めたからよかつたものの、そうでなかつたら、ひっくり返って頭を割るほど
の事故になったかもしれない。

* 幸而车夫早有点停步，否则伊定要栽一个大斤头，跌倒头破血出了。

* 車夫: (1, 名) 车夫

* ひっくり返る: (5, 自五) (翻) 倒; (颠) 倒. [记]. 引き(拉)+繰り返る(反复)→(翻) 倒

* ひっくり返す: (5, 他五) 使(翻) 倒; 使(颠) 倒. [记]. 引き(拉)+繰り返る(反复)→(翻) 倒

* 繰り返す: (3, 他五) 反复

* 事故: (1, 名) 事故

2. 一点儿～的意思都没有

—ようとしない

* 解释: 意志形—ようとする的否定形式(will not), 否定后边

* 意思: 一点儿～的意思都没有

* 特点: 完全否定

しまいとする

* 解释: 意志形—ようとする的否定形式(will not), 否定前边

* 意思: 不想要～

* 接续: 五段动词+一段动词去掉结尾る+/しまい, するまい, すまい/来るまい, 来るまい

1. 彼女は人の話を聞こうとしません。

* 她根本没有听别人的话的意思。

2. 彼女は反対意見を受け入れようとしない。

* 她一点儿都不接受反对意见。

* 反対: (0, 名/自サ) 反対

* 反対意見: (5, 名) 反対意見

3. 親に経済的な負担をかけまいとして自力で生活費を稼いでいる。

* 为了不给父母增添经济上的负担，我通过自己的力量挣生活费。

* 経済: (1, 名) 经济

* 経済的: (0, 形动) 经济上的

* 負担: (0, 名/他サ) 负担

* 被る: (2, 他五) 盖，罩，戴；使蒙受。[记]。か(加)+ぶ(布)+る(留→长)→添加一块布→覆盖

* 被さる: (3, 自五) 蒙上，罩上；增添负担

* 自力: (0, 名) 自己的能力

* 生活費: (4, 名) 生活费

4. 涙を見られまいとして彼は顔を背けた。

* 他不想让别人看到自己的眼泪，因此把脸转了过去。

* 背ける: (3, 他下一) 把～转向别处。[记]。そ(其)+むける(向ける)→冲其他方向

3. 因为；由～得出

～ことから、

* 解释: こと(名词化)+から(因为/从)

* 接续: 修饰名词的方式+

* 语气: 正式生硬

1. カモメが翼を動かさないで飛ぶことから、グライダーを考え出した。

* 从海鸥不动翅膀飞行想出了滑翔机。

* カモメ: (0, 名) 海鸥

* 翼: (0, 名) 翅膀；机翼。[记]。つば(翅膀)+さ(さす→差す)→翅膀伸出

* グライダー: (2, 0, 名/glider) 滑翔机

2. 店の前にいつも行列ができるから、人気のある店だとわかった。

* 从店前总是排长队这个现象知道了这是家有人气的店。

* 行列: (0, 名) 队伍，行列

N2 第 15 课 雨水和农耕(课文)

雨水

雨水とは、降る雪が雨へと変わり、氷が解け出すころのこと。昔からこの季節は農耕の準備をはじめる目安とされてきました。

獭魚を祭る

そもそも七十二候は、中国から日本に伝來した暦。中国古代の天文学による七十二候では、雨水の初候は獭祭魚でした。獭は魚をよく捕えるものの、魚を岸に並べた後なかなか食べようとしません。それが祭の供え物のように見えたことから、獭が先祖の祭をしているといつて、この季節の名が生まれたそうです。

茶器ともを獭の祭の並べ方 正岡子規

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

雨水

雨水这个节气指的是降雪变成雨、冰开始融化的时候。从古至今一直把这个季节当做开始准备农耕的大致基准。

水獭祭祀鱼

说起来，七十二候是从中国传入日本的日历。根据中国古代天文学的七十二候，雨水的初候是獭祭鱼。水獭虽然能捕鱼，但是却把鱼摆到岸边不吃。因为像是祭祀时供品的样子，所以都说水獭在祭祀祖先，这个季节因此得名。

茶具都是水獭祭祀的摆法 正岡子规

N2 第 16 课 母子心理的不合拍(单词)

おさな 幼い子どもに おとうと 弟 や 妹 ができると、赤ん坊に戻ったように振る舞うことがある。それまで

じぶん 自分の世話をだけをしてくれていた母親が、生まれたばかりの弟 や 妹 の世話で忙しくなる。

あか 赤ん坊に戻って、自分も同じように母親に世話をしてもらいたいと思うのだろう。
ははおや 母親は、どの子も同じように育てているつもりである。しかし、子どもにはそのことがわからぬ
いので、自分は大切にされていないと思い、不安になるのだろう。

小孩子有了弟弟妹妹以后，有时候会采取一些像是回到婴儿时期般的举动。妈妈过去一直只照顾自己，但是现在却忙着照顾刚出生的弟弟或妹妹。小孩子可能想着如果返回到婴儿时期就能让妈妈同样照顾自己了吧。

妈妈认为自己对每个孩子都是一视同仁。可是，孩子却不明白这一点，他们会因为感觉到妈妈不重视自己了而变得不安吧。

单词

* 赤ん坊: (0, 名) 婴儿

* 赤ちゃん: (1, 名) 婴儿

* 赤の他人: (1+0, 名) 毫无关系的人；外人

* 赤信号: (3, 名) 红灯

* 青信号: (3, 名) 绿灯

* 赤裸々: (0, 名/形动) 赤裸裸；毫无遮掩，毫无隐瞒

* 振る舞う: (3, 自五) 动作，举止. [记]. 振る(挥)+舞う→挥舞

* 振りかける: (4, 他下一) 撒上

* ふりかけ: (0, 名) 拌饭料

* 振りかざす: (4, 他五) 挥起，抡起；大肆宣扬. [记]. 振り(挥)+か(加)+ざす(指)→使劲挥舞

* 振り回す: (4, 3, 他五) 举起来转动；牵着鼻子走. [记]. 振り(甩)+回す(转)

* 振り回される: (6, 自下一) 被牵着鼻子走

* 振り向く: (3, 自五) 回头看，转头看. [记]. 振り(甩)+向く→回头看

* 振替: (0, 名) 转账

- * 振り替える: (4, 3, 他下一) 银行转账. [记]. 振り(甩)+替える(换える)→转账
- * 振り返る: (3, 他五) 回首(往事). [记]. 振り(甩)+返る→回头看
- * ふり: (0, 2, 名) (做出来的)样子
- * ～ふりをする: 装～
- * 一ぶる: 装～
- * 素振り: (1, 0, 名) 样子. [记]. そ(其)+振り(样子)→他的样子
- * 手振り: (1, 名) 手势; 字体
- * 身振り: (1, 名) (表达感情或意向)身体动作
- * 仕事ぶり: (0, 名) 工作状态
- * 勉強ぶり: (9, 名) 学习状态
- * 世話: (2, 名/他サ) 照顾
- * 面倒: (3, 名/形动) 照顾
- * 面倒を見る: (3+1) 照顾
- * 面倒見がいい: (0, 3) 会照顾人, 体贴
- * 面倒臭い: (6, 形) 麻烦
- * 面倒臭がる: (7, 他五) 觉得麻烦
- * 面倒臭がり: (0, 名) 觉得麻烦
- * ややこしい: (4, 形) 繁杂的, 复杂的; (事、人) 麻烦的
[记]. や(小)+や(小)+こ(小)+し(像)→全都是小的→杂
- * 煩わしい: (5, 0, 形) (烦)繁琐的, 心烦的
[记]. わ(あ→上)+ず(啧)+ら(拉)+わ(あ→上)+し(像)→一直发出啧啧声→烦
- * 患う: (3, 0, 自他五) 患
- * 忙しい: (4, 形) 忙
- * 多忙: (0, 形动) 很忙
- * 忙しい: (3, 形) 忙, 忙碌, 匆忙. [记]. せ(塞)+わ(あ→上)→塞满
- * 同じ: (0, +名/形动) 同样. [记]. お(大)+な(那)+じ(及)→和那个一样

* **同じく**: (2, 副/接续) 同样

* **同様**: (0, 形动) 同样

* **同等**: (0, 形动) 同等

* **等しい**: (3, 形) 平等的; 相等的. [记]. ひと (ひとつ→一つ)+し(像)→同一个

* **平等**: (0, 形动) 平等

* **平等に扱う**: (0+3) 平等地对待

* **公平**: (0, 形动) 公平

* **平ら**: (0, 形动) 平, 平坦. [记]. たい(太→太平)+ら(拉)→平

* **平たい**: (0, 3, 形) 平的, 平坦的. [记]. ひら(開)+たい(太→太平)→平

* **平屋**: (0, 名) 平房

* **育てる**: (3, 他下一) 养育, 培育

* **育つ**: (2, 自五) 生长

* **育ち**: (3, 名) 生长; 成长的环境

* **躾**: (0, 名) 家教, 管教

* **躾ける**: (3, 他下一) 管教

* **育む**: (3, 他五) 培育, 养育, 培养

* **培う**: (3, 他五) 培养, 培育

* **育成**: (0, 名/他サ) 培育(人才)

* **養成**: (0, 名/他サ) 培养(人才、精神)

* **大切**: (0, 形动) 重要

* **肝心**: (0, 形动) 重要; 关键

* **肝要**: (0, 形动) 重要; 关键

N2 第 17 课 母子心理的不合拍(语法)

おさな 幼い子どもに おとうと 弟や妹ができると、赤ん坊に戻ったように振る舞うことがある。それまで

じぶん 自分の世話をだけをしてくれていた母親が、生まれたばかりの弟や妹の世話で忙しくなる。

あか 赤ん坊に戻って、自分も同じように母親に世話をしてもらいたいと思うのだろう。
ははおや 母親は、どの子も同じように育てているつもりである。しかし、子どもにはそのことがわからぬ
いので、自分は大切にされていないと思い、不安になるのだろう。

小孩子有了弟弟妹妹以后，有时候会采取一些像是回到婴儿时期般的举动。妈妈过去一直只照顾自己，但是现在却忙着照顾刚出生的弟弟或妹妹。小孩子可能想着如果返回到婴儿时期就能让妈妈同样照顾自己了吧。

妈妈认为自己对每个孩子都是一视同仁。可是，孩子却不明白这一点，他们会因为感觉到妈妈不重视自己了而变得不安吧。

语法

1. 有时～

～ことがある

* 解释：こと(事情、情况、时候)

* 意思：有时

* 接续：动词的一般现在时的简体

* 注意：することがある(有时做)和したことがある(做过)的区别

1. 朝早く家を出ることがありますが、電車は混んでいなくて快適です。

* 有时候早晨很早出家门，电车里人不多，很舒适。

* 快適：(0, 形动) 舒适

* 快適性：(0, 名) 舒适性

* 心地よい：(4, 形) 心里舒服

* 居心地：(0, 名) 待着的心情

* 坐り心地：(0, 名) 坐着的感觉

* 使い心地：(0, 名) 用着的感觉

2. 学校のパソコンはときどきフリーズすることがある。

* 学校的电脑有时死机。

* 時々: (0, 名/副) 有时

* フリーズ: (2, 名/自サ/freeze) 冷冻; 死机

3. あの子は怒りん坊で、急に切れることがある。

* 那孩子特爱发脾气，有时候突然就急眼。

* 怒りん坊: (3, 名) 爱生气的人

* 切れる: (2, 自下一) 断; 用尽; 脑子好使, 思维敏捷; 急眼

* 逆切れ: (0, 名/自サ) 倒打一耙

* ぶち切れ: (0, 名/自サ) 突然急眼

4. できれば毎週会いたいけど、いろいろ事情があって、二週間か三週間にぶりに会うことがある

から、すごく寂しい。

* 如果可能的话，我希望每周都见面，但是因为各种特殊情况，有时候两三周才见一面，这让我感觉非常寂寞。

* 一ぶり: (0, 名/语法) 隔～

2. 强烈的意愿和心情

～つもり

* 特点: 强烈

1. 結果はどうであろうが、わたしは事実を述べたつもりです。

* 不管结果如何，我觉得自己阐述了事实。

* 結果: (0, 名) 结果

* 事実: (1, 名) 事实

* 述べる: (2, 他下一) (叙, 阐) 述. [记]. の(な→那→长)+べ(边)+る(留→长)→述

2. わたしは断ったつもりだけど、相手には通じていないみたい。

* 我觉得我拒绝了对方，但是对方好像没明白我的意思。

* 断る: (3, 他五) 谢绝, 拒绝. [记]. こと(言)+割る(打碎)→在语言上打碎→拒绝

* 相手: (3, 名) 对象; 对方

* 通じる: (0, 自上一) 通

3. 前の日に完全に覚えたつもりだったけど、試験では思い出せなかった。

* 我觉得前一天的时候我完全都记住了，但是考试的时候没想起来。

* 前の日：(4, 名)前一天

* 次の日：(2, 名)第二天；接下来的一天

* 試験：(2, 名/他サ)试验；考试

* 思い出す：(4, 0, 他五)想起来

* 思い付く：(4, 0, 他五)想到

* 思い当たる：(5, 0, 他五)(从自己的记忆或经历对问题的核心所在)想出，想到

4. 冗談のつもりで言ったけど、誤解されてひどく怒られた。

* 我本来是开玩笑的，但是被对方误解了，他非常生气。

* 冗談：(3, 名)玩笑

* ふざける：(3, 自下一)嬉皮笑脸

* からかう：(3, 他五)戏弄；揶揄。[记]。から(空)+かう(買う)→买空卖空→戏弄

* 誤解：(0, 名/他サ)误解

N2 第 18 课 母子心理的不合拍(课文)

おさな 幼い子どもに おとうと 弟 や 妹 ができると、赤ん坊に戻ったように振る舞うことがある。それまで

じぶん 自分の世話をだけをしてくれていた母親が、生まれたばかりの弟 や 妹 の世話で忙しくなる。

あか 赤ん坊に戻って、自分も同じように母親に世話をしてもらいたいと思うのだろう。
ははおや 母親は、どの子も同じように育てているつもりである。しかし、子どもにはそのことがわからぬ
いので、自分は大切にされていないと思い、不安になるのだろう。

小孩子有了弟弟妹妹以后，有时候会采取一些像是回到婴儿时期般的举动。妈妈过去一直只照顾自己，但是现在却忙着照顾刚出生的弟弟或妹妹。小孩子可能想着如果返回到婴儿时期就能让妈妈同样照顾自己了吧。

妈妈认为自己对每个孩子都是一视同仁。可是，孩子却不明白这一点，他们会因为感觉到妈妈不重视自己了而变得不安吧。

N2 第 19 课 雨水和植物(单词)

しだいに やわらぐ 陽光の下、草木が 芽吹き出す ころ。冬の間に 蕴えていた 生命の 息吹が 外へ 現
れはじめる 季節。

雨水のこの時期に 降る 雨を、木の 芽起こしといいます。植物が 花を咲かせる ための大切な雨で、
木の芽が 膨らむのを 助ける ように 降ることから その名で 呼ばれます。また 催花雨とも 木の芽萌やし
とも。植物にとって、ひと雨ごとに 春が 来る ころ。

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

雨水指的的是在渐渐柔和的阳光下，草木开始发芽的时候。是冬天储备的生命的气息开始往外出现的季节。

把雨水时期降的雨称作唤醒树芽。这是为了植物开花而下的非常重要的雨，因帮助树上的嫩芽鼓起而得名。此外还叫做催花雨和树芽萌。对于植物来说，在这个时候每下一场雨都意味着春天的来临。

单词

* 次第に： (0, 副) 逐渐，渐渐

* 柔らぐ/和らぐ： (3, 自五) 变得柔软；变得缓和

* 和らげる： (4, 他下一) 使变得缓和

* 和む： (2, 自五) 和谐，安详，心里舒服

[记]. な(那→长)+こ(地方)+浊音(拖泥带水→有关)+む(闷)→长时间在一个地方→和

* 癒す： (2, 他五) 治愈(病；痛苦等)

* 癒される： (4, 自下一) 被治愈(病；痛苦等)

* 陽光： (0, 名) 阳光

* 日差し： (0, 名) 日光，光线. [记]. さ(さき→先)+す(すぐ)→前面，直的→指向。日+差す→光线

* 日当たり： (0, 名) 采光. [记]. あ(上)+た(て→手)+り(る→留→长)→把手伸开→大面积地接触

* 元/本： (2, 0, 名) 根源；原来的状态；根本

* 下： (2, 名) (用于抽象事物)下；跟前

* 草木： (2, 名) 草木

* 草分け： (0, 名) 开拓(者)；创始人

- * 芽吹き出す: (4, 自五) 开始发芽
- * 芽吹く: (2, 自五) 发芽
- * 芽: (1, 名) 芽
- * 蓄える: (4, 3, 他下一) 储蓄, 积蓄. [记]. た(多)+くわえる(加える)→多加→蓄
- * 蓄え: (3, 4, 0, 名) 储蓄; 积蓄
- * 重ねる: (0, 他下一) 重叠; 积累. [记]. か(加)+さ(そ→其)+ね(捻)+る(留→长)→使重叠
- * 重なる: (0, 自五) 重叠; 积累. [记]. か(加)+さ(そ→其)+な(那→长)+る(留→长)→重叠
- * 積む: (0, 他五) 堆积(东西); 积累(经验). [记]. つ(次)+む(闷)→一次闷→积累
- * 積もる: (2, 0, 自五) 积(雪、灰尘); 积累(话题、仇恨、岁月)
[记]. つ(次)+も(猛)+る(留→长)→积
- * 積み重ねる: (5, 他下一) 堆积; 积累(疲劳、努力等)
- * 積み重なる: (5, 自五) 堆积; 积累(疲劳、努力等). [记]. 積み+重なる→重叠积
- * 積み重ね: (0, 名) 堆积; 积累
- * 蓄積: (0, 名/他サ) 积蓄(资本等); 储蓄(知识、能量等)
- * 生命: (1, 名) 生命
- * 命: (1, 名) 生命. [记]. い(いきる→生きる)+のち(后)→活下去→生命
- * 寿命: (0, 名) 寿命
- * 息吹: (1, 名) 气息
- * 息: (1, 名) 呼吸, 喘气. [记]. い(意)+き(气)→有意识有气力→活着→呼吸
- * 木の芽起こし: (4, 名) 唤醒树芽
- * 植物: (0, 名) 植物
- * 膨らむ: (0, 自五) (里面的东西)膨胀; (欲望、期待、预算)膨胀
[记]. ふ(富)+く(方向)+ら(拉)+む(用力状)→使劲让其富有→鼓起
- * 膨れる: (0, 自下一) (肚子、脸蛋儿、花粉管等)鼓起
[记]. ふく(吹く)+れ(来)+る(留→长)→吹起来→肿胀

- * 催花雨: (3, 名) 催花雨
- * 催促: (1, 名/他サ) 催促
- * 催す: (3, 0, 他五) 举办
- * 促す: (3, 0, 他五) 促进; 促使; 催促. [记]. うな(うん→用力声)+が(状态)+す(做)→促进
- * 萌やす: (2, 他五) 使发芽
- * 萌やし: (0, 名) 使发芽; 豆芽
- * 萌える: (0, 自下一) 发芽
- * 若芽: (2, 0, 1, 名) 嫩芽
- * わかめ: (1, 2, 名) 裙带菜
- * 昆布: (1, 名) 海带
- * 海藻: (0, 名) 海藻
- * 海の幸: (1, 名) 海味
- * 山の幸: (2, 名) 山珍
- * 幸い: (0, 名/形动/副) 幸福; 幸亏. [记]. さい(灾)+わい(完)→灾难完结→幸
- * ラッキー: (1, 名/lucky) 幸运
- * ひと雨: (2, 名) 一场雨

N2 第 20 课 雨水和植物(语法)

しだいにやわらぐ陽光の下、草木が芽吹き出すころ。冬の間に蓄えていた生命の息吹が外へ現
れはじめる季節。

雨水のこの時期に降る雨を、木の芽起こしといいます。植物が花を咲かせるための大切な雨で、
木の芽が膨らむのを助けるように降ることからその名で呼ばれます。また催花雨とも木の芽萌やし
とも。植物にとって、ひと雨ごとに春が来るころ。

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

雨水指的的是在渐渐柔和的阳光下，草木开始发芽的时候。是冬天储备的生命的气息开始往外出现的季节。

把雨水时期降的雨称作唤醒树芽。这是为了植物开花而下的非常重要的雨，因帮助树上的嫩芽鼓起而得名。此外还叫做催花雨和树芽萌。对于植物来说，在这个时候每下一场雨都意味着春天的来临。

语法

1. 对～来说

～にとって

- * 解释：に(对象)+とって(取る)→对～来说
- * 接续：名词+
- * 特点：翻译的时候必须加上“来说”

1. うちの犬は、私たちにとって家族同然です。

- * 我们家里的狗对我们来说就和家人一样。
- * 同然：(0, 名/形动)同样

2. このチームにとって、彼はなくてはならない存在です。

- * 对这个团队来说，他不可或缺。
- * チーム：(1, 名/team)团队
- * なくてはならない：不能缺少的
- * 不可欠：(2, 形动)不可缺少
- * 欠かせない：(4, 形)不可缺少的
- * 掛け替えのない：(6, 形)不可替代的
- * 存在：(0, 名/自サ)存在

3. 新しい仕事を探している人にとって、このウェブサイトは役に立つと思います。

* 我觉得对正在找新工作的人来说，这个网站很有用。

* ウェブサイト: (3, 名/web site) 网站

* 役に立つ: (2+1, 自五) 起作用，有用

* 役に立てる: (2+2, 他下一) 让～起作用，让～有用

* 役立つ: (3, 自五) 起作用，有用

* 役立てる: (4, 他下一) 让～起作用，让～有用

2. 每隔

2.1. 一ぶり

* 解释: ぶり → ふり → 振り → 甩

* 意思: 事隔～以后再次做～

* 接续: 期间+

* 特点: 再次做

1. 今回は高校の同級生と三十年ぶりの再会です。

* 这次聚会是和高中同学时隔 30 年的聚会。

* 高校: (0, 名) 高中 更多好课加星哥唯一微信36903863

* 同級生: (3, 名) 同学

* 再会: (0, 名/自サ) 再见，再一次见

2. 病気が回復して、一年ぶりに社会復帰ができた。

* 病好了，时隔一年又重新回到社会。

* 回復: (0, 名/自サ) 恢复

* 社会復帰: (4, 名/自サ) (因为生病或事故经过训练后重新开始社会生活) 重返社会

3. 北海道には九年ぶりに行ってきました。

* 时隔 9 年又去了北海道。

2.2. 一おきに

* 解释: おき → 置き → 放置

* 意思: 事隔～

* 接续: 期间+

1. オリンピックは3年おきに開かれる。

オリンピックは4年ごとに開かれる。

オリンピックは4年ぶりに開かれる。

* 奥林匹克每隔 3 年召开。

奥林匹克每 4 年召开。

奥林匹克隔 4 年才召开。

2. いちにち 一日おきにごみを出します。

* 每隔一天扔垃圾。

3. いちしゅうかん 一週間おきに愛媛県に出張 え ひめけん しゅっちょう い き 行って来ます。

* 每隔一周去爱媛县出差。

* 愛媛県: (3, 名) (四国岛的) 爱媛县

* 今治: (0, 名) (四国岛的) 爱媛县北部的城市。以生产毛巾而著名。

N2 第 21 课 雨水和植物(课文)

しだいにやわらぐ陽光の下、草木が芽吹き出すころ。冬の間に蓄えていた生命の息吹が外へ現
れはじめる季節。

雨水のこの時期に降る雨を、木の芽起こしといいます。植物が花を咲かせるための大切な雨で、
木の芽が膨らむのを助けるように降ることからその名で呼ばれます。また催花雨とも木の芽萌やし
とも。植物にとって、ひと雨ごとに春が来るころ。

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

雨水指的是在渐渐柔和的阳光下，草木开始发芽的时候。是冬天储备的生命的气息开始往外出现的季节。

把雨水时期降的雨称作唤醒树芽。这是为了植物开花而下的非常重要的雨，因帮助树上的嫩芽鼓起而得名。此外还叫做催花雨和树芽萌。对于植物来说，在这个时候每下一场雨都意味着春天的来临。

N2 第 22 課 七夕也叫乞巧节(单词)

乞巧節

きゅうれきしちがつなのか しんれき ちゅうごく たなばた きつこうせつ はたおじょう
旧曆七月七日は、新曆だとこのあたり。中国では七夕のことを乞巧節といいます。機織り上
手だった織姫にあやかって、針仕事が上達しますように、と祈る日。日本でも旧曆で祝う地方も
あり、松本の七夕まつりでは六日の夕方から軒に七夕雛を吊るします。旧曆で数えれば、七夕は
とっくに梅雨明け。晴れた夜空に天の川がきれいに見えて、彦星と織姫は出会えているはず。

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

乞巧节

阴历 7 月 7 日，如果是阳历的话差不多就是立秋前后。在中国把七夕称为乞巧节。这也是仿效擅长织布的织女祈求针线活进步的日子。日本也有一些地区在阴历庆祝乞巧节，松本的七夕节从 6 日傍晚开始在房檐下悬挂上七夕娃娃。用阴历来算的话，七夕早就过了梅雨季节。晴朗的夜空里银河非常美丽，牛郎和织女应该已经能够相会了。

单词

* 乞巧節: (3, 名) 乞巧节

* 旧曆: (0, 名) 阴历(1873 年 1 月 1 日之前使用)

* 新曆: (0, 名) 阳历(1873 年 1 月 1 日开始使用)

* このあたり: (3, 名) 这片儿；这一块地方；这附近

* 辺り: (1, 名) 周围。[记]。あ(上)+た(て→手)+り(る→长)→把手伸开→大面积地接触→周围

* 機織り: (3, 4, 名) 织布；织布的人

* 機: (2, 名) 织布机

* 織る: (1, 他五) 织

* 機を織る: (2+1) 用织布机织布

* 織姫: (2, 0, 名) 织女

* 牛飼い: (0, 3, 名) 养牛的人；牛郎

* 彦星: (2, 名) 牵牛星；牛郎

* 織姫星: (4, 名) 织女星

* 星: (0, 名) 星星

- * 肖あやかる: (2, 自五) 仿效. [记]. あ(上)+や(也→是)+か(加)+る(留→长)→在上面→仿效在自己上面的
- * 崇あがめる: (3, 他下一) 崇敬, 崇拜. [记]. あ(上)+が(状态)+め(目)+る(留→长)→向上看→崇
- * 针はり: (1, 名) 针, 缝针. [记]. は(哈→发→锋)+り(利)→锋利的东西→针
- * 针仕事はりしごと: (3, 名) 针线活, 缝纫
- * 上達じょうたつ: (0, 名/自サ) 长进
- * 祈いのる: (2, 他五) 祈祷. [记]. い(意)+の(な→那→长)+る(留→长)→长时间在意识上→祈祷
- * 祝いわう: (2, 他五) 庆祝, 祝贺. [记]. い(意)+わ(哇)+う(ふ→状态)→意识上雀跃→祝贺
- * 願ねがう: (2, 他五) (情) 愿, 愿(望); 请求, 恳求, 希望. [记]. ね(ねん→念)+が(状态)+う(ふ→状态)→意念→愿
- * 祈願きがん: (1, 名/他サ) 祈愿
- * 祈祷きとう: (0, 名/自他サ) 祈祷; 祈祷仪式
- * 地方ちほう: (2, 1, 名) 地方, 地区, 首都以外的地区
- * 松本まつもと: (0, 名) 长野县中部的城市
- * 夕方ゆうがた: (0, 名) 傍晚, 黄昏
- * 夕暮れゆうぐれ: (0, 名) 傍晚, 黄昏, 日暮
- * 黄昏たそがれ: (0, 名) 黄昏. [记]. た(他)+そ(其)+が(助词)+れ(谁)→それがだれ?
- * 夕日ゆうひ: (0, 名) 夕阳
- * 夕べゆうべ: (0, 名/副) 昨天晚上
- * 夕闇ゆうやみ: (0, 名) 暮色, 黄昏
- * 夕立ゆうだち: (0, 名) (夏天傍晚下的) 雷阵雨
- * 俄雨にわかあめ: (4, 名) 雷阵雨
- * 俄にわか: (1, 形动) 骤然; 马上. [记]. にわか(いまか)→是现在吗→不确定→动作快
- * 轩のき: (0, 名) 屋檐. [记]. の(な→那→长)+き(木)→长木头→屋檐

- * 連ねる: (3, 他下一) 使排成一列; 使列席. [记]. つ(て→手)+ら(拉)+ねる(なる→成る)→拉长→连
- * 軒を連ねる: (0+3) 鳞次栉比
- * 雛: (1, 名) 小鸡, 小鸭子, 小鸟; 小姑娘. [记]. ひ(低→小)+な(なる→也→是)
- * 吊るす: (0, 他五) 悬挂. [记]. つ(刺)+る(留→长)+す(做)→钩上来→吊
- * 吊る: (0, 他五) 吊. [记]. つ(刺)+る(留→长)→钩上来→吊
- * 攣る: (0, 自五) (腿脚) 抽筋. [记]. つ(刺)+る(留→长)→刺痛
- * 吊り橋: (0, 名) 吊桥
- * 計算: (0, 名/他サ) 计算
- * 計算高い: (5, 形) 精打细算的, 算计的
- * 勘定高い: (5, 形) 精打细算的, 算计的
- * 打算的: (0, 形动) 打小算盘的; 算计的
- * 損得: (1, 名) 得失
- * 損: (1, 名/形动) 亏/損をする
- * 大損する: (0, 3, 名/自サ) 吃大亏
- * 得: (0, 名/形动) 得到; 赚/得をする
- * 疾つくに: (3, 副) 早就
- * 夜空: (1, 名) 夜空
- * 夜勤: (0, 名) 夜班
- * 日勤: (0, 名) 白班; 每天上班
- * 当番: (1, 名) 值日; 值班
- * 非番: (0, 名) 歇班
- * 徹夜: (0, 名/自サ) 彻夜
- * 夜景: (0, 名) 夜景

* 昼夜: (1, 名) 昼夜

* 昨夜: (2, 名/副) 昨天晚上

* 天の川: (3, 名) 银河

* 出会う: (2, 自五) 邂逅, 相遇

* 出会い: (0, 名) 邂逅, 相遇

* 出会いサイト: (4, 名) 交友网站

* 巡り会う: (4, 自五) (意外) 邂逅, 相遇

* 出会す: (4, 自五) 偶遇

* ばったり会う: (3+1, 自五) 偶遇, 碰见

N2 第 23 课 七夕也叫乞巧节(语法)

乞巧节

きゅうれきしちがつのか しんれき ちゅうごく たなばた きつこうせつ はたおじょう
旧曆七月七日は、新曆だとこのあたり。中国では七夕のことを乞巧節といいます。機織り上
手だった織姫にあやかって、針仕事が上達しますように、と祈る日。日本でも旧曆で祝う地方も
あり、松本の七夕まつりでは六日の夕方から軒に七夕雛を吊るします。旧曆で数えれば、七夕は
とっくに梅雨明け。晴れた夜空に天の川がきれいに見えて、彦星と織姫は出会えているはず。

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

乞巧节

阴历 7 月 7 日，如果是阳历的话差不多就是立秋前后。在中国把七夕称为乞巧节。这也是仿效擅长织布的织女祈求针线活进步的日子。日本也有一些地区在阴历庆祝乞巧节，松本的七夕节从 6 日傍晚开始在房檐下悬挂上七夕娃娃。用阴历来算的话，七夕早就过了梅雨季节。晴朗的夜空里银河非常美丽，牛郎和织女应该已经能够相会了。

语法

1. 正式的命令

～こと。

- * 解释：言→文言文→正式
- * 接续：句子+
- * 特点：正式的命令

1. レポートを月末までに提出すること。

- * (请把) 小论文在月底前提交。
- * レポート：(2, 名/report) 研究调查的报告；小论文
- * 月末：(0, 名) 月底
- * 月の初め：(0, 名) 月初
- * 提出：(0, 名/他サ) 提交

2. 廊下を走らないこと。

- * 不要在走廊里跑。
- * 廊下：(0, 名) 走廊
- * 走る：(2, 自五) 跑；行使，奔驰；走(极端)；文笔流畅。[记]。は(哈→吐)+し(显)+る(留→长)→使劲吐气→跑

3. 健康的に痩せるためには、薬を飲んだり食事を抜いたりするより、まずよく体を動かすことだ。

* 为了健康地减肥，比起吃药或是不吃饭，首先要运动。

* 健康的：(0, 形动) 健康的

* 瘦せる：(0, 自下一) 瘦。[记]。や(咿呀学语→小)+せ(瑟→轻)+る(留→长)→又小又轻→瘦小

* 抜く：(0, 自他五) 拔掉，除掉；省略；超过；(干)到底。[记]。ぬ(な→無)+く(方向)→拔掉

* 拔ける：(0, 自下一) 脱落；漏掉；气力全无；溜走。[记]。ぬ(な→無)+け(开)+る(留→长)→脱落

* 体：(0, 名) 身体

* 動かす：(3, 他五) 让～动，让～运转。[记]。う(宇 yu→羽 yu)+ご(过)+か(加)+す(做)→让羽毛摆动→让～动

* 動く：(2, 自五) 动，(移)动，(摇)动。[记]。う(宇 yu→羽 yu)+ご(过)+く(方向)→羽毛摆动→动

* 動き：(0, 名) 动作

2. 祈祷或祝福用语

～ますように

* 解释：ように→为了

* 特点：后面省略了“祝福、祈祷、祈愿”等动词

* 接续：动词的简体+/动词的敬体+(正式的口语)

1. ゆうきちゃんが一番でありますように。^{いちばん}

* 祈求ゆうきちゃん得第一名。

2. うまくいきますように。

* 祈求能顺利。

3. うまく愛せるようにと、あの空に祈っている。^{あい そら いの}

* 我对着天空祈愿能好好爱你。

* 空：(1, 名) 天空

4. 「マティちゃんと同世代の人々が、平和で暮らしますように」と、お祝いの言葉を贈った。^{どうせだい ひとびと へいわ く いわ ことば おく}

* 送上贺词——“希望马迪和他的同辈人能和平地生活”。

* 同世代：(3, 名) 同辈

* 世代: (1, 名) 世代; 一代

* 平和: (0, 名/形动) 和平

* 暮らす: (0, 他五) 度日, 过日子, 生活

* 暮らし: (0, 名) 生活

* 贈る: (0, 他五) 赠, 赠送

5. この一年がたくさんの幸福と可能性に満ちた日々でありますように。

* 祝福 你在这一年里每天都充满幸福和无限的可能性。

* 幸福: (0, 名/形动) 幸福

* 可能性: (0, 名) 可能形

* 满ちる: (2, 自上一) 满, 充满; 圆. [记]. み(身)+ち(齐)+る(留→长)→东西齐→满)

* 满たす: (2, 他五) 使满足; 填满. [记]. み(身)+た(多)+す(做)→东西多→使充满

* 日々: (1, 名) 每天, 每日

N2 第 24 課 七夕也叫乞巧节(課文)

乞巧節

きゅうれきしちがつなのか
旧暦七月七日は、新暦だとこのあたり。中国では七夕のことを乞巧節といいます。
はたおじょう
機織り上

す おりひめ はりしごと じょうたつ いの ひ にほん きゅうれき いわ ちほう
手だった織姫にあやかって、針仕事が上達しますように、と祈る日。日本でも旧暦で祝う地方も
あり、まつもと 松本の七夕まつりでは六日の夕方から軒に七夕雛を吊るします。旧暦で数えれば、七夕は
たなばた
まつもと たなばた むいか ゆうがた のき たなばたひな つ きゅうれき かぞ たなばた
とっくに梅雨明け。晴れた夜空に天の川がきれいに見えて、彦星と織姫は出会えているはず。

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

乞巧节

阴历 7 月 7 日，如果是阳历的话差不多就是立秋前后。在中国把七夕称为乞巧节。这也是仿效擅长织布的织女祈求针线活进步的日子。日本也有一些地区在阴历庆祝乞巧节，松本的七夕节从 6 日傍晚开始在房檐下悬挂上七夕娃娃。用阴历来算的话，七夕早就过了梅雨季节。晴朗的夜空里银河非常美丽，牛郎和织女应该已经能够相会了。

N2 第 25 课 水果的家庭消费差异(单词)

最近、果物の消費が伸びていません。そこで、果物の年間購入金額を調べてみました。一人当たりの購入が最も多いのは世帯主が65歳以上の家庭で、最も少ないのは世帯主が24歳以下の家庭でした。金額になると、前者は23494円、後者は5036円と、約4.7倍も差が開いています。

果物の「敵」は、お菓子だとよく言われています。やはり、菓子類でも購入金額が最も多いのは世帯主が65歳以上で29117円、少ないのは24歳以下で20199円となっています。ところが、果物と菓子類では、やや違った傾向が見られます。いずれの年齢の世帯主の家庭では、果物より菓子類の購入金額の方が多いのですが、年齢が上になるほど、この差は小さくなっています。これは、果物の購入を伸ばすためには、若い家庭に対する宣伝がもっと必要だということでしょう。

最近水果的消费量没有上涨。因此，我们调查了水果在一年内的购买金额。平均一个人购买量最多的是户主年龄在65岁以上的家庭，最少的是户主年龄在24岁以下的家庭。换算成金额的话，前者是23494日元，后者是5036日元，大约有4.7倍的差。

经常说水果的敌人是点心。即便是点心类食品，购买金额最多的还是户主年龄在65岁以上的家庭，总计29117日元，最少的还是24岁以下，合计20199日元。但是，水果和点心类食品的购买量显示了稍微不同的倾向。无论哪个年龄的户主的家庭，点心类的购买金额超过了水果。年龄越大，这个差别就越小。这说明，为了提高水果的购买量，更有必要向年轻的家庭进行宣传。

单词

* 果物: (2, 名) 水果. [记]. く(方向)+だ(达→达到→下落)→下落+物→水果成熟后从树上落下

* 消費: (0, 名/他サ) 消费

* の伸びる/延びる: (2, 自上一) 伸展, 伸长, (头发等) 长长, (个子) 长高, (业绩、能力) 提高; (日期)

延长; (面条) 塵. [记]. の(な→那→长)+び(ば→把)+る(留→长)→伸长

* の伸びる/延ばす: (2, 他五) 披长; 伸展(身体); 延长(日期). [记]. の(な→那→长)+ば(把)+す(做)→把它披长

* そこで: (0, 接续) (语气正式) 因此

* それで: (0, 接续) (语气柔和) 因此, 所以

* そのため: (0, 接续) (语气正式) 因此

* それによって: (0, 接续) (语气正式) 因此, 由于这个

- * それゆえ: (0, 3, 接续) (语气正式)因此, 由于这个
- * 故: (2, 名)缘故. [记]. ゆ(由)+え(挨→方向→于)→由于
- * 所以: (0, 名)缘故, 理由
- * 年間: (0, 副/名)一年里
- * 購入: (0, 名/他サ)购买
- * 金額: (0, 名)金额
- * 調べる: (3, 他下一)调查
- * 調査: (1, 名/他サ)调查
- * 世帯: (1, 名)家, 家庭
- * 世代: (1, 名)一代
- * 世帯主: (2, 名)户主
- * 飼い主: (2, 1, 名)饲养的主人
- * 持ち主: (2, 名)拥有的人
- * 家庭: (0, 名)家庭
- * 過程: (0, 名)过程
- * プロセス: (2, 名/process)过程
- * 前者: (1, 名)前者
- * 後者: (1, 名)后者
- * 差: (1, 名)差, 差异, 差别
- * 差がつく: (1+2, 自五)有差别
- * 差が開く: (1+2, 自五)拉开差距
- * 差異: (1, 名)差异
- * 差別: (1, 名)差别(用于符合名词); 歧视
- * 格差: (0, 名)差距
- * ギャップ: (0, 1, 名/gap)差异, 差距, 隔阂

- * **ちがい**: (0, 名) (性质、内容等)不同
- * **ずれ**: (2, 名) (距离等)不同, 分歧
- * **そうい** 相違: (0, 名/自サ)互相不同
- * **くちがい** 食い違い: (0, 名)分歧, 不一致
- * **くちがい違う**: (0, 4, 自五) (意见、主张、想法、说法等)相互不一致. [记]. 食い(咬合)+違う(不同)
→不一致
- * **ふいつち** 不一致: (2, 名)不一致
- * **いつち** 一致: (0, 名/自サ)一致
- * **てき** 敵: (0, 名)敌人
- * **あだ** 仇: (2, 名)仇敌, 仇人, 仇恨
- * **かたき / かたき** 敌 / 仇: (3, 名)仇人, 敌人; 对手
- * **みかた** 味方: (0, 名)我方, 伙伴, 同伙
- * **あまやかす**: (0, 4, 他五)娇惯, 纵容, 放任. [记]. あま(甜)+や(养→给)+か(加)+す(做)→给甜头→娇惯
- * **あまえる**: (0, 自下一)撒娇, 要赖, 不客气. [记]. あま(甜)+え(へ→方向)+る(留→长)→撒娇
- * **あまい**: (0, 形)甜的; 幼稚的; 放任不管的. [记]. あまい(うまい→好吃的)→甜的
- * **かんみ** 甘味: (1, 名)甜味; 甜品; 妙处, 妙趣 更多好课加星哥唯一微信36903863
- * **だいごみ** 醍醐味: (3, 0, 名)妙处, 妙趣; 乐趣
- * **かしるい** 菓子類: (2, 名)点心类
- * **しゅるい** 種類: (1, 名)种类
- * **たぐい** 類: (0, 3, 名)类; 种类. [记]. た(多)+ぐ(归)+い(一)→很多的归为一个→类
- * **ところが**: (3, 接续)但是. [记]. ところ(地方)+が(助词, 但是)
- * **ところで**: (3, 接续) (大的)转移话题. [记]. ところ(地方)+で(まで→到)→到这儿→开始新的
- * **だけど**: (1, 接续) (口语/简体)但是
- * **ですが**: (1, 接续) (口语/敬体)但是
- * **だが**: (1, 接续) (正式)但是
- * **しかし**: (2, 接续)可是. [记]. し(死→强烈→强)+か(加)+し(像)→加强→可
- * **しかしながら**: (4, 接续) (语气正式)可是
- * **それにもしても**: (3, 接续)转移话题; 即便如此(不认可前者)

- * それにしては: (3, 接续) 即便如此(认可前者, 但是还是否定). [记]. は(对比性强调→前后各占百分之五十)
- * それでいて: (0, 接续) 虽然如此(认可前者, 但是转移成新话题). [记]. て(逗号)
- * しかも: (2, 接续) 而且
- * かつ: (1, 接续) 并且. [记]. か(加)+つ(次)→加一次→且
- * やや: (1, 副) 稍微, 一些. [记]. や(咿呀学语→小)+や(咿呀学语→小)→稍微
- * ややこしい: (4, 形) 繁杂的, 复杂的; (事、人) 麻烦的. [记]. や(小)+や(小)+こ(小)+し(像)→全是小的→杂
- * ^{けいこう} 傾向: (0, 名) 倾向
- * ^{きら} 嫌い: (0, 名) (不好的) 倾向
- * ^{せんでん} 宣传: (0, 名/他サ) 宣传

N2 第 26 课 水果的家庭消费差异(语法)

最近、果物の消費が伸びていません。そこで、果物の年間購入金額を調べてみました。一人当たりの購入が最も多いのは世帯主が65歳以上の家庭で、最も少ないのは世帯主が24歳以下の家庭でした。金額になると、前者は23494円、後者は5036円と、約4.7倍も差が開いています。

果物の「敵」は、お菓子だとよく言われています。やはり、菓子類でも購入金額が最も多いのは世帯主が65歳以上で29117円、少ないのは24歳以下で20199円となっています。ところが、果物と菓子類では、やや違った傾向が見られます。いずれの年齢の世帯主の家庭では、果物より菓子類の購入金額の方が多いのですが、年齢が上になるほど、この差は小さくなっています。これは、果物の購入を伸ばすためには、若い家庭に対する宣伝がもっと必要だということでしょう。

最近水果的消费量没有上涨。因此，我们调查了水果在一年内的购买金额。平均一个人购买量最多的是户主年龄在65岁以上的家庭，最少的是户主年龄在24岁以下的家庭。换算成金额的话，前者是23494日元，后者是5036日元，大约有4.7倍的差。

经常说水果的敌人是点心。即便是点心类食品，购买金额最多的还是户主年龄在65岁以上的家庭，总计29117日元，最少的还是24岁以下，合计20199日元。但是，水果和点心类食品的购买量显示了稍微不同的倾向。无论哪个年龄的户主的家庭，点心类的购买金额超过了水果。年龄越大，这个差别就越小。这说明，为了提高水果的购买量，更有必要向年轻的家庭进行宣传。

语法

1. (平均) 每

—あたり

* 解释：当たり→相当(于)

* 接续：数量词

* 特点：平均

1. 社会保障の充実を望む以上、それだけ国民一人当たりの負担も重くなるのを、覚悟しなければならない。

* 既然希望充实社会保障，那么每个国民就必须做好负担加重的精神准备。

* 社会保障：(4, 名) 社会保障

* 保障：(0, 名/他サ) 保障

* 充実: (0, 名/自サ) 充实

* のぞ
望む: (0, 2, 他五) 希望, 期望. [记]. の(な→那→长)+そ(其)+浊音(拖泥带水→有关)+む(关闭)→从远处跟它有关→望

* それだけ: (0, 副) 与此相等, 与此相符合

* 国民: (0, 名) 国民

* 覚悟: (1, 2, 名/自他サ) (迎接困难或危险而做的) 心里准备

* 自覚: (0, 名/自他サ) 自己知道

2. 一回当たり、10%の税金がかかります。

* 平均每次要交百分之十的税。

* パーセント: (1, 名/percent) 百分比

* 税金: (0, 名) 税, 税款

3. 老後の生活費は1ヶ月あたりどのくらいかかるのでしょうか?

* 老后的生生活费平均每月多少钱?

* 老後: (0, 名) 老后

* 生活費: (4, 名) 生活费

2. 每

～につき

* 解释: に(方向)+付き(附着)

* 接续: 数量词+

* 特点: 附着于

1. 一泊につき一回の朝食がある。

* 住一晚就有一次早餐。

* 一泊: (0, 数量) 一晚

* 一回: (0, 数量) 一次

* 朝食: (0, 名) 早饭

2. ご試着は一回につき3点までです。

* 一次只能试穿 3 件以内。

* 試着: (0, 名/他サ) 试穿

* 3 点: (1, 数量) 三件

3. お届け先一箇所につき税抜一万円以上のお買い上げで送料無料です。

* 购买金额在不含税 1 万日元以上的情况下，一个收货地址免一次邮费。

* 届け先: (0, 名) 收货地址

* 一箇所: (3, 数量) 一个地方

* 税抜: (0, 名) 不含税

* お買い上げ: (0, 名) (尊他) 购买

* 送料: (1, 名) 邮费

* 無料: (0, 名) 免费

3. 在～之际/在负责～方面

～にあたって/～にあたり

* 解释: に (方向)+当たって (大面积地接触)

* 意思: 1. 在～之际
2. 在负责～方面

* 接续: 名词/动词的基本型简体+

* 语气: にあたって(柔和)、にあたり(正式)

1. 卒業にあたっての今の気持ちは、なんだか四年前と少し似ているような気がします。

* 在毕业之际，我现在的心情感觉和四年前有些相似。

* 卒業: (0, 名/自サ) 毕业

* 気持ち: (0, 名) 心情

* なんだか: (1, 副) 不知道为什么却总是

* 四年前: (4, 名) 4 年前

* 似ている: (0, 自上一) (用现在进行时表示状态) 相似

* 気がする: (0) (由内而发) 感觉

* 感じがする: (0) (外界带来) 感觉

2. 開会にあたり校長として一言ご挨拶申し上げます。

* 在开会之际，(我)作为校长献上一句贺词。

* 開会：(0, 名/自他サ)会议开始

* 校長：(0, 名)(小学/中学)校长

* 一言：(2, 名/副)一句话

* 申し上げる：(5, 他下一)(自谦)呈上

3. 発電所の建設にあたって、地元の住民との話し合いが持たれた。

* 关于负责发电站的建设方面，我们和当地居民进行了协商。

* 発電所：(0, 名)发电所，发电站

* 建設：(0, 名/他サ)建设

* 地元：(0, 3, 名)当地

* 住民：(0, 3, 名)居民

* 話し合い：(0, 名)互相对话，协商，商谈

4. 就～進行

～について

* 解释：に(方向)+就いて(就)

* 意思：就～进行～

* 接续：名词+

1. ゼミで将来の夢について発表することになった。

* 讨论会将围绕将来的梦想这一主题进行发表。

* ゼミ：(1, 名)(ゼミナール/seminar 的简称)研讨会，讨论会

* 将来：(1, 名)将来

* 夢：(2, 名)梦；梦想

* 発表：(0, 名/他サ)发表

2. 日本語を外国人に教えてみると、彼らから日本語について教えられ考えさせられることがよくある。

* 在教外国人日语时，在日语方面他们经常教我很多东西，使我备受启发。

3. 研究活動の不正行為への対応についてのガイドラインを読みました。

* 我读了有关如何应对研究活动中的不良行为的指南。

* 研究活動: (5, 名) 研究活动

* 不正行為: (4, 名) 不正当行为

* 対応: (0, 名/自サ) 应对

* ガイドライン: (4, 名/guideline) 指南

* 孫引き: (0, 名/他サ) 剥窃

N2 第 27 课 水果的家庭消费差异(课文)

最近、果物の消費が伸びていません。そこで、果物の年間購入金額を調べてみました。一人当たりの購入が最も多いのは世帯主が65歳以上の家庭で、最も少ないのは世帯主が24歳以下の家庭でした。金額になると、前者は23494円、後者は5036円と、約4.7倍も差が開いています。

果物の「敵」は、お菓子だとよく言われています。やはり、菓子類でも購入金額が最も多いのは世帯主が65歳以上で29117円、少ないのは24歳以下で20199円となっています。ところが、果物と菓子類では、やや違った傾向が見られます。いずれの年齢の世帯主の家庭では、果物より菓子類の購入金額の方が多いのですが、年齢が上になるほど、この差は小さくなっています。これは、果物の購入を伸ばすためには、若い家庭に対する宣伝がもっと必要だということでしょう。

最近水果的消费量没有上涨。因此，我们调查了水果在一年内的购买金额。平均一个人购买量最多的是户主年龄在65岁以上的家庭，最少的是户主年龄在24岁以下的家庭。换算成金额的话，前者是23494日元，后者是5036日元，大约有4.7倍的差。

经常说水果的敌人是点心。即便是点心类食品，购买金额最多的还是户主年龄在65岁以上的家庭，总计29117日元，最少的还是24岁以下，合计20199日元。但是，水果和点心类食品的购买量显示了稍微不同的倾向。无论哪个年龄的户主的家庭，点心类的购买金额超过了水果。年龄越大，这个差别就越小。这说明，为了提高水果的购买量，更有必要向年轻的家庭进行宣传。

N2 第 28 课 平安时代的贵族颜色(单词)

藤色

明るい青みのある紫である藤色は、平安時代の宮廷女官から近代のモダンガールまで、日本
人女性がもっとも愛してきた色といってもいいでしょう。「青藤色」「薄藤色」「白藤色」などをは
じめとするバリエーションの豊かさが、それを物語ります。平安時代に隆盛を極めた藤原氏の「藤」
に通じることからも、高貴な色とされました。『枕草子』には、紫に染めた和紙に歌を詠み、
フジの花に結んで届ける、なんともロマンチックな恋文も登場します。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

藤色

藤色是带有明亮的发青的紫色，从平安时代的宫廷女官到现代的摩登女郎，可以说藤色是日本女性一直以来最喜爱的颜色。“青藤色”“淡藤色”“白藤色”，从它（词汇）的多样化就能得知。藤色因为带有平安时代极其兴隆昌盛的藤原氏的“藤”，所以被视为高贵的颜色。《枕草子》里出现了非常浪漫的情书：在染着紫色的和纸上咏唱和歌，然后系在紫藤花上送出去。

单词

- * 藤色: (0, 名) 紫藤色, 淡紫色
- * 藤: (0, 名) 紫藤. [记]. ふ(峰)+じ(近)→接近巅峰→藤是往上长的植物
- * 藤: (1, 0, 名) 藤
- * ラタン: (1, 名/rattan) 藤, 藤条
- * 宮廷: (0, 名) 宫廷
- * 宮中: (1, 0, 名) 宫中
- * 宮内厅: (2, 名) 宫内厅。总理府的外局之一。负责有关皇室关系的国家事物及天皇的国事活动。
- * 女官: (0, 名) 女官。宫中的女性官员。还可以念成：によかん、ようかん。
- * 近代: (1, 名) 近代, 现代
- * モダンガール: (4, 名/和制词/modern+girl) 摩登女郎
- * 女性: (0, 名) 女性
- * 女神: (1, 名) 女神
- * バリエーション: (3, 名/variation) 变化
- * 豊かさ: (0, 名) 丰富

- * 豊富: (0, 1, 名/形动) 丰富
- * 富む: (1, 自五) 富, 丰富, 富裕. [记]. と(太)+む(闷)→多
- * 富: (1, 名) 财富
- * 物語る: (4, 他五) 讲述(故事)
- * 語る: (0, 他五) 讲, 说, 谈
- * 述べる: (2, 他下一) (叙, 阐) 述. [记]. の(な→那→长)+べ(边)+る(留→长)→述
- * 物語: (3, 名) 故事
- * おとぎ話: (4, 名) 童话
- * 隆盛: (0, 名/形动) 隆盛
- * 極める: (3, 他下一) 达到极限, 达到顶峰. [记]. き(切る)+わ(完)+める(む→闷)→极
- * 究める: (3, 他下一) 研究(学问)
- * 極めて: (2, 副) 极其
- * 藤原氏: (4, 名) 日本氏族之一。姓朝臣, 简称藤氏。1200 年以上都是朝廷官吏中的一大势力。
- * 通じる: (0, 自上一) 通, 通往, 通顺
- * 通じ合う: (4, 自五) 相通
- * 高貴: (1, 名/形动) 高贵
- * 気高い: (3, 形) 高尚的, 高雅的, 高贵的
- * 気品: (0, 名) (从艺术作品及人类的相貌姿态感受到的崇高的美) 优雅, 典雅, 风度, 气派
- * 品: (0, 名) 品
- * 『枕草子』: (5) 平安时代中期清少纳言的随笔
- * 清少納言: (5) 平安时代中期的女作家和歌人。清是父亲的姓氏清原, 少纳言是父亲曾经的官职。
- * 和紙: (1, 名) 日本纸, 和纸。
- * 結ぶ: (0, 自他五) 使结合, 使连接在一起. [记]. む(闷)+す(する→做)+ぶ(并列)→结合

- * 結び付く: (4, 他五) 结成一个; 使有关联
- * 結び付き: (0, 名) 关联
- * 繋がる: (0, 自五) 连接, 相关
- * 繋がり: (0, 名) 关联, 连接
- * 繋げる: (0, 他下一) 连接(在一起成为一条长线); 系, 捆; 连接. [记]. 綱(粗绳子)+げ(给)+る(留→长)→给绳子→连接
- * 繋ぐ: (0, 他五) 拉手; 接(电话、线); 维系(希望); (与信用)有关
- * 綱: (2, 名) 粗绳子, 绳索; 命脉, 依靠. [记]. つ(強い)+な(長い)→很强很长→粗绳子
- * 紣: (0, 名) 纽带
- * 繩: (2, 名) 绳子. [记]. な(那→长)+わ(弯→圆)→长的圆东西→绳子
- * ロープ: (1, 名/rope) 绳子, 绳索
- * ロープウェー: (4, 名/ropeway) 缆车
- * 紐: (0, 名) 带子, 细的绳子. [记]. ひ(ひく→引く)+も(もの→物)→拉的东西
- * 糸: (1, 名) 线, 弦. [记]. い(一→小)+と(通)→一条通过(布)的东西→线
- * 针: (1, 名) 针
- * 結納: (0, 名) 彩礼, 定亲礼
- * なんとも: (1, 副) 简直
- * ロマンチック: (4, 形动/romantic) 浪漫的
- * 恋文: (0, 名) 情书
- * ラブレター: (3, 名/love letter) 情书
- * 文: (1, 名) 信, 文件, 文书, 汉诗, 学问
- * 筆: (0, 名) 笔, 毛笔, 笔记. [记]. ふ(ふみ→文)+て(手)+浊音(拖泥带水→有关)→放在手上写文章的用具→笔
- * 登場: (0, 名/自サ) 登场

N2 第 29 课 平安时代的贵族颜色(语法)

藤色

明るい青みのある紫である藤色は、平安時代の宮廷女官から近代のモダンガールまで、日本
人女性がもっとも愛してきた色といってもいいでしょう。「青藤色」「淡藤色」「白藤色」などは
じめとするバリエーションの豊かさが、それを物語ります。平安時代に隆盛を極めた藤原氏の「藤」
に通じることからも、高貴な色とされました。『枕草子』には、紫に染めた和紙に歌を詠み、
フジの花に結んで届ける、なんともロマンチックな恋文も登場します。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

藤色

藤色是带有明亮的发青的紫色，从平安时代的宫廷女官到现代的摩登女郎，可以说藤色是日本女性一直以来最喜爱的颜色。“青藤色”“淡藤色”“白藤色”，从它（词汇）的多样化就能得知。藤色因为带有平安时代极其兴隆昌盛的藤原氏的“藤”，所以被视为高贵的颜色。《枕草子》里出现了非常浪漫的情书：在染着紫色的和纸上咏唱和歌，然后系在紫藤花上送出去。

语法

1. 极其～

1. 1 ~極まる~

* 特点：名词/形容动词 + 極まる + 名词

1. その話は他の人には面白くても、私には退屈極まるものだった。

* 那件事对别人有意思，但是对我来说却极其无聊。

* 退屈：(0, 名/形动/自サ) 无聊；感到无聊

2. 無責任極まる発言は、人にどれだけ迷惑をかけることになるか、知ておく必要がある。

* 必须要知道极其不负责任的话会给别人造成很多麻烦。

* 無責任：(2, 名/形动) 不负责任

* 発言：(0, 名/他サ) 发言

* どれだけ：(1, 0, 副) 多少；多么 どんなに→どれほど→どれだけ

3. 残念極まる経験だった。

* 那是个极其遗憾的经历。

* 残念: (3, 形动) 遗憾

* 無念: (1, 0, 名/形动) 万念俱灰; 懊悔, 遗憾

* 遺憾: (0, 1, 名/形动) 遗憾

* 経験: (0, 名/他サ) 经验; 经历

1.2 ~極まりない。

* 特点: 名词/形容动词 + 極まりない。 (用于句尾)

1. 人のタバコの煙を吸わされるのは、迷惑極まりない。

* 被动吸烟, 真是太烦人了。

* 煙: (0, 名) 烟. [记]. け(き→气)+む(闷)+り(る→留→长)→气闷→烟多→烟

* 煙たい: (3, 0, 形) 呛的. [记]. け(气)+む(闷)+た(太)→气太闷

* 吸わされる: (4, 他下一) 使役被动式。是吸わせられる的简化。

* 迷惑: (1, 名/形动/自サ) 麻烦; 为难; 被添麻烦

2. 人のことをいちいち評価するのは失礼極まりない。

* 总是对别人品头论足实在是非常失礼。

* いちいち: (2, 副) 一一, 逐一

* 評価: (1, 名/他サ) 评价; 好评

* 失礼: (2, 名/形动/自他サ) 失礼; 告辞

3. 理不尽極まりない。

* 太不讲理。荒谬绝伦。

* 理不尽: (2, 名/形动) 不讲理

1.3 ~の極み

* 特点: 名词 + の + 極み

1. 世界的に有名な俳優と握手できたなんて、感激の極みです。

* 能和世界著名演员握手，（我）实在是激动。

* 世界的：(0, 形动) 世界的的

* 俳優：(0, 名) 演员

* 握手：(1, 名/自サ) 握手

* 感激：(0, 名/自サ) 激动

2. 当時の贅沢の極みを尽くした暮らしぶりを伺える。

* （从中）能够看到当时极尽奢华的生活状态。

* 当時：(1, 名/副) 当时

* 贅沢：(3, 4, 名/形动) 奢侈，过分

* 尽くす：(2, 他五) 尽(全力等)；(为～而)付出。[记]。つく(着く→到头)+す(做)→尽

* 尽くる：(2, 自上一) 尽，终结

* 暮らしぶり：(0, 名) 生活状态

* 伺う：(0, 4, 他五) 问，打听；伺机。[记]。うかが(我看一看)+う(ふ→風→状态)→伺机

3. 好きなことを職業にすることは幸せの極みです。

* 把喜欢的事情当作职业，实在是幸福。

* 职業：(2, 名) 职业

N2 第30课 平安时代的贵族颜色(课文)

藤色

明るい青みのある紫である藤色は、平安時代の宮廷女官から近代のモダンガールまで、日本
人女性がもっとも愛してきた色といってもいいでしょう。「青藤色」「薄藤色」「白藤色」などをは
じめとするバリエーションの豊かさが、それを物語ります。平安時代に隆盛を極めた藤原氏の「藤」
に通じることからも、高貴な色とされました。『枕草子』には、紫に染めた和紙に歌を詠み、
フジの花に結んで届ける、なんともロマンチックな恋文も登場します。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

藤色

藤色是带有明亮的发青的紫色，从平安时代的宫廷女官到现代的摩登女郎，可以说藤色是日本女性一直以来最喜爱的颜色。“青藤色”“淡藤色”“白藤色”，从它（词汇）的多样化就能得知。藤色因为带有平安时代极其兴隆昌盛的藤原氏的“藤”，所以被视为高贵的颜色。《枕草子》里出现了非常浪漫的情书：在染着紫色的和纸上咏唱和歌，然后系在紫藤花上送出去。

N2 第 31 课 一封书信(单词)

寒い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、先日はたいへんお世話になりました、ありがとうございました。あれから京都、奈良をまわり、昨晩帰宅いたしました。おかげさまでとても楽しい旅行ができました。旅行中の写真ができましたらお送りいたします。くれぐれもお体をお大切に。

天气一直很冷，您最近怎么样？

前些天受到您的关照，非常感谢。那之后我转了京都和奈良，昨晚回到家里。托您的福，旅行非常愉快。旅行的照片洗出来后会给您寄去。请您保重身体。

单词

- * いかが: (2, 副) 如何
- * ^いか: (0, 副) 如何
- * ^いかん: (0, 名/副) 如何
- * 過ごす: (2, 他五) 度过；过分. [记]. す(嗖→快)+ご(こ→过)+す(做)→过
- * さて: (1, 接续) 废话不多说进入正题. [记]. さ(飒→快)+て(手→方向)
- * 先日: (0, 名/副) 前些日子
- * この間: (0, 名/副) 前些日子
- * この前: (3, 名/副) 前些日子，之前，上次
- * 世話を焼く: (2+0) 不厌其烦地主动地帮助
- * 世話が焼ける: (2+0) 费事，麻烦
- * 焼く: (0, 他五) 烤，烧. [记]. や(夜)+く(方向)→烤后变成深色→烤
- * やく: (0, 他五) 吃醋
- * 焼ける: (0, 自下一) 烤好，烤熟；晒黑；天空变红；炼制成；火山喷火；胃难受；费事
- * やきもちを焼く: (3, 4+0) 吃醋
- * (お)餅: (0, 名) 年糕
- * 嫉妬: (0, 1, 名/自他サ) 嫉妒

* 嫉妬深い: (5, 形) 嫉妒心强的

* 羨む: (3, 他五) 羡慕. [记]. うら(裏)+やむ(病む)→心里生病→羡慕

* 妒む: (2, 他五) 嫉妒. [记]. ね(凝)+た(多)+む(用力状)→非常凝重的心情→嫉妒

* 恨む: (2, 他五) 恨. [记]. うら(裏→↑)+む(用力状→艮)→心里用力

* 憎む: (2, 他五) 憎恶, 憎恨. [记]. に(凝→曾)+く(方向)+む(用力状)→↑+曾→憎

* 憎い: (2, 形) 可憎的

* 憎らしい: (5, 形) 实在可恨的

* 恨めしい: (4, 形) 可恨的; 可悲的

* 羨ましい: (5, 形) 令人羡慕的

* 昨晚: (2, 名/副) 昨晚

* 夕べ: (0, 名/副) 昨晚

* 帰宅: (0, 名/自サ) 回家

* 在宅: (0, 名/自サ) 在家

* 自宅: (0, 名) 自宅, 自己家

* 旅: (2, 名) 旅行. [记]. た(他)+び(ぼ→步)→去其他的地方→旅行

* 旅に出る: (2+1) 出门旅行

* 旅人: (0, 名) 旅行者

* くれぐれも: (3, 2, 副) 反复多次

* 拝啓: (1, 名) 拜启(用于信的开头)

* 謹啓: (0, 1, 名) 谨启(用于信的开头)

* 敬具: (1, 名) 此致敬礼(用于信的结尾)

* 御中: (1, 名) ~收(用于公司或团体)

* 御苑: (0, 名) 皇室的庭园

* 防御: (1, 名/他サ) 防御

* 防ぐ: (2, 他五) 防止, 防守. [记]. ふ(阜)+せ(塞)+く(方向)+浊音(拖泥带水→有关)→阜+方→防

* 防止: (0, 名/他サ) 防止

* 阻む: (2, 他五) 阻止, 阻碍. [记]. はば(幅→且)+む(闷→阜)→阜+且→阻

N2 第32课 一封书信(语法)

寒い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、先日はたいへんお世話になりました、ありがとうございました。あれから京都、奈良をまわり、昨晩帰宅いたしました。おかげさまでとても楽しい旅行ができました。旅行中の写真ができましたらお送りいたします。くれぐれもお体をお大切に。

天气一直很冷，您最近怎么样？

前些天受到您的关照，非常感谢。那之后我转了京都和奈良，昨晚回到家里。托您的福，旅行非常愉快。旅行的照片洗出来后给您寄去。请您保重身体。

语法

1. 带来好的结果的原因

～おかげで

- * 解释：お(御)+かけ(陰/影)+で(原因)→在您的庇护下
- * 意思：因为
- * 特点：带来好的结果

1. いろいろ教えていただいたおかげで、楽しい旅ができました。

- * 承蒙您告诉了我很多，旅途才能非常愉快。

2. 彼が手伝ってくれたおかげで、仕事が速く済んだ。

- * 因为他的帮助，工作很快完成了。
- * 手伝う：(3, 自他五)帮忙，帮助；添加影响
- * 済む：(1, 自五)结束，完结。[记]。す(丝→轻)+む(闷)→变轻，关闭→结束
- * 済ませる：(3, 他下一)(済む的使役形)把～做完

3. みなさんのおかげで、難関を乗り越えました

- * 托大家的福，度过了难关。
- * 難関：(0, 名)难关
- * の乗り越える：(4, 3, 自下一)越过，跨过；克服(困难、痛苦等)。[记]。乗り+越える(越过)→乘上越过

2. 带来不好的结果的原因

～せいで

* 特点: 所為+で(因为)→怪～

* 意思: 因为

* 特点: 带来不好的结果

1. 自分勝手で人の気持ちを理解しようとしないせいで、人を傷つけてしまう。

* 因为只想着自己而不去理解别人的心情，最终给别人带来了伤害。

* 自分勝手: (4, 名/形动) 只顾自己

* 身勝手: (2, 名/形动) 只顾自己

* 傷つける: (4, 他下一) 伤害

* 傷つく: (3, 自五) 受伤害

2. 優柔不断なせいで、いい人を見逃した。

* 因为优柔寡断，错过了好人。

* 優柔不断: (0, 5, 形动) 优柔寡断

* 見逃す: (0, 3, 他五) 错过；当做没看见。[记]. 見+逃す→看完让其逃走

3. 忙しさのせいにして見過ごしがちな不眠や頭痛が、実は疾患のサインである。

* 因为忙碌而容易疏忽的失眠和头疼其实都是疾病的征兆。

* 忙しさ: (3, 名) 忙碌

* 見過ごす: (3, 0, 他五) 看漏；置之不理，不闻不问。[记]. 見+過ごす→看完就过去，没留意

* 不眠: (0, 名) 失眠

* 頭痛: (0, 名) 头疼

* 実は: (2, 副) 其实

* 疾患: (0, 名) 疾病，疾患

* サイン: (1, 名/自サ/sign) 签字，签名；暗号

4. 気のせいだよ。

* 心理作用；神经过敏；错觉

N2 第 33 課 一封书信(课文)

寒い日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか。

さて、先日はたいへんお世話になりました、ありがとうございました。あれから京都、奈良をまわり、昨晩帰宅いたしました。おかげさまでとても楽しい旅行ができました。旅行中の写真ができましたらお送りいたします。くれぐれもお体をお大切に。

天气一直很冷，您最近怎么样？

前些天受到您的关照，非常感谢。那之后我转了京都和奈良，昨晚回到家里。托您的福，旅行非常愉快。旅行的照片洗出来后给您寄去。请您保重身体。

N2 第 34 课 除夜的钟声(单词)

除夜の鐘

大晦日の夜、全国各地のお寺では「除夜の鐘」がつかれます。「除夜」とは、1年を取り、「除」く日の「夜」のこと。もともと大晦日が「除日」と呼ばれていたことに由来しています。諸説ありますが、鐘の数である108は人間のもつ煩悩の数と同じ。ひとつ鐘がつかれるたびに、その欲が浄化されるそうです。深夜響く鐘の音と、漆黒に広がる夜空。よい年になりますようにと願わざにはいられません。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

除夜的钟声

大年三十的夜里，全国各地的寺庙里都响起了除夕夜的钟声。“除夜”指去除了一年的那天夜里。这个说法源自过去把大年三十叫做“除日”。（关于这一天的习俗）有各种说法，说是108下钟声和人类拥有的烦恼的数量一样。据说每撞一下钟，欲望就会被净化。深夜响起的钟声和漆黑一片的夜空。忍不住祈愿新的一年是个好年。

单词

- * 除夜: (1, 名) 除夕夜
- * 削除: (1, 名/他サ) 消除, 删除
- * コピー: (1, 名/他サ/copy) 复印; 复制
- * 複写: (0, 名/他サ) 复印; 复写
- * 貼り付け: (0, 名) 粘贴
- * 貼り付ける: (4, 他下一) 粘贴
- * 鐘: (0, 名) 钟. [记]. か(火)+ね(粘)→火炼成的粘稠物→金属→钟
- * 大晦日: (3, 名) 大年三十
- * 全国各地: (1+1, 名) 全国各地
- * お寺: (0, 名) 寺庙
- * 寺院: (1, 名) 寺院
- * 社寺: (1, 名) 神社和寺院
- * 撞く: (0, 1, 2, 他五) 撞

- * 取り除く： (0, 4, 他五) 去除
- * のぞ 除く： (0, 他五) 除去，除了。[记]。の(长)+ぞ(其)+浊音(有关)+く(方向)→把有关的东西放远→除
- * のぞ 覗く： (0, 自他五) 探头看；偷看；稍微看
- * 取り上げる： (4, 0, 他下一) 拿起；提出话题；没收
- * 取り扱う： (5, 他五) 使用，处理，经营。[记]。取り+扱う(使用)→使用
- * 取り巻く： (3, 0, 他五) 包围，围绕；所处(的环境) * わたし と ま かんきょう 私たちを取り巻く環境： 我们所处的环境
- * 取り寄せる： (4, 0, 他下一) 调货
- * 取り繕う： (5, 0, 他五) 粉饰，掩饰
- * 除日： (0, 名) 大年三十
- * 徐行： (0, 名/自サ) 慢行
- * 徐々に： (1, 副) 徐徐地，慢慢地，缓缓地
- * おもむろ 徐に： (0, 副) 徐徐地，慢慢地，缓缓地。[记]。おも(重い)+む(木/关闭)+ろ(落)→徐
- * 由来： (0, 名/自サ) 由来
- * 理由： (0, 名) 理由
- * ゆいしょく 由緒： (1, 名) 起源和历史
- * ゆいしょただ 由緒正しい： (1+3) 正宗的
- * 諸説： (0, 名) 各种说法
- * ぎやくせつ 逆説： (0, 名) 反论；不同意见
- * ぼんのう 煩惱： (0, 3, 名) 烦恼
- * へいほん 平凡： (0, 名/形动) 平凡
- * へいぞく 平俗： (0, 名/形动) 平庸；通俗易懂
- * ほんじん 凡人： (0, 名) 凡人，平凡的人
- * よく 欲： (2, 名) 欲望

- * 貪る: (3, 他五) 贪, 贪心, 贪婪, 贪图. [记]. むさ(無差)+ぼ(博)+る(留)→无差别地全部收走
- * 贪欲: (0, 名/形动) 贪欲; 贪婪
- * ^{じょう}_か净化: (1, 0, 名/他サ) 净化
- * ^{せんじょう}_{きょう}洗净: (0, 名/他サ) 洗净
- * ^{くう}_き ^{せいじょう}_き空气净化机: (5, 名) 空气净化器
- * 清める/淨める: (3, 他下一) 洗净, 去除污垢
- * ^{きよ}清まる: (3, 自五) 变得干净
- * ^{きよ}清い: (2, 形) 清的, 清澈的; 清洁的; 清晰的. [记]. き(氣)+よい(良い)→心情好→清
- * ^{きよ}清らか: (2, 形动) 清洁, 纯洁, 清澈
- * ^{すがすが}清々しい: (5, 形) 空气清新的; 神清气爽的. [记]. す(丝→轻→清)+が(状态)+し(像)→清
- * ^{ひび}響く: (2, 自五) 回声, 响声; 影响. [记]. ひ(低)+び(微)+く(方向)→声音小→回声
- * ^{ひび}罅: (2, 名) 裂纹, 裂痕. [记]. ひ(根据字形→低)+び(微)→小东西→裂纹
- * ^{ひび}罅が入る: (2+1) 有裂痕
- * ^{おと}音: (2, 名) (东西发出的) 声响. [记]. お(大)+と(咚)→声响
- * 音色: (0, 名) 音色
- * ^{ほん}_ね本音: (0, 名) 心里话
- * ^{しつこく}漆黑: (0, 名) 漆黑
- * ^{うるし}漆: (0, 名) 漆树; 漆(器). [记]. う(字→雨)+る(流)+し(水→宀)→漆
- * ^{ひろ}広がる: (0, 自五) 扩大; 伸展, 开阔; 扩展, 蔓延
- * ^{ひろ}広げる: (0, 他下一) 把~扩大, 把~扩展; 把~摊开; 扩张, 扩展
- * ^{ひろ}広まる: (0, 自五) 变得宽广; 扩展, 推广, 传播, 流传
- * ^{ひろ}広める: (0, 他下一) 增长知识; 推广
- * ^{よぞら}夜空: (1, 名) 夜空

N2 第 35 课 除夜的钟声(语法)

除夜の鐘

大晦日の夜、全国各地のお寺では「除夜の鐘」がつかれます。「除夜」とは、1年を取り
「除」く日の「夜」のこともともと大晦日が「除日」と呼ばれていたことに由来しています。
諸説ありますが、鐘の数である108は人間のもつ煩悩の数と同じ。ひとつ鐘がつかれるたびに、
その欲が浄化されるそうです。深夜響く鐘の音と、漆黒に広がる夜空。よい年になりますように
と願わざにはいられません。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

除夜的钟声

大年三十的夜里，全国各地的寺庙里都响起了除夕夜的钟声。“除夜”指去除了一年的那天夜里。这个说法源自过去把大年三十叫做“除日”。(关于这一天的习俗)有各种说法，说是108下钟声和人类拥有的烦恼的数量一样。据说每撞一下钟，欲望就会被净化。深夜响起的钟声和漆黑一片的夜空。忍不住祈愿新的一年是个好年。

语法

双重否定

1. 一ずにはいられない

- * 解释：ず(否定/副词)+に(副词)+は(强调)+いられない(いる的可能形的否定式)→不～就呆不住
- * 意思：不～就呆不住；不～就难受
- * 特点：生理反应
- * 替换：ずには还可以替换成语气较为柔和的ないでは

1. 僅か3時間足らずで行けるのだから、便利になったものだと思わずにはいられない。

- * 仅仅不到三个小时就能到，不禁令人感到(交通)真是方便多了。

* 僅か：(1, 副/形动)仅仅

* 足らず：(1)不足

2. あまりにもおかしいから、笑わざにはいられない。

- * 太逗了，憋不住要笑。
- * あまりにも：(4, 副)过于

3. 話さざにはいられない。

- * 不说出来难受。

2. 一^{いっ}にはすまない

- * 解释: ず(否定/副词)+に(副词)+は(强调)+すまない(济む的可能形的否定式)→不～就没完
- * 意思: 不～没完; 不～这件事就完不了
- * 特点: 事情的结束
- * 替换: ずには还可以替换成语气较为柔和的ないでは

1. 謝^{あやま}ら^らにはすまない。

- * 不道歉, 这件事过不去(这个问题解决不了)。
- * 謝^{あやま}る: (3, 他五)道歉, 谢罪. [记]. あや(啊呀)+まる(む→嗯)→拟声词(惊讶、后悔)→道歉
- * 誤^{あやま}る: (3, 他五)错误

2. 借^かりた物^{もの}を紛失^{ふんしつ}してしまい、弁^{べん}償^{しよう}せ^ぜにはすまない。

- * 把借来的东西弄丢了, 不赔偿不行了(这件事过不去/这个问题解决不了)。
- * 紛失: (0, 名/自他サ)遗失, 丢失
- * 弁償: (0, 名/他サ)赔偿

3. いつまでもあやふやな態度^{たいど}を示^{しめ}すのがもう効^きかなくなつた。

- * 总是显示出模棱两可的态度已经没用了(不奏效了)。不拿出勇气面对, 问题解决不了。
- * いつまでも: (1, 副)始终, 永远
- * あやふや: (0, 形动)暧昧的, 含糊不清的. [记]. あ(あれ)+や(也→是)+ふ(不)+や(也→是)→是不是那个? →含糊
- * 態度: (1, 名)态度
- * 仕打ち: (0, 名)(对待别人的不好的)态度
- * 示す: (2, 他五)显示, 出示. [记]. し(示)+め(目)+す(做)→出示
- * 勇氣: (1, 名)勇气
- * 向き合^あう: (3, 自五)面对面; 直面(事态、问题等)

3. 一^{いっ}にはおかない

- * 解释: ず(否定/副词)+に(副词)+は(强调)+おかない(置く的可能形的否定式)→不～就不能放置
- * 意思: 不能放置不管
- * 特点: (主语是团体时)表示权力; (主语是个人时)表示决心
- * 替换: ずには还可以替换成语气较为柔和的ないでは

1. 危ない遊びなので、学校側も禁止せずにはおかないとだろう。

* 因为是危险的游戏，校方也不能放置不管吧。

* 危ない：(0, 3, 形) 危险的。[记]。あ(啊)+ぶ(不)+な(無) → “啊！不要” → 危险

* 遊び：(0, 名) 游戏，玩儿

* 学校側：(0, 名) 校方

* 禁止：(0, 名/他サ) 禁止

2. 新しい技術は、さまざまな産業のあり方を変えずにはおかないとだろう。

* 新技术一定会改变各种产业的形式。

* 技術：(1, 名) 技术

* さまざま：(2, 名/形动) 各种各样

* 産業：(0, 名) 产业

* あり方：(0, 名) 形式；应有的样子(あるべき 姿)

3. ただじやおかないと！

* 没那么便宜的！

N2 第 36 课 除夜的钟声(课文)

除夜の鐘

大晦日の夜、全国各地のお寺では「除夜の鐘」がつかれます。「除夜」とは、1年を取り
「除」く日の「夜」のこともともと大晦日が「除日」と呼ばれていたことに由来しています。
諸説ありますが、鐘の数である108は人間のもつ煩悩の数と同じ。ひとつ鐘がつかれるたびに、
その欲が浄化されるそうです。深夜響く鐘の音と、漆黒に広がる夜空。よい年になりますように
と願わずにはいられません。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

除夜的钟声

大年三十的夜里，全国各地的寺庙里都响起了除夕夜的钟声。“除夜”指去除了一年的那天夜里。这个说法源自过去把大年三十叫做“除日”。(关于这一天的习俗)有各种说法，说是108下钟声和人类拥有的烦恼的数量一样。据说每撞一下钟，欲望就会被净化。深夜响起的钟声和漆黑一片的夜空。忍不住祈愿新的一年是个好年。

N2 第 37 课 入春(单词)

ますはないろ 舛花色

えどじだいちゅうきかぶきやくしゃごだいめいちかわだんじゅうろうこのいろますいちかわけかもん
江戸時代中期の歌舞伎役者、5代目市川団十郎が好んだ色です。「舛」とは、市川家の家紋
である「三舛」のこと。落ち着きのなかにも力強さを感じさせるやや灰みの濃い青色です。

ふゆは 冬晴れ

りっしゅんすころきびさむしょうきゅうしははひ
立春を過ぎる頃になると、厳しい寒さは小休止とばかりに、おだやかに晴れる日がふいに
おとずふゆきはるとおますはないろそらはるとうらいよかん
訪れます。冬来たりなば春遠からじ。舛花色の空が春の到来を予感させます。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

舛花色

舛花色是江戸时代中期的歌舞伎演员、第5代市川团十郎喜欢的颜色。“舛”指市川家的家纹“三舛”(三升)。稳重当中让人感到强有力的带有的灰色的深蓝色。

晴朗的冬日

一过立春，严寒就好像在说要休息片刻一样，平静而晴朗的日子忽然来临了。“如果冬天来了，春天还会远吗？”舛花色的天空让人预感到春天的到来。

单词

* 升: (2, 0, 名)方框

* 役者: (0, 名)演员

* 役: (2, 名)角色；任务；职位

* 役割: (3, 0, 名)分配的任务；职责；作用

* 役目: (3, 名)职责；作用

* 役職: (0, 名)职位；管理层职位

* 役人: (0, 名)官吏，政府官员，公务员

* 使役: (0, 名)使役态

* 現役: (0, 名)现役；在职

* 好む: (2, 他五)喜好。[记]。こ(己)+のむ(飲む→接受)→自己接受→喜好

* 好き好む: (4, 他五)特别喜欢

* 好み: (1, 3, 名)喜好

- * 市川家: (4, 名)市川家(第一代: 三升屋兵库)
- * 家紋: (0, 名)家纹
- * 落ち着く: (0, 自五)稳定; 安定; 拍板定局; 沉稳冷静; 气氛平静
- * 穏やか: (2, 形动)平稳, 平静; 风和日丽; 温和安详. [记]. お(大)+だ(大)
- * 平穩: (0, 名/形动)平稳
- * 物静か: (3, 形)寂静的; 安静的
- * 力強さ: (4, 名)强有力; 给力
- * 力強い: (5, 形)强有力的; 给力的
- * パワフル: (1, 名/powerful)强有力的; 给力的
- * 灰み: (0, 名)带有灰色
- * 冬晴れ: (0, 名)平静晴朗的冬日
- * 立春: (0, 名)立春
- * 厳しい: (3, 形)严格的, 严厉的; 严酷的, 严峻的. [记]. き(氣)+び(逼)+し(像)→气势逼人→严
- * 厳しい: (4, 形)庄严的; 严肃的, 威严的; 严厉的, 严格的
- * 厳重: (0, 形动)森严
- * 厳格: (0, 形动)严格
- * 厳密: (0, 形动)严谨; 周密
- * 莊嚴: (0, 形动)庄严
- * 厳か: (2, 形动)庄严, 庄重, 严肃. [记]. お(大)+ご(过)+そ(肃)+か(加)→严
- * 小休止: (3, 名/自サ)稍微休息
- * 不意: (0, 名/形动)意料之外
- * 不意打ち: (0, 名)突然袭击
- * 不意(打ち)を食う/食らう: (0+1)被突然袭击
- * 思いがけない: (5, 6, 形)意料之外的

* 来たる: (2, 自五) 来

* 到来: (0, 名/自サ) 到来

* 予感: (0, 名/自他サ) 预感

* 試練: (1, 0, 名) 历练

* 甲斐: (0, 名) 价值; 意义

N2 第 38 课 入春(语法)

舛花色

えどじだいちゅうきかぶきやくしゃごだいめいちかわだんじゅうろうこのいろますいちかわけかもん
江戸時代中期の歌舞伎役者、5代目市川団十郎が好んだ色です。「舛」とは、市川家の家紋
である「三舛」のこと。落ち着きのなかにも力強さを感じさせるやや灰みの濃い青色です。

冬晴れ

りっしゅんすころきびさむしょうきゅうしははひ
立春を過ぎる頃になると、厳しい寒さは小休止とばかりに、おだやかに晴れる日がふいに
訪れます。冬来たりなば春遠からじ。舛花色の空が春の到来を予感させます。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

舛花色

舛花色是江戸时代中期的歌舞伎演员、第5代市川团十郎喜欢的颜色。“舛”指市川家的家纹“三舛”(三升)。稳重当中让人感到强有力的带有的灰色的深蓝色。

晴朗的冬日

一过立春，严寒就好像在说要休息片刻一样，平静而晴朗的日子忽然来临了。“如果冬天来了，春天还会远吗？”舛花色的天空让人预感到春天的到来。

语法

强调好像

1. とばかり

* 解释：と(引号→表示说的内容)+ばかり(全、光、净)

* 意思：简直就好像在说

* 接续：动词的未然形+; の+名词； に+谓语词

1. 「郷に入っては郷に従え。」とばかりに、働きかけるほどである。

* 简直就好像在说“入乡随俗”一样，都到了做工作的地步。

* 郷：(1, 名)乡，乡村

* 入る：(0, 自五)入

* 従う：(0, 3, 自五)跟随；服从；顺从；随着

* 働きかける：(1, 自下一)推动；对～做工作

2. 自分は関係ないとばかりの彼の言い逃れに腹が立った。

* 简直就好像在说跟自己没关系一样，我对他的托词感到很生气。

* 涼しい顔：(3+0)于己无关的表情

* 言い逃れる: (5, 他下一) 找借口推卸责任; 搞塞

* 腹が立つ: (2+1) 生气

3. 顔が見たくないとばかりに、ドアを閉められた。

* 简直就好像在说不想见到你一样，把门关上了。

2. ～んばかり

* 解释: ん(古语中的推测)+ばかり(全、光、净)

* 意思: 简直就好像

* 接续: 动词的未然形+; の+名词; に+谓语词

1. 防寒服に隠されている私の「卑小」を絞り出さんばかりになった。

* 甚至于要榨出皮袍下面藏着的“小”来。

* 防寒服: (3, 名) 防寒服

* 隠す: (2, 他五) 把～藏起来, 隐藏, 隐瞒. [记]. か(加)+く(くろ→黑)+す(做)→隐

* 卑小: (0, 名/形动) 卑微

* 絞る: (2, 他五) 榨, 拧; 缩小; 绞尽脑汁. [记]. し(湿)+ぼ(薄)+る(留→长)→榨, 绞

2. まるでこの矢を抜いてくれと言わんばかりに鳴いていました。

* 仙鹤叫着, 好像是在哀求把箭拔掉。

* 矢: (1, 名) 箭

* 鳴く: (0, 自五) 鸣叫. [记]. な(那→长)+く(哭)→(哭)叫

3. まるで立場の異なる二者の間で意見の対立が見られた場合には、

足して二で割ればちょうどよいとでも言わんばかりに。

* 当立场不同的二者间意见对立时, 简直就好像在说加起来除以二正好。

* 立場: (1, 3, 名) 立场

* 異なる: (3, 自五) 不同. [记]. こと(事)+な(那→长)+る(留→长)→有很多事→异

* 二者: (1, 名) 二者

* 意見: (1, 名) 意见

- * 対立: (0, 名/自サ)対立
- * 場合: (0, 名)場合, 情況
- * 足す: (0, 他五)加, 添加, 加法. [记]. た(多)+す(做)→加上
- * 割る: (0, 他五)打碎; 分割; 除法; 稀释. [记]. わ(完)+る(留→长)→让其完→割

N2 第 39 课 入春(课文)

ますはないろ 舛花色

えどじだいちゅうきかぶきやくしゃごだいめいちかわだんじゅうろうこのいろますいちかわけかもん
江戸時代中期の歌舞伎役者、5代目市川団十郎が好んだ色です。「舛」とは、市川家の家紋
である「三舛」のこと。落ち着きのなかにも力強さを感じさせるやや灰みの濃い青色です。

ふゆは 冬晴れ

りっしゅんすころきびさむしょうきゅうしははひ
立春を過ぎる頃になると、厳しい寒さは小休止とばかりに、おだやかに晴れる日がふいに
訪れます。冬来たりなば春遠からじ。舛花色の空が春の到来を予感させます。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

舛花色

舛花色是江戸时代中期的歌舞伎演员、第5代市川团十郎喜欢的颜色。“舛”指市川家的家纹“三舛”(三升)。稳重当中让人感到强有力的带有的灰色的深蓝色。

晴朗的冬日

一过立春，严寒就好像在说要休息片刻一样，平静而晴朗的日子忽然来临了。“如果冬天来了，春天还会远吗？”舛花色的天空让人预感到春天的到来。

N2 第 40 课 古代百姓的参拜(单词)

お伊勢参り

江戸時代中ごろから、伊勢神宮参詣が庶民の間で盛んになりました。江戸から片道十五日、大坂からでも五日という長旅です。けれど自由な旅が許されなかつた当時、お伊勢参りなら通行手形が認められ、一生に一度でも行きたい庶民の夢でした。そして貴重な旅ゆえ京や大坂へ足を伸ばす行楽ともなり、季節のいい春に好んで出かけたそうです。

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

参拜伊勢神宮

从江户时代中期开始，在民间很盛行参拜伊势神宫。从江户出发单程 15 天、从大坂也需要 5 天，算是长途旅行了。但是，当时不允许自由行，如果参拜伊势神宫的话，需要用通行证，一生去一次是当时百姓的梦想。因为是很珍贵的旅行，所以也成了顺便去京都和大阪的游览，据说人们常在季节好的春天去。

单词

- * お伊勢参り：(4, 名/自サ) 参拜伊势神宫
- * 伊勢神宮：(3, 名) 伊势神宫。三重县伊势市皇大神宫和丰受大神宫的总称。皇大神宫供奉天照大神，
神体为八咫镜。丰受大神宫供奉丰受大神。伊势神宫是皇居祭祀的最高存在而超越神社级别的神宫。明治以后成为国家神道的中心。
- * 参拝：(0, 名/自サ) 参拜
- * 参る：(1, 自五)(自谦) 去，来
- * 拝む：(2, 他五) 拜，(合掌) 行礼；祈愿。[记] お(圆)+が(状态)+む(闷)→身体弯曲→拜
- * 参詣：(0, 名/自サ) 参拜(神社或寺院)
- * 初詣：(3, 名/自サ) 新年第一次参拜(神社或寺院)
- * 中ごろ：(0, 名) (时间的) 中间；(场所的) 中部
- * 庶民：(1, 名) 庶民，平民
- * 盛ん：(0, 形动) 盛大，旺盛，昌盛，繁荣
- * 盛り：(0, 3, 名) 旺盛，兴盛；盛开；鼎盛

* 菜の花は今が盛り： (1+2+1+3, 0) 油菜花现在盛开

* 片道： (0, 名) 单程

* 往復： (0, 名/自サ) 往返

* の乗り換え： (0, 名/自サ) 换乘

* 長旅： (0, 名) 长途旅行

* 自由： (2, 名/形动) 自由

* 自由行動： (4, 名/自サ) 自由活动

* 行動： (0, 名/自サ) 行动， 行为

* 気楽： (0, 形动) 轻松， 悠闲自在， 自由

* 楽： (2, 形动) 轻松， 不费劲

* 許す： (2, 他五) 允许， 准许， 同意； 饶恕， 原谅。[记]. ゆ(裕)+る(留→长)+す(做)→使富裕

* 許せる： (3, 自下一) ゆる^{ゆる}許す的可能形。能允许； 能原谅

* 許可： (1, 名/他サ) 允许， 准许

* 通行手形： (5, 名) 通行证

* 通行： (0, 名/自サ) 通行； 通用

* 通行止め： (0, 名) 停止通行， 不通行

* 通り抜け： (0, 名) 穿过， 穿行

* 通り抜け禁止： (0, 名) 禁止穿过， 禁止通行

* 手形： (0, 名) 票据， 单据

* レシート： (2, 名/receipt) 收据， 购物小票

* 領收書： (0, 名) 发票

* 許可証： (2, 0, 名) 许可证

* ライセンス： (1, 名/licence) 许可； 专利

* 特許： (1, 名) 专利

- * **査証**: (0, 名) 签证
- * **ビザ**: (1, 名/visa) 签证
- * **パスポート**: (3, 名/passport) 护照
- * **旅券**: (0, 名) 护照
- * **認める**: (0, 他下一) 承认, 认可, 认同. [记]. 見+止める→看后留下→认可
- * **一生**: (0, 名/副) 一生
- * **生涯**: (1, 名/副) 生涯
- * **一生涯**: (3, 名/副) 一辈子
- * **一度**: (3, 名/副) 一度, 一次
- * **一度に**: (3, 副) 一次性地
- * **二度と**: (2, 副) (后面接否定形) 不做第二次, 再不~
- * **貴重**: (0, 形动/他サ) 贵重; 珍惜
- * **貴い/尊い**: (3, 形) 高贵的, 尊贵的, 贵重的, 宝贵的, 珍贵的. [记]. とう(特)+と(特)→尊
- * **尊ぶ/貴ぶ**: (3, 他五) 尊重, 尊敬; 重视, 珍惜
- * **尊さ/貴さ**: (3, 名) 尊贵, 贵重, 宝贵
- * **得難い**: (3, 形) 难得的
- * **有り難い**: (4, 形) 难得的, 值得感谢的
- * **江戸**: (0, 名) 东京的旧称。1457年建造江户城, 1590年德川家康入城至1603年开设幕府, 成为日本的政治经济中心。1868年7月改名为东京。
- * **京**: (1, 名) 京都
- * **大坂**: (0, 名) 大阪府大阪市。丰臣秀吉时代修筑大坂城。江户时代成为全国的经济中心。到明治初期一直写作大坂。
- * **坂**: (2, 名) 坡. [记]. さか(下がる)→向下→坡
- * **坂道**: (2, 名) 坡道
- * **窪**: (0, 1, 名) 坑, 低洼处. [记]. く(くだる→下る)+ぼ(ほる→掘る)→向下挖→坑

* 笑窪: ^{えくぼ} (1, 名) 酒窝

* 窪む: ^{くぼ} (0, 自五) (地方) 塌陷; (眼睛、脸颊) 凹陷; 陷入困境. [记]. く(くだる→下る)+ぼ(ほ→ほる→掘る)+む(用力状)→向下挖

* 落ち窪む: ^{おちくぼ} (4, 0, 自五) 凹陷

* 足を伸ばす: ^{あしのの} (2+2) 把腿伸长; 从某地到更远的地方去

* 行楽: ^{こうらく} (0, 名) 游览, 游玩

* 好んで: ^{この} (2, 副) 喜欢; 因为喜欢而经常

* 出かける: ^で (0, 自下一) 出门

N2 第 41 课 古代百姓的参拜(语法)

お伊勢参り

江戸時代中ごろから、伊勢神宮参詣が庶民の間で盛んになりました。江戸から片道十五日、大坂からでも五日という長旅です。けれど自由な旅が許されなかつた当時、お伊勢参りなら通行手形が認められ、一生に一度でも行きたい庶民の夢でした。そして貴重な旅ゆえ京や大坂へ足を伸ばす行楽ともなり、季節のいい春に好んで出かけたそうです。

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

参拜伊勢神宮

从江户时代中期开始，在民间很盛行参拜伊势神宫。从江户出发单程 15 天、从大坂也需要 5 天，算是长途旅行了。但是，当时不允许自由行，如果参拜伊势神宫的话，需要用通行证，一生去一次是当时百姓的梦想。因为是很珍贵的旅行，所以也成了顺便去京都和大阪的游览，据说人们常在季节好的春天去。

语法

1. 原因

1. 1. —(が)故(に)

* 解释：が(古语中起到连接作用的助词/被省略时语气柔和)+ゆえ(缘故)+に(副词)→相当(于)

* 接续：名词/形容词/动词+(が)故(に)

名词+/形动词+な/形词い+/动词简体+故(に)

* 语气：正式

1. 愛するがゆえに別れて、その愛が揺るぎないことを長い年月をかけて自覚した。

* 因为爱而分开，经过长年后自己感觉到了那份爱是不可动摇的。

* 別れる：(3, 自下一)分别，别离，分手

* 揆るぎない：(4, 形)不可动摇的，坚定的，稳固的

* 年月：(1, 名)年月

* 自覚：(0, 名/他サ)自己知道，自己认识到

2. 手軽なゆえについて油断してしまう。

* 因为简便才会不由得疏忽大意。

* 手軽：(0, 形动)简便，不费事

* 油断: (0, 名/自サ) 疏忽大意

3. 部下を評価する立場になると、優しすぎるがゆえに思い悩む人も少なくない。

* 一到要去评价部下的时候，不少人因为太心软而头疼。

* 部下: (1, 名) 部下

* 評価: (1, 名/他サ) 评价；好评

* 立場: (1, 3, 名) 立场

* 優しすぎる: (5, 自上一) 过于心软；过于温柔；太善良

* 思い悩む: (5, 0, 自五) 头疼烦恼，伤脑筋，苦恼

* 憶む: (2, 自五) 烦恼，痛苦。[记]. な(那→那么)+やむ(病む)→烦恼

* 憶み: (3, 名) 烦恼，痛苦

* 憶ましい: (4, 形) 令人烦恼的

1. 2. ~とあって/~とて

* 解释: と(引号)+あって(ある/有)；とて是とあって的简化形式

* 意思: 有～前提/原因/条件

* 接续: 任何词+

* 语气: 正式

1. 人気俳優が来るとあって、このイベントのチケットはあつという間に売り切れた。

* 因为有人气的演员要来，所以这个活动的票瞬间售完。

* 人気俳優: (4, 名) 有人气的演员

* 人気: (0, 名) 人气

* 俳優: (0, 名) 演员

* イベント: (0, 名/event) 举办的活动

* チケット: (2, 1, 名/ticket) 票

* あつという間: (0, 名) 瞬间

* 売り切れる: (4, 自下一) 售完，卖光

2. 彼はお金のためとあれば、どんな仕事でも引き受ける。

- * 他如果是为了钱，什么工作都接受。
- * ^ひ ^う 引き受ける：(4, 他下一) 接受(工作). [记]. 引き(拉→接)+受ける→接受

3. 大風のあととて、外は無人だった。

* 因为是大风之后，外面没有人。

* ^{おおかぜ} 大風：(3, 0, 名) 大风

* ^{そと} 外：(1, 名) 外面

* ^{むじん} 無人：(0, 名) 无人

N2 第 42 課 古代百姓的参拜(課文)

お伊勢参り

江戸時代中ごろから、伊勢神宮参詣が庶民の間で盛んになりました。江戸から片道十五日、大坂からでも五日という長旅です。けれど自由な旅が許されなかつた当時、お伊勢参りなら通行手形が認められ、一生に一度でも行きたい庶民の夢でした。そして貴重な旅ゆえ京や大坂へ足を伸ばす行楽ともなり、季節のいい春に好んで出かけたそうです。

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

参拜伊勢神宮

从江户时代中期开始，在民间很盛行参拜伊势神宫。从江户出发单程 15 天、从大坂也需要 5 天，算是长途旅行了。但是，当时不允许自由行，如果参拜伊势神宫的话，需要用通行证，一生去一次是当时百姓的梦想。因为是很珍贵的旅行，所以也成了顺便去京都和大阪的游览，据说人们常在季节好的春天去。

N2 第 43 課 地震预告(单词)

日本は世界でも有数の地震国である。地震と地震予知に対する世の関心もたかい。しかし地震予知は一つ間違えば大変な社会的混乱を招くことになり、諸刃の剣ともいるべきものである。しかも日本中で直前の地震予知ができるのは今のこところ東海地方だけである。純粹に学問的な意味でも、予知できる場所は限られている。まして社会に警告を与える形での予知はそう簡単にできるものではない。行政的な対応がどれぬままに、中途半端な予知情報が漏れた時の大混乱は想像にあまりある。

(浅田 敏『関東・東海地震と予知』岩波書店による)

日本在世界上都是为数不多的地震国。社会很关心地震和预知地震。可是预知地震如果错一次的话就会导致很大的社会混乱，也可以说成是双刃剑。而且如今在日本能够实现预知地震的只有东海地区。即便是从单纯的学术意义上来说，能预知到的地方也很有限。何况在给与社会警告这种形式上的预知不是那么简单的。没能采取行政上的对策而泄露了不到位的预知信息时产生的混乱是无法想象的。

单词

* 有数: (0, 形动) 为数不多, 屈指可数

* 指折り: (0, 名) 屈指可数

* 指: (2, 名) 手指. [记]. ゆ(ゆく→行く→方向)+び(微)→指方向的小东西→手指

* 屈指: (1, 0, 名) 屈指可数

* 地震国: (2, 名) 地震国

* 予知: (1, 名/他サ) 预知, 预先知道

* 予感: (0, 名/自他サ) 预感

* 勘: (0, 名) 直觉, 第六感觉

* 勘繹る: (3, 他五) 瞎猜

* 勘繹り: (0, 名) 瞎猜

* 憶測/臆測: (0, 名/他サ) 腮测

* 予測: (0, 名/他サ) 预测

- * 前兆: (0, 名) 前兆
- * 前触れ: (0, 4, 名) 前兆
- * 世: (1, 0, 名) 世; 人世间; 社会
- * 社会: (1, 名) 社会
- * 関心: (0, 名) 关心
- * 感心: (0, 名/自サ) 佩服
- * 呆れた: (0, 自下一) (带着气愤) 服了
- * 参ったね: (1, 自五) (被搞得很无奈) 服了
- * でも: (1, 连) 不过
- * だけど: (1, 连) (口语) 但是
- * ですが: (1, 连) (语气正式/敬体) 但是
- * だが: (1, 连) (语气正式/简体) 但是
- * ところが: (3, 连) (语气强) 但是
- * しかし: (2, 连) 可是
- * しかしながら(も): (4, 连) (语气正式且强) 但是可是
- * 間違う: (3, 自他五) 错误; 弄错
- * 間違える: (4, 3, 他下一) 弄错
- * 間違い: (3, 名) 错误
- * ミス: (1, 名/自他サ/miss) 错误, 失误
- * 誤り: (3, 0, 名) 错误, 失误
- * 過ち: (3, 0, 名) 过失, 罪过, 过错. [记]. あや(啊呀→吃惊)+ま(む→嗯)+ち(其)→惊讶后悔状→出错
- * 過ちを犯す: (3, 0+2) 犯下过错
- * 犯す: (2, 0, 他五) 违反, 犯法; 侵犯. [记]. お(根据嘴型→圆→驼背→后背)+か(加)+す(做)→在背后去做→侵犯
- * 社会的: (0, 形动) 社会性的
- * 混乱: (0, 名/自サ) 混乱
- * 大混乱: (2, 名) 很大的混乱

- * 招く: (2, 他五) 招待, 邀请; 招致. [记]. ま(满→圆)+ね(感叹词)+く(根据字形→方向)→招呼时的手势加声音→招
- * 諸刃: (0, 名) 双刃
- * 諸々 /諸々: (0, 名) 很多; 各种各样
- * 剣: (0, 3, 名) 剑. [记]. つ(刺)+る(留→长)+き(木)+浊音(加重)→突出的长的重物→剑
- * 刃物: (1, 名) 刀具
- * 弦: (2, 1, 名) 弦, 弓弦, 琴弦. [记]. つ(刺)+る(留→长)→突出的长物→弦
- * 鶴: (1, 名) 仙鹤. [记]. つ(刺)+る(留→长)→突出的长物→仙鹤的脖子
- * しかも: (2, 连) 而且
- * かつ: (1, 连) 并且
- * また: (0, 副/连) 又, 还, 再
- * 尚: (1, 副) (まだ和また的古语) 还有, 尚. [记]. な(那→长)+お(う→宇→大)→还有
- * 尚且つ: (1, 副) 而且; 还是, 依然是
- * 尚更: (0, 副) 越发. [记]. な(那)+お(大)→尚; さら(把沙子拉走→水更清)→更。尚+更→越发
- * 直前: (0, 名/副) (时间) 即将~之前; (空间) 正前面
- * 直後: (1, 名/副) (时间) 刚刚~之后; (空间) 正后面
- * 最中: (1, 名) (时间) 正在~之中; (空间) 正中央
- * 今のところ: (1, 副) 现在, 现阶段, 目前
- * 東海地方: (5, 名) 本州岛中部临太平洋的地区(静冈县、爱知县、三重县、岐阜县)。
- * 純粹: (0, 形动) 纯粹
- * 单純: (0, 名/形动) 单纯单一; 头脑简单
- * 学問的: (0, 形动) 学问上的
- * 学問: (0, 名) 学问
- * 限られている: (3, 用于句尾) 有限的
- * 限られた: (3, 修饰名词) 有限的

* 限り: (0, 名) 限, 限制, 极限

* ^ま況して(や): (1, 副) 何况. [记]. ま(满)+して(动词的中顿)→添加→何况

* 警告: (0, 名/他サ) 警告

* 中途半端: (4, 形动) 半途而废; 不到位

* 半端: (0, 形动) 半吊子

* あまりある: (4) 充分有余

N2 第 44 課 地震预告(语法)

日本は世界でも有数の地震国である。地震と地震予知に対する世の関心もたかい。しかし地震予知は一つ間違えば大変な社会的混乱を招くことになり、諸刃の剣ともいるべきものである。しかも日本中で直前の地震予知ができるのは今のこところ東海地方だけである。純粹に学問的な意味でも、予知できる場所は限られている。まして社会に警告を与える形での予知はそう簡単にできるものではない。行政的な対応がどれぬままに、中途半端な予知情報が漏れた時の大混乱は想像にあまりある。

(浅田 敏『関東・東海地震と予知』岩波書店による)

日本在世界上都是为数不多的地震国。社会很关心地震和预知地震。可是预知地震如果错一次的话就会导致很大的社会混乱，也可以说成是双刃剑。而且如今在日本能够实现预知地震的只有东海地区。即便是从单纯的学术意义上来说，能预知到的地方也很有限。何况在给与社会警告这种形式上的预知不是那么简单的。没能采取行政上的对策而泄露了不到位的预知信息时产生的混乱是无法想象的。

语法

1. 対于

～に対する

* 解释: に(方向/于)+対する(对)

* 接续: 名词+

1. 授業に対するご意見やご感想を聞かせてください。

* 告诉我对于课程的意见和感想。

* 授業: (1, 名)课

* 意见: (1, 名)意见

* 感想: (0, 名)感想

2. 何事に対しても眞面目な姿勢を持つ。

* 不管对什么事都拥有认真的姿态。

* 何事: (0, 名)任何事

* 姿勢: (0, 名)姿势; 姿态

3. 苦言や指摘に対して感謝を示す。

* 对于忠告和指正表示感谢。

* 苦言: (0, 名) 忠告

* 指摘: (0, 名/他サ) 指正

* 感謝: (1, 名/自他サ) 感谢

* 示す: (2, 他五) 显示, 出示. [记]. し(示)+め(目)+す(做)→出示

2. 古语否定之一

一ぬ

* 解释: 是(形容词)ない的古语

* 接续: 按照接续ない的方式

* 语气: 正式

1. 鳴く猫は鼠を捕らぬ。

* 光说不干。会叫的猫不逮耗子。

* 鼠: (0, 名) 老鼠

2. 成らぬ堪忍するが堪忍。

* 忍其难忍是为忍。

* 堪忍: (1, 名/他サ) 忍受

3. 降らぬ先の傘。

* 未雨绸缪。

N2 第 45 課 地震预告(课文)

日本は世界でも有数の地震国である。地震と地震予知に対する世の関心もたかい。しかし地震予知は一つ間違えば大変な社会的混乱を招くことになり、諸刃の剣ともいるべきものである。しかも日本中で直前の地震予知ができるのは今のこところ東海地方だけである。純粹に学問的な意味でも、予知できる場所は限られている。まして社会に警告を与える形での予知はそう簡単にできるものではない。行政的な対応がどれぬままに、中途半端な予知情報が漏れた時の大混乱は想像にあまりある。

(浅田 敏『関東・東海地震と予知』岩波書店による)

日本在世界上都是为数不多的地震国。社会很关心地震和预知地震。可是预知地震如果错一次的话就会导致很大的社会混乱，也可以说成是双刃剑。而且如今在日本能够实现预知地震的只有东海地区。即便是从单纯的学术意义上来说，能预知到的地方也很有限。何况在给与社会警告这种形式上的预知不是那么简单的。没能采取行政上的对策而泄露了不到位的预知信息时产生的混乱是无法想象的。

N2 第 46 课 梅桃争艳迎春天(单词)

にわさき はる
庭先の春

はくばい さ こうばい もも はな にわさき かき ね つぎ はな ひら なが たの
白梅が咲き、紅梅が、そして桃の花が、と庭先や垣根に次はどんな花が開くだろうと眺める樂し
みは、春ならでは。桜や木蓮の枝先にも開花を間近にして、樹精が蓄えられる氣配が感じられる
ころ。

いつ
一ふくつけて

ぶらりと 表へ出たら

もも はな さ
桃の花が咲いていた

やま の くち ばく もも はな 「桃の花」 より

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

庭前^{にわ}的^{さき}春天

白梅开放、红梅、然后是桃花，庭前和墙根处接下来会开什么花呢？这种眺望时的乐趣，只有春天才会有。樱花树和木兰的枝头也要迎来鲜花盛开，这个时候能够感到树精储备的迹象。

点上一支烟，溜达到屋外，发现桃花开了。山之口 猥 摘自《桃花》

单词

* 庭先: (0, 名) 庭前，院子接近檐廊的部分

* 縁側: (0, 名) 外廊，檐廊

* 白梅: (0, 名) 白梅

* 紅梅: (0, 名) 红梅

* 咲く: (0, 自五) 开(花)

* 花が開く: (2+2, 自他五) 开花

* 花を開き、実を結ぶ: (2+3, 0+0) 开花结果

* 大輪の花を咲かせる: (0+2+3) 取得了很大的成功

* 開花: (1, 0, 名/自サ) 开花

* 垣根: (2, 3, 名) 篱笆，栅栏；墙根

* 石垣: (0, 名) 石头墙

- * 石畳: (3, 名) 石板路
- * 堀: (0, 名) 围墙
- * 土堀: (0, 名) 土墙
- * 石堀: (2, 0, 名) 石墙
- * 次: (2, 名) 下一个
- * 次々と: (2, 副) 接二连三地, 接连不断地
- * 続々と: (0, 1, 副) 接二连三地, 接连不断地
- * 引き続き: (0, 名/副) 继续; 接下来; 持续
- * 持続的: (0, 形动) 长久持续
- * 眺める: (3, 他下一) 眺望. [记]. なが(長→兆)+め(目)+る(留→长)→目+兆→眺
- * 眺め: (3, 名) 风景
- * 挑む: (2, 自他五) 挑战, 挑衅. [记]. い(意)+ど(多→兆)+む(用力状)→挑
- * 跳ねる: (2, 自下一) 跳; (加热后) 飞溅; (胡子等) 上翘; (行情) 飞涨. [记]. は(哈→放)+ね(凝)+る(留→长)→使劲放→弹跳
- * 撥ねる: (2, 他下一) 使飞溅; 淘汰
- * 弹く: (2, 他五) (用手指) 弹; 不渗水; 淘汰. [记]. は(哈→放)+じ(溅)+く(方向)→飞溅
- * 逃れる: (3, 自下一) 逃跑, 逃脱; 逃避(责任). [记]. の(な→那→长→兆)+が(状态)+れ(来)+る(留→长)→逃
- * 責任を逃れる: (0+3) 逃避责任
- * 逃げる: (2, 自下一) 逃(走, 跑), (脱)逃. [记]. に(の→な→那→长→兆)+げ(给)+る(留→长→逃)→逃+兆→逃
- * 逃がす: (2, 他五) 错过(机会); (前接动词连用形)漏掉. [记]. の(な→那→长→兆)+が(状态)+す(做)→逃
- * チャンスを逃がす: (1+2) 错过机会
- * 聞き逃がす: (4, 他五) 听漏

- * 見逃がす: (3, 他五) 看漏; 放过
- * 楽しみ: (3, 4, 0, 名) 愉快, 快乐; 期待
- * 木蓮: (1, 2, 名) 木兰
- * 樹精/木靈/木魂/樹神: (0, 名) 树精, 树上的精灵
- * 言靈: (0, 名) 言灵; 语言的咒力
- * 魂: (1, 名) 灵魂. [记]. たま(球)+し(像)+い(一)→一个球状物→灵魂
- * 夢: (2, 名) 梦; 梦想
- * 幻想: (0, 名) 幻想
- * 幻影: (0, 名) 幻影. [记]. ま(满)+ぼろ(破落)+し(稀)→幻影
- * 蓄える: (4, 3, 他下一) 储蓄, 积蓄. [记]. た(多)+くわえる(加える)→多加→蓄
- * 気配: (1, 2, 名) 迹象
- * 兆: (0, 名) 兆头, 征兆. [记]. き(气)+ざし(さし→指し→出现)→有某种气象→兆头
- * 兆候: (0, 名) 征兆
- * 芽生え: (0, 3, 名) 发芽; 先兆, 萌芽
- * 芽生える: (3, 自下一) 发芽; 萌芽
- * 芽吹く: (2, 自五) (树木) 发芽
- * 一服: (4, 自サ) 喝杯茶; 吸支烟; 一服药
- * 一息を入れる: (2+0) 喘口气
- * ぶらりと: (2, 3, 拟态) 重物悬垂状; 漫无目的地来去状; 无所事事地打发日子状
- * ぶらぶら: (1, 拟态) (重物下垂) 摆达. [记]. ぶ(步)+ら(拉)→步行
- * ふらふら: (1, 拟态) (因无力而身体) 晃悠; (头)晕; 摆摆不定; 稀里糊涂. [记]. ふ(风)+ら(拉)
- * 表: (3, 名) 正面, 正门; 表面. [记]. お(う→宇→大)+も(猛)+て(手→方向)→大方向→正面
- * 裏: (2, 名) 背面, 反面; 内心; 内情. [记]. う(屋)+ら(拉)→拉到屋子里→里面
- * 裏地: (0, 名) 衣服的里衬

N2 第 47 课 梅桃争艳迎春天(语法)

にわさき はる 庭先の春

はくばい さ こうばい もも はな にわさき かき ね つぎ はな ひら なが たの
白梅が咲き、紅梅が、そして桃の花が、と庭先や垣根に次はどんな花が開くだろうと眺める樂し
みは、春ならでは。桜や木蓮の枝先にも開花を間近にして、樹精が蓄えられる氣配が感じられる
ころ。

いつ
一ふくつけて

ぶらりと 表へ出たら

もも はな さ
桃の花が咲いていた

やま のくち ばく もも はな
山之口 貂 「桃の花」 より

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

庭前^{まちか}的^{まちか}春天

白梅开放、红梅、然后是桃花，庭前和墙根处接下来会开什么花呢？这种眺望时的乐趣，只有春天才会有。樱花树和木兰的枝头也要迎来鲜花盛开，这个时候能够感到树精储备的迹象。

点上一支烟，溜达到屋外，发现桃花开了。山之口 貂 摘自《桃花》

语法

～を～にする

1. ～を間近にして

* 解释：～を～にする(把～当成～)

* 接续：～的部分接续名词

* 解释：～を間近にする(临近)

1. にじゅういっせい き まちか じんるいしやかい こんご てんかい
2. 1世紀を間近にして、人類社会は今後どのように展開していくのでしょうか。

* 马上就要到 21 世纪了，人类社会今后会如何发展呢？

* 間近：(1, 0, 名/形动) (时间和距离) 临近，接近

* 人類：(1, 名) 人类

* 今後：(0, 1, 名/副) 今后

* 展開：(0, 名/自サ) 展开

2. 死を間近にして周りの人に最も言いたいのは「ありがとう」という言葉です。

* 临近死亡时最想对周围人说的话是“谢谢”。

* 死: (1, 名)死, 死亡

* 周り: (0, 名)周围

* 最も: (3, 副)最

3. 論文の締切を間近にして、緊張感が高まる。

* 马上就要到论文截至的日期了，越来越紧张。

* 論文: (0, 名)论文

* 締切: (0, 名)截止, 截止日期

* 緊張感: (3, 名)紧张感

* 高まる: (3, 自五)高涨

* 高める: (3, 他下一)使高涨

2. ～を皮切りに

* 解释: 皮切り(皮肤切开→第一针→开端)

* 意思: 以～为开端

* 接续: 名+

* 语气: 正式

1. インドネシアを皮切りに新たな市場を視野に入れる。

* 以印度尼西亚为开端，放眼于新的市场。

* インドネシア: (3, 自下一)

* 新た: (1, 形动) (正式)新

* 市場: (0, 名) (大)市场

* 市場: (1, 名) (小)市场

* 視野: (1, 名)视野

2. このイベントは東京を皮切りに全国で開催される予定です。

* 这个活动预计在东京举办后推广到全国。

* イベント: (0, 名/event)举办的活动

* 全国: (1, 名)全国

* 開催: (0, 名/他サ) 召开, 举办

* 予定: (0, 名/他サ) 预计

3. 本作はワールドワイドで展開され、来年初頭よりヨーロッパを皮切りに順次リリースしていく。

* 本作品要在全世界推广, 明年初从欧洲开始依次发行。

* 本作: (0, 名) 本作品

* ワールドワイド: (5, 名/worldwide) 世界性, 世界范围, 全世界

* 来年: (0, 名/副) 明年

* 初頭: (0, 名) (期间或年代的)初, 开始

* ヨーロッパ: (3, 名/葡萄牙语 Europa) 欧洲

* 順次: (1, 副) 依次

* リリース: (2, 名/他サ/release) 发布(新闻), 公开发行(影片、唱片等)

N2 第 48 課 梅桃争艳迎春天(课文)

にわさき はる 庭先の春

はくばい さ こうばい もも はな にわさき かき ね つぎ はな ひら なが たの
白梅が咲き、紅梅が、そして桃の花が、と庭先や垣根に次はどんな花が開くだろうと眺める樂し
みは、春ならでは。桜や木蓮の枝先にも開花を間近にして、樹精が蓄えられる氣配が感じられる
ころ。

いつ
一ふくつけて

ぶらりと 表へ出たら

もも はな さ
桃の花が咲いていた

やま の くち ばく もも はな
山之口 貂 「桃の花」 より

(白井明大『日本の七十二候を楽しむ』東邦出版による)

庭前的春天

白梅开放、红梅、然后是桃花，庭前和墙根处接下来会开什么花呢？这种眺望时的乐趣，只有春天才会有。樱花树和木兰的枝头也要迎来鲜花盛开，这个时候能够感到树精储备的迹象。

点上一支烟，溜达到屋外，发现桃花开了。山之口 貂 摘自《桃花》

N2 第 49 课 夏天的风物诗——萤火虫(单词)

ホタル

よる やみ 夜の闇のなか、とうおう ひかり 藤黄の光を明滅させて飛ぶホタルの姿は、まさに幽玄そのもの。昔から夕涼みがてらホタルを愛でる「ホタル狩り」が行われ、夏の風物詩となりました。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

萤火虫

在黑夜当中，一边闪烁着藤黄色的光一边飞舞的萤火虫的样子，完全就是幽玄。自古至今一直都有“观赏萤火虫”的习俗，一边乘凉一边欣赏萤火虫，这构成了夏天的风物诗。

单词

* ホタル: (1, 名) 萤火虫

* 萤光: (3, 0, 名) 萤火虫发出的光；星火，余烬

* 萤光灯: (0, 名) 荧光灯

* 萤光ペン: (3, 0, 名) 荧光笔

* 間: (2, 名) 黑暗，黑夜；黑市；迷惑。[记] や(夜)+み(身)→黑夜

* 藤黄: (0, 名) 藤黄色

* 光: (3, 名) 光，光亮；光明，希望。[记] ひ(日)+か(火)+り(る→留→长)→太阳长→发光

* 光る: (2, 自五) 发光，闪烁

* ときめく: (3, 自五) (因喜悦、期待等而)心跳。[记] とき(どき→どきどき→心跳)+め(目)+く(方向)→心跳

* 恋い慕う: (4, 他五) 爱慕

* 惚れる: (0, 自下一) 迷恋

* 偲ぶ: (2, 0, 他五) 追忆；追悼。[记] し(偲)+のぶ(のむ→飲む→接受)→偲

* 忍ぶ: (2, 0, 他五) 忍耐；悄悄，偷偷。[记] し(死)+のぶ(のむ→飲む→接受)→接受死亡→忍

* 凌ぐ: (2, 0, 他五) 战胜(寒暑、困难等)；超过(人等)。[记] し(胜)+の(な→长)+く(方向)+浊音(拖泥带水→有关)→凌驾

* 勝る: (2, 0, 自五) 胜过，优胜。[记] ま(满)+さ(そ→其)+る(留→长)→超过它

* 明滅: (0, 名/自サ) 闪烁

* 滅^{ほろ}びる: (3, 0, 自上一) 灭亡, 灭绝. [记]. ほろ(轰隆)+び(微)+る(留)→轰隆一声变成小的→灭亡

* 滅^{ほろ}ぼす: (3, 他五) 使灭亡, 使灭绝. [记]. ほろ(轰隆)+ぼ(剥)+す(做)→使灭亡

* 幽^{ゆうげん}玄: (0, 名/形动) 幽玄, 非常有余韵; 伴有余韵的感动

* 奥^{おく}深い: (4, 形) 深奥的

* 静^{せいじやく}寂: (0, 名/形动) 寂静

* 神秘^{しんぴ}的: (0, 形动) 神秘的

* 秘密^{ひみつ}: (0, 名) 秘密

* 内^{ない}緒^{しょ}: (3, 0, 名) 秘密

* 内^{ない}緒^{しょ}話^{ばなし}: (4, 名) 悄悄话

* 密^{ひそ}やか: (2, 形动) 寂静; 秘密. [记]. ひ(低)+そ(嗖→清→轻)+や(也)+か(加)→寂静

* ひっそりと: (3, 副) 鸦雀无声, 寂静; 无声无息. [记]. ひ(根据字形→低)+そ(轻)

* 荒^{あら}い: (0, 2, 形) 气势凶猛的; 无节制的. [记]. あら(哎呀→惊讶)→疯狂

* 荒^{あらあら}々^々しい: (5, 形) 狂风暴雨的; 气势凶猛的; 行为粗鲁的. [记]. あら(哎呀→惊讶)+あら(哎呀→惊讶)+し(像)→粗

* 荒^{あら}れる: (0, 自下一) 波涛汹涌; 狂风暴雨; 行为粗鲁; 皮肤粗糙. [记]. あれ(哎呀→惊讶)+る(留→长)→狂

* 荒^{あら}らす: (0, 他五) 弄乱; 扰乱; 搞糟. [记]. あら(哎呀→惊讶)+す(做)→弄乱

* 粗^{あら}い: (0, 形) 粗的; 粗大的, 粗糙的, 粗略的. [记]. あら(哎呀→惊讶)→粗

* 粗末^{そまつ}: (1, 名/形动) 粗糙, 简陋, 不爱惜

* ぞんざい: (3, 0, 形动) 粗, 粗暴, 粗鲁, 不珍惜, 不善待

* 疎^{おろそ}か: (2, 3, 形动) 粗心大意, 敷衍了事. [记]. お(大)+ろ(落)+そ(松)+か(加)→大的落下且松→疏

* 疎^{うと}い: (2, 形) 疏远的; 生疏的; 不谙世事的. [记]. う(无)+と(特)→没有→疏

* 疎^そ遠^{えん}: (0, 名/形动) 疏远

* 疎^{まば}ら: (0, 形动) 稀疏. [记]. ま(間)+ばら(扒拉)→拉开空间→稀疏

* 夕涼^{ゆうすず}み: (3, 0, 名/自サ) 夏天傍晚乘凉

* 涼む：(2, 自五) 乘凉

* 涼やか：(2, 形动) 凉爽；清爽

* 愛でる：(2, 他下一) 欣赏；爱，疼爱，怜爱

* ホタル狩り：(0, 名) 观赏萤火虫

* いちご狩り：(0, 名) 采摘草莓

* もみじ狩り：(0, 名) 观赏红叶

* 風物詩：(4, 3, 名) 风物诗(充分表现季节感的典型景物)

N2 第 50 课 夏天的风物诗——萤火虫(语法)

ホタル

よる やみ 夜の闇のなか、とうおう 藤黄の光 ひかり を明滅させ とめいめつ て飛ぶホタルの姿 すがた は、まさに幽玄 ゆうげん そのもの。昔 むかし から夕涼 みがてらホタルを愛 めで する「ホタル狩り」が 行 おこな われ、夏の風物詩 なつ ふうぶつしとなりました。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

萤火虫

在黑夜当中，一边闪烁着藤黄色的光一边飞舞的萤火虫的样子，完全就是幽玄。自古至今一直都有“观赏萤火虫”的习俗，一边乘凉一边欣赏萤火虫，这构成了夏天的风物诗。

语法

1. 在～当中

～なか、

* 解释：中+で(范围)/を(移动)

* 意思：在～当中

* 接续：按照修饰名词的方式

1. 横殴りの吹雪の中で作業 した。

* 在凶猛的暴风雪中作业。

* 横殴り：(0, 名)横吹

* 殴る：(2, 他五)殴打。[记]. な(那→长)+く(方向)+浊音(拖泥带水→有关)+る(留→长)→打到

* 吹雪：(1, 名)暴风雪

* 作業：(1, 名/自サ)(体力或脑力劳动的)作业

2. 土砂降りの雨の中を走って帰った。

* 在瓢泼大雨中跑回来。

* 土砂降り：(0, 名)倾盆大雨

3. お忙しい中、お時間を割いてくださって、ありがとうございます。

* 感谢您在百忙当中抽出时间。

* 割く：(1, 他五)把～撕裂；把～拆开；挑拨。[记]. さ(撕)+く(方向)→撕裂

2. 本身

一そのもの

- * 解释: そのもの(那个东西)
- * 意思: 其本身
- * 接续: 名词+

1. わざと本音と正反対なことを言うのは弱気そのものです。

- * 故意说违心的话就是懦弱。
- * わざと: (1, 副) (不好)故意地. [记]. わ(あ→上)+ざ(杂)→技→わざと→用伎俩→故意
- * 本音: (0, 名)真心话, 心里话
- * 正反対: (3, 名/形动)正相反
- * 弱気: (0, 3, 名/形动)懦弱

2. いくら傷ついても最後に許してしまう元は愛そのものです。

- * 不管怎么受伤, 最终原谅就是因为爱。
- * 傷つく: (3, 自五)受伤害
- * 最後: (1, 名)最后
- * 許す: (2, 他五)允许, 准许, 同意; 饶恕. [记]. ゆ(裕)+る(留→长)+す(做)→使宽裕
- * 元: (2, 名)根基; 根源; 起源
- * 源: (0, 名)源泉; 水源; 根源. [记]. み(みず→水)+な(なる→也→是)+もと(原)→水+原→源
- * 原動力: (3, 名)原动力

3. お互いに自分の意見だけを述べるのではなく、相手の考え方をきちんと聞いた上で、

より合理的な到達点を見つけるのが議論そのものです。

- * 不是只互相阐述自己的意见, 而是在认真听取对方的想法之上, 找到更加合理的到达点才是讨论。
- * お互いに: (0, 副)相互
- * 意見: (1, 名)意见
- * 述べる: (2, 他下一) (叙, 阐)述. [记]. の(な→那→长)+べ(边)+る(留→长)→述
- * 相手: (3, 名)对象, 对方
- * 考え: (3, 名)想法

- * きちんと: (2, 副) 工工整整; 整整齐齐; 规规矩矩; 好好. [记]. き(切る→完全)+ち(齐)→齐→整
- * 合理的: (0, 形动) 合理的
- * 到達点: (4, 3, 名) 到达点, 目标
- * 見つける: (0, 他下一) 找到; 看惯, 常看
- * 議論: (1, 名/他サ) 讨论, 辩论

3. 顺便; 同时; 一起

一がてら

- * 解释: が(连接前后的助词)+て(手)+ら(拉)
- * 意思: 顺带手
- * 接续: 名词+

1. 犬の散歩がてら郵便局に寄って來た。

- * 遛狗, 顺便去了邮局。
- * 寄る: (0, 自五) 接近, 靠近; 顺路. [记]. よ(悠)+る(留→长)→靠近

2. 雨宿りがてら、小さなカフェで一休みした。

- * 避雨, 顺便在一个小的咖啡店歇歇脚。
- * 雨宿り: (3, 名/自サ) 避雨. [记]. や(夜)+と(泊)+浊音(拖泥带水→有关)+り(る→长)→住宿
- * カフェ: (1, 名/法语 cafe) 咖啡店
- * 一休み: (2, 名/自サ) 休息一会儿

3. ドライブがてら都内から行ける人気スポットがいくつかあります。

- * 有几个能从东京都内开车兜风去的人气景点。
- * ドライブ: (2, 名/自サ/drive) 开车, 开车兜风
- * 都内: (1, 名) 东京都内
- * スポット: (2, 名/spot) 地点

N2 第 51 课 夏天的风物诗——萤火虫(课文)

ホタル

よる やみ 夜の闇のなか、とうおう ひかり 藤黄の光を明滅させて飛ぶホタルの姿は、まさに幽玄そのもの。昔から夕涼みがてらホタルを愛でる「ホタル狩り」が行なわれ、夏の風物詩となりました。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

萤火虫

在黑夜当中，一边闪烁着藤黄色的光一边飞舞的萤火虫的样子，完全就是幽玄。自古至今一直都有“观赏萤火虫”的习俗，一边乘凉一边欣赏萤火虫，这构成了夏天的风物诗。

N2 第 52 课 浮世绘中的樱叶年糕(单词)

えどじまんさんじゅうろくきょう
江戸自慢三十六興

むこうじまつみのはなならび
向嶋堤ノ花并にさくら餅

うち
歌川広重(二代) 歌川豊国(三代) 元治元年(1864)

さくら さすみだがわつつみ じよせいふたり ぼう わた はこ ちようめいじ さくら とうじ たけ
桜の咲く隅田川堤を女性2人が棒に渡して運んでいるのが、長命寺の桜もち。当時は竹で

あ 編んだかごに入れて持ち運んだという。手に持たず、2かごつるしているところをみると、かご
にはかなりの量の桜もちが入っているのだろうか。

(『旅したいおいしい浮世絵』NHK出版による)

江戸自慢三十六興 向島堤坝的樱花和樱叶年糕

歌川広重(二代) 歌川豊国(三代) 元治元年(1864)

在樱花开放的隅田川堤坝上，两位女性抬着一根木棒，搬的东西就是长命寺的樱叶年糕。据说是把樱叶年糕放在竹子编的筐里搬运。不用手拿，而是挑着两个筐，看到这个样子，(令人)猜想筐里是不是装着很多的樱叶年糕呢？

单词

* 浮世絵: (0, 3, 名)江戸时代以现实社会的风俗为题材，形成一个流派的画家们的绘画。17世纪后半叶，由菱川师宣完成。描绘花街柳巷、戏剧、相扑等手艺人和商人阶层喜好的风俗画、肖像画及风景画等。有手绘画和版画两种。著名的画家有铃木春信、喜多川歌麿、东洲斋写乐、歌川广重、葛饰北斋等。

* 自慢: (0, 名/自他サ)自满，自夸

* 自慢話: (4, 名)自满的话

* 手柄話: (4, 名)取得成绩的自满的话；表功，自夸功劳的话

* 手柄: (3, 名)功绩，功劳

* 手柄を立てる: (3+2)立下功劳

* 向嶋: (0, 名)日本东京都墨田区的一个地区。旧向岛地区隔隅田川和浅草相对，是江戸时代的娱乐场和别墅区。

* 隅田川: (3, 名)流经东京都东部的河流。

* 隅: (1, 名)角落。[记]。す(丝→轻)+み(身)→轻的东西→角落

* 隅々: (2, 1, 名)各个角落。[记]。す(丝→轻)+み(身)→轻的东西→角落

- * 墨: (2, 名)墨. [记]. す(する→磨る)+み(身)→磨出来的东西→墨
- * 炭: (2, 名)炭. [记]. す(する→磨る)+み(身)→磨出来的东西→墨→黑炭
- * 堤: (3, 0, 名)堤坝. [记]. つ(突く)+つ(突く)+み(身)→很长突出的东西→“堤”的字形解释
- * 土手: (0, 名)堤坝
- * 地台: (0, 名)地基; 基础, 根基
- * 基礎: (1, 名)基础
- * 基づく: (3, 自五)基于, 根据, 按照. [记]. もと(元)+づく(付く)→附着于原地→基于
- * 础: (0, 名)基础. [记]. いし(石)+ずえ(すえ→据える→放→楚)→石+楚→础
- * 女性: (0, 名)女性
- * 棒: (0, 名)棒子, 棍子
- * 棒に振る: (0+0)白干, 白浪费, 努力化为泡影
- * 足が棒になる: (2+0+1)腿脚累得僵直
- * 棒暗記: (3, 名/他サ)死记硬背
- * 丸暗記: (3, 名/他サ)死记硬背
- * 暗記: (0, 名/他サ)背, 背诵
- * 頭に詰め込む: (0+3)塞进脑子
- * 詰め込む: (3, 他五)塞进, 装满
- * 頭に叩き込む: (0+3)塞进脑子
- * 叩き込む: (3, 他五)打进, 用力敲进去; 牢记; 严格教授
- * 扱く: (2, 他五)严格训练. [记]. し(强)+ご(过)+く(方向)→严格
- * 叱り付ける: (5, 他下一)严厉地批评. [记]. 叱り(批评)+付ける(附着)→使劲批评
- * 渡す: (0, 他五)把~交给, 递给. [记]. わ(あ→上)+た(他)+す(做)→上他那儿→递给
- * 渡る: (0, 自五)(渡)过

- * 運ぶ: (0, 自他五) 搬运; 前往. [记]. はこ(箱)+ぶ(搬)→搬运
- * 足を運ぶ: (2+0) 前去访问
- * 持ち運ぶ: (4, 0, 他五) 搬运, 携带
- * 竹: (0, 名) 竹子. [记]. た(多)+け(こ→已→小)→很多小的节→竹
- * 丈/長: (2, 名) 高度; 长度; 全部
- * 編む: (1, 他五) 编织. [记]. あ(上)+む(闷)→编织时的状态→编织
- * 織る: (1, 他五) 织, 编织, 纺织. [记]. お(根据嘴型→圆→折→织)+る(留→长)→编织
- * かご: (0, 名) 筐, 笼. [记]. か(加)+ご(kuang 筐)→筐
- * カート: (1, 名/cart) 手推车
- * 籠耳: (0, 名) 听了就忘
- * ざる耳: (0, 2, 名) 听了就忘
- * ざる: (2, 名) 漏勺
- * 空耳: (0, 2, 名) 幻听, 听错; 假装听不见
- * 初耳: (0, 名) 第一次听
- * 袋耳: (3, 名) 听一次就记住
- * 吊るす: (0, 他五) 悬挂. [记]. つ(刺)+る(留→长)+す(做)→钩上来→吊
- * 吊る: (0, 自他五) 吊. [记]. つ(刺)+る(留→长)→钩上来→吊
- * 吊り橋: (0, 名) 吊桥
- * かなり: (1, 副) 相当
- * 量: (1, 名) 量

N2 第 53 课 浮世绘中的樱叶年糕(语法)

えどじまんさんじゅうろくきょう
江戸自慢三十六興

むこうじまつみのはなならび
向嶋堤ノ花并にさくら餅

うち
歌川広重(二代) 歌川豊国(三代) 元治元年(1864)

さくら さくら すみだがわつつみ じよせいふたり ぼう わた はこ ちようめいじ さくら とうじ たけ
桜の咲く隅田川堤を女性2人が棒に渡して運んでいるのが、長命寺の桜もち。当時は竹で

あ
編んだかごに入れて持ち運んだという。手に持たず、2かごつるしているところをみると、かご
にはかなりの量の桜もちが入っているのだろうか。

(『旅したいおいしい浮世絵』NHK 出版による)

江戸自慢三十六興 向島堤坝的樱花和樱叶年糕

歌川広重(二代) 歌川豊国(三代) 元治元年(1864)

在樱花开放的隅田川堤坝上，两位女性抬着一根木棒，搬的东西就是长命寺的樱叶年糕。据说是把樱叶年糕放在竹子编的筐里搬运。不用手拿，而是挑着两个筐，看到这个样子，(令人)猜想筐里是不是装着很多的樱叶年糕呢？

语法

ところ(地点；时间；程度；状况)

1. 表示程度低

～といったところ

* 解释：といった(之类的)+ところ(程度)

* 特点：通常表示程度低

* 接续：任何词

1. きょう
今日のできは、まあまあといったところです。

* 今天的成绩还行。

* まあまあ：(1, 3, 形动/1, 副)还行，还可以，过得去，勉强

* まずまず：(1, 副)还行，还可以，过得去，勉强

2. たん あそ
単なる遊びといったところです。

* 也就是玩儿玩儿。

* 单なる：(1, 连体)只是，仅仅

3. ほか ひと きび
他の人にとって厳しいトレーニングでも、安藤さんにとってはちょうどいい散歩といったところです。

* 对别人来说是严格的训练，但是对安藤来说也就是个正合适的散步。

* トレーニング：(2, 名/他サ/training)训练

2. 在～时被～

～ところを

- * 解释: ところ(时间; 状况)+を(他动词前面使用的助词)
- * 特点: 后面加被动式, 指人被～
- * 接续: 现在进行时/现在进行时的过去式+

1. 困っているところを助けられたら、必ずお礼を言う。

- * 为难的时候被帮助了, 必定道谢。

* お礼を言う: (0+0)道谢

2. 犯人は買い物をしていたところを、警察に逮捕された。

- * 犯人在买东西的时候被警察逮捕。

* 犯人: (1, 名)犯人

* 警察: (0, 名)警察

* 逮捕: (1, 名/他サ)逮捕

3. 病気しているところを家族に知られたくない。

- * 我不想让家人知道我生病了。

3. 在～时

～ところに/へ

- * 解释: ところ(时间)+に/へ(方向)
- * 接续: 现在进行时/现在进行时的过去式+

1. 寝ようとしているところへ、電話がかかってきた。

- * 正要睡觉的时候来了电话。

2. 道に迷っていたところへ、通りかかった人が親切に教えてくれました。

- * 正迷路的时候, 路人热情地告诉我怎么走。

* 道に迷う: (0+2)迷路

* 通りかかる: (5, 0, 自五)正在通过

* 親切: (1, 名/形动)亲切; 乐于助人

3. ちょうど彼のうわさをしているところに、本人が現れた。

- * 正在聊他的时候，本人出现了。
- * 噰^{うわさ}：(0,名)传言，风言风语。[记]。うわ(哇)+さ(飒→快)→声势大及快→传言
- * 本人^{ほんにん}：(1,名)本人
- * 现れる^{あらわ}：(4,自下一)表现，出现。[记]。あら(ある→有る)+わ(あ→上)+れ(来)+る(留→长)→出来

N2 第 54 课 浮世绘中的樱叶年糕(课文)

えどじまんさんじゅうろくきょう
江戸自慢三十六興

むこうじまつみのはなならび
向嶋堤ノ花并にさくら餅もち

うたがわひろしげにだい 歌川広重(二代) うたがわとよにくにさんだい 歌川豊国(三代) げんじがんねん 元治元年(1864)

さくらの咲く隅田川堤を女性2人が棒に渡して運んでいるのが、長命寺の桜もち。當時は竹で

あ編んだかごに入れて持ち運んだという。手に持たず、2かごつるしているところをみると、かごにはかなりの量の桜もちが入っているのだろうか。

(『旅したいおいしい浮世絵』NHK出版による)

江戸自慢三十六興 向島堤坝的樱花和樱叶年糕

歌川広重(二代) 歌川豊国(三代) 元治元年(1864)

在樱花开放的隅田川堤坝上，两位女性抬着一根木棒，搬的东西就是长命寺的樱叶年糕。据说是把樱叶年糕放在竹子编的筐里搬运。不用手拿，而是挑着两个筐，看到这个样子，猜想筐里是不是装着很多的樱叶年糕呢？

N2 第 55 课 橘红色的早晚(单词)

あかねぞら あかねぐも 茜空と茜雲

たいようこう ど ひく あさ ゆうがた くう き ちゅう とお たいようこうせん きより なが は ちょう なが
太陽高度の低い朝や夕方は、空気中を通る太陽光線の距離が長くなります。すると波長の長い
ひかり ちじょう とど そら あか きいろ つよ くう き ちゅう すいじょう き おお
光しか地上に届かなくなるため、空の赤や黄色が強くなるのです。空気中の水蒸気が多くなれ
ばなるほど美しい茜色の夕焼けとなるため、台風が近づきつつある晴れた日は、絶好の夕焼け
ひより あかねいろ そら あかねぞら くも あかねぐも よ ぜつこう ゆう や
日和といえるでしょう。茜色に染まった空は「茜空」、雲は「茜雲」と呼ばれます。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

茜色和茜云

在太阳高度较低的早晨和黄昏，通过空气的太阳光线的距离变长。于是，只有波长较长的光才能到达地面，所以天空的红色和黄色就会变强。空气中的水蒸气越多就越会形成美丽的茜色晚霞，所以台风逐渐接近的晴朗的天气可以说是形成晚霞的非常好的条件。染成茜色的天空叫做“茜空”，染成茜色的云彩叫做“茜云”。

单词

- * 茜: (0, 名) 茜
- * 茜色: (0, 名) 茜红色
- * 茜空: (4, 名) 茜空
- * 茜雲: (4, 名) 茜云
- * 太陽高度: (5, 名) 太阳高度
- * 太陽光線: (5, 名) 太阳光线
- * 距離: (1, 名) 距离
- * 距離を置く: (1+0) 保持距离
- * すると: (0, 接续) 于是
- * 波長: (0, 名) 波长
- * 波長が合う: (0+1) 想法和感觉很相似
- * 地上: (0, 名) 地上
- * 届く: (2, 自五) (收) 到, (寄) 到; (周) 到
- * 届ける: (3, 他下一) 把～送到

* 届け: (3, 名) (提交给政府机关、公司、学校等的)报告, 申请

* 婚姻届け: (5, 名)结婚申请

* 出生届け: (5, 名)出生证明

* 出生率: (3, 名)出生率

* 被害届け: (4, 名)报案

* 強い: (2, 形)强的

* 強いる: (2, 他上一)强迫. [记]. し(死→强烈→强)+いる(入る)→强迫

* 強いて: (1, 副) (冲破困难及反对)非要, 硬要

* 強いて言えば: (1+2)如果硬要我说的话

* 敢えて: (1, 副)斗胆

* 敢えて言えば: (1+2)如果斗胆说的话

* 強か: (0, 2, 形动)强悍, 霸悍, 不好惹, 难对付

* 強ち: (0, 副) (后接否定)未必

* 水蒸気: (3, 名)水蒸气

* 美しい: (4, 形)美的, 美丽的, 美好的

* 麗しい: (4, 形)美丽的; 华丽的; 温暖的; 心情好的

* 潤う: (3, 自五)湿润; 受益. [记]. う(雨)+る(留→长)+おう(负う)→覆盖长雨→湿润

* 潤す: (3, 他五)使湿润; 使富足; 使受益

* 経済を潤す: (1+3)使经济富足

* 崖: (0, 名)悬崖

* 崖つ縁: (0, 名)悬崖边; 顶尖, 顶级

* 崖つ縁アイドル: (6, 名)顶级偶像

* アイドル: (1, 名/idol)偶像

* ボトルネック: (4, 名)瓶颈

* 夕焼け: (0, 名) 晚霞

* 台風: (3, 名) 台风

* 津波: (0, 名) 海啸

* 龍巻: (0, 名) 龙卷风

* 近づく: (3, 0, 自五) 靠近, 接近, 临近

* 近づける: (4, 0, 他下一) 使靠近, 使接近

* 近寄る: (3, 0, 自五) 靠近, 接近, 挨近

* 絶好: (0, 名/形动) 绝好

* 日和: (0, 名) 天气状况; 好天气

* 日向: (0, 名) 向阳处, 朝阳处

* 日向ぼっこ: (4, 名/自サ) 晒太阳

* 日向雨: (3, 名) 出太阳时下的雨

* 染まる: (0, 自五) 染上颜色; 沾染上(恶习)

* 染める: (0, 他下一) 使染上颜色; 沾染上(恶习)

* 染みる/沁みる/滲みる: (0, 自上一) 沙疼; (液体、思想、文化等) 渗透; 铭刻在心

* 味がしみ込む: (0+3) 入味

* 滲む: (2, 自五) 渗透; 涣. [记]. に(泞)+じ(紧)+む(闷)→水紧→渗

* 字が滲む: (1+2) 字涣

* 滲み出る: (3, 自下一) 渗透; 流露

* 人柄が滲み出る: (0+3) 渗透人品

* 雲: (1, 名) 云. [记]. く(くろ→黑)+も(もの→物)→乌云

* 曇る: (2, 自五) 天空多云; 模糊; 发愁; 阴沉

N2 第 56 课 橘红色的早晚(语法)

あかねぞら あかねぐも 茜空と茜雲

たいようこう ど ひく あさ ゆうがた くう き ちゅう とお たいようこうせん きより なが は ちょう なが
太陽高度の低い朝や夕方は、空気中を通る太陽光線の距離が長くなります。すると波長の長い
ひかり ちじょう とど そら あか きいろ つよ くう き ちゅう すいじょう き おお
光しか地上に届かなくなるため、空の赤や黄色が強くなるのです。空気中の水蒸気が多くなれ
ばなるほど美しい茜色の夕焼けとなるため、台風が近づきつつある晴れた日は、絶好の夕焼け
ひより あかねいろ そら あかねぞら くも あかねぐも よ ぜつこう ゆう や
日和といえるでしょう。茜色に染まった空は「茜空」、雲は「茜雲」と呼ばれます。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

茜色和茜云

在太阳高度较低的早晨和黄昏，通过空气的太阳光线的距离变长。于是，只有波长较长的光才能到达地面，所以天空的红色和黄色就会变强。空气中的水蒸气越多就越会形成美丽的茜色晚霞，所以台风逐渐接近的晴朗的天气可以说是形成晚霞的非常好的条件。染成茜色的天空叫做“茜空”，染成茜色的云彩叫做“茜云”。

语法

1. 正在一点儿一点儿地

一つある

* 解释：つつ(次次)+ある(在→古语的いる)

* 接续：动词的连用形+

1. 町の様子が変わりつつある。

* 城市的样子正在一点一点地发生变化。

* 町：(2, 名)城市，大街。[记]。ま(間)+ち(地)→一块地→城市

* 様子：(0, 名)样子

2. 頑張って考えないようにすれば、忘れつつある。

* 如果尽量努力不想，会慢慢忘记。

* 葛藤：(0, 名/自サ)纠结；纠葛

* 繼れる：(3, 自下一) (头发、线等)缠绕到一起分不开；(舌头、腿脚等)不听使唤；
(感情、事情等)错综复杂而无法收拾。[记]。も(もの→物)+つれる(連れる)→繫

3. 放置すれば、不満が高まりつつある。

* 如果放置不管的话，就会越来越不满。

* 放置：(1, 0, 名/他サ)放置不管

- * 放^{ほう}って置^{おき}く: (0, 他五) 放置不管
- * ほっとく: (3, 他五) 放置不管
- * ほったらかす: (5, 他五) 放置不管

2. 虽然其次

一つ(も)、

- * 解释: つつ(其次)+も (强调→转折→虽然)
- * 意思: 虽然其次
- * 接续: 动词的连用形+

1. 手放^{てばな}そうと思^{おも}いつつも、潔^{いさぎよ}く身^みを引^ひけない自分^{じぶん}に腹^{はら}が立^たつ。

* 虽然其次想着要放手，但是很生气自己不能干脆利落地抽身。

* 手放^{てばな}す: (3, 他五) 放手

* 潔^{いさぎよ}い: (4, 形) 不拖泥带水的；清洁的

* 身^みを引^ひく: (0+0) 抽身

* 腹^{はら}が立^たつ: (2+1) 生气

2. いけないとは知^しりつつも、しつこく頼^{たの}まれて断^{ことわ}り切^きれなかつた。

- * 虽然每次都知道不行，但是被死乞白赖地求，拒绝不了。
- * しつこい: (3, 形) 浓重的，浓烈的，浓艳的；执拗的，纠缠不休的，矫情的
- * 断^{ことわ}り切^きれない: (7, 形) 拒绝不了

3. 自分^{じぶん}の弱^{よわ}みを認めつつも、直^{なお}す氣^きがまつくなさそう(です)。

* 虽然其次承认自己的弱点，但是完全没有改的意思。

* 弱^{よわ}み: (0, 名) 弱点；把柄

* 弱^{よわ}点^{てん}: (3, 名) 弱点

* 欠^{けつ}点^{てん}: (3, 名) 缺点

N2 第 57 课 橘红色的早晚(课文)

あかねぞら あかねぐも 茜空と茜雲

たいようこう ど ひく あさ ゆうがた くう き ちゅう とお たいようこうせん きより なが 太陽高度の低い朝や夕方は、空気中を通る太陽光線の距離が長くなります。すると波長の長い
ひかり しか 地上に届かなくなるため、空の赤や黄色が強くなるのです。空気中の水蒸気が多くなれ
ばかりなるほど美しい茜色の夕焼けとなるため、台風が近づきつつある晴れた日は、絶好の夕焼け
ひより 目和といえるでしょう。茜色に染まった空は「茜空」、雲は「茜雲」と呼ばれます。

(長澤陽子『日本の伝統色を愉しむ』東邦出版による)

茜色和茜云

在太阳高度较低的早晨和黄昏，通过空气的太阳光线的距离变长。于是，只有波长较长的光才能到达地面，所以天空的红色和黄色就会变强。空气中的水蒸气越多就越会形成美丽的茜色晚霞，所以台风逐渐接近的晴朗的天气可以说是形成晚霞的非常好的条件。染成茜色的天空叫做“茜空”，染成茜色的云彩叫做“茜云”。

N2 第 58 课 各国婴儿无不同(单词)

う生まれたばかりの赤ちゃんには、文化の違いや国籍による違いは見られない。日本で生まれた赤ちゃんも、アメリカで生まれた赤ちゃんも、アフリカやアジアの諸国で生まれた赤ちゃんも、最初はみんな同じである。たとえ、皮膚の色に違いがあったとしても、その行動様式に大きな違いは見られない。

しかしながら、その後数年たつとそれぞれの文化のなかで育った子どもたちは、それぞれの文化に特徴的な様相を示すようになる。食事の仕方、睡眠のとり方、遊び方といったことから、考え方にも違いが現れる。

(福富護『「らしさ」の心理学』講談社による)

从刚出生的婴儿身上看不出文化的不同以及国籍带来的不同。在日本出生的婴儿、在美国出生的婴儿、在非洲和亚洲各国出生的婴儿，最初大家都一样。即便皮肤颜色上有不同，他们的行为方式却看不出很大差异。

可是几年后，在不同的文化中成长的孩子们开始呈现出带有各个文化特征的状态。从吃饭的方式、睡眠的方式、玩儿的方式到想法，都会呈现出差异。

单词

* 赤ちゃん: (1, 名) (赤ん坊更亲近的说法) 婴儿

* 赤ん坊: (0, 名) 婴儿；社会经验少的人

* 乳児: (1, 名) 婴儿

* 幼児: (1, 名) 幼儿

* 児童: (1, 名) 儿童

* 自動: (0, 名) 自动

* 文化: (1, 名) 文化

* カルチャー: (1, 名/culture) 文化

* カルチャーショック: (5, 名/culture shock) 文化冲击

* ショックを受ける: (1+2) 受打击

* 打撃を受ける: (0+2) 受打击

* 衝撃: (0, 名) 冲击

- * 衝撃を与える: (0+0) 给与(社会) 冲击
- * ダメージ: (2, 1, 名/damage) 损失
- * メリット: (1, 名/merit) 利处, 好处, 优点
- * リスク: (1, 名/risk) 风险
- * 危険: (0, 名/形动) 危险
- * 危ない: (0, 3, 形) 危险的
- * 危うい: (0, 3, 形) 危险的. [记]. あや(啊呀→吃惊)+う(无→不要)→危险的
- * 危うく: (0, 副) 险些
- * 危ぶむ: (3, 他五) 觉得危险, 担心. [记]. あや(啊呀→惊讶)+ぶ(不)+む(闷)→啊呀不要→危险
- * 国籍: (0, 名) 国籍
- * アメリカ: (0, 名/America) 美国
- * 米国: (0, 名) 美国
- * アフリカ: (0, 名/Africa) 非洲
- * 諸国: (1, 名) 诸国
- * 諸君: (1, 名) 诸位
- * 猪: (3, 名) 野猪
- * 猪突猛進: (1+0, 0, 名/自サ) 勇往直前
- * がさつ: (0, 形动) 愣头青. [记]. が(状态)+さ(飒→清→青)+つ(刺)→愣头青
- * 荒っぽい: (4, 0, 形) 粗糙的, 粗鲁的
- * つっけんどん: (3, 形动) 简单粗暴. [记]. つっけんどん→刺很多
- * 刺: (2, 名) 刺. [记]. と(突)+刺(给)→刺
- * 刺々しい: (5, 形) 带刺的, 尖酸的
- * 気が利く: (0+0) 机灵, 伶俐
- * 柔軟: (0, 形动) 灵活
- * 頭が柔らかい: (0+4) 头脑灵活
- * 臨機応変: (1+0, 形动) 随机应变
- * 最初: (0, 名/副) 最初

* 最初で最後: (0+1) 最初也是最后, 第一次也是最后一次

* 皮膚: (1, 名) 皮肤

* 肌: (1, 名) 肌肤

* 肌が合う: (1+1) 合得来

* 反りが合わない: (2+3) 合不来

* 反り: (2, 名) 弧度. [记]. そ(其)+り (る→留→长)→另一边→反

* 反り橋: (0, 2, 名) 拱桥

* 行動様式: (5, 名) 行为方式

* 生活様式: (5, 名) 生活方式

* 数年: (0, 名/副) 数年, 几年

* 経つ: (1, 自五) (时间) 经过. [记]. た(他)+つ(次)→往其他方向走→经过

* 経る: (1, 自下一) 经过(审查), 经历. [记]. ～(方向)+る(留→长)→时间的经历

* それぞれ: (2, 3, 名/副) 各个

* 特徵的: (0, 形动) 具有特征的

* 特徵: (0, 名) 特点

* 様相: (0, 名) 外观, 形式, 状态

* 示す: (2, 他五) 显示, 出示. [记]. し(示)+め(目)+す(做)→出示

* 仕方: (0, 名) 方法

* 睡眠: (0, 名) 睡眠

* 摂る: (1, 他五) 摄取(营养、水分、睡眠等)

* 摂取: (1, 名/他サ) 摄取(营养、水分、睡眠等)

* 現れる: (4, 自下一) 显现, 体现, 出现

* 現す: (3, 他五) 让～显现, 让～体现, 让～出现

* 姿を現す: (1+3) 露面

N2 第 59 課 各国婴儿无不同(语法)

う生まれたばかりの赤ちゃんには、文化の違いや国籍による違いは見られない。日本で生まれた赤ちゃんも、アメリカで生まれた赤ちゃんも、アフリカやアジアの諸国で生まれた赤ちゃんも、最初はみんな同じである。たとえ、皮膚の色に違いがあったとしても、その行動様式に大きな違いは見られない。

しかしながら、その後数年たつとそれぞれの文化のなかで育った子どもたちは、それぞれの文化に特徴的な様相を示すようになる。食事の仕方、睡眠のとり方、遊び方といったことから、考え方にも違いが現れる。

(福富護『「らしさ」の心理学』講談社による)

从刚出生的婴儿身上看不出文化的不同以及国籍带来的不同。在日本出生的婴儿、在美国出生的婴儿、在非洲和亚洲各国出生的婴儿，最初大家都一样。即便皮肤颜色上有不同，他们的行为方式却看不出很大差异。

可是几年后，在不同的文化中成长的孩子们开始呈现出带有各个文化特征的状态。从吃饭的方式、睡眠的方式、玩儿的方式到想法，都会呈现出差异。

语法

1. 假设

～とする

* 解释：と(内容)+する (仮定する→假设)

* 接续：任何词+

1. 大人でも買いたいものを何でも買うとしたらどうでしょうか。

そんなことはしようと思^{おも}っても、できっこないはずです。

* 即便是大人如果把想要买的东西都买下来的话会怎么样呢？

即便想要那么做，应该也不可能。

* できっこない：(3+1, 形) 完全不可能，绝对不可能

2. どうしても助けなければならないような人がいるとすれば、多くはその人自身の問題です。

* 如果假设有必须去帮助的人，那些人大多也是自己有问题。

* どうしても：(4, 副) 无论如何

* 多く：(1, 名/副) 很多

3. もしそうならぬとすれば、また別の心配が生じるだろう。

* 如果不是那样的话，还会产生其他的担心。

* 别：(0, 名/形动) 区别，差别；分开；其他

* 心配：(0, 名/他サ) 担心

* 生じる：(0, 3, 自上一) 产生

2. 即使假设

(たとえ)～としても

* 解释：たとえ(例える→打个比方；假设)+として(と仮定する→假设)+(て)も(让步性转折→即使)

* 接续：任何词+

1. 新しい行動様式が見られたとしても、第一印象に無理やり当てはめられてしまう。

* 即使假设有新的行为方式，但还是会硬安在第一印象上。

* 第一印象：(5, 名) 第一印象

* 無理やり：(0, 副) 非要，硬干，强迫

* 当てはめる：(4, 他下一) 把～安在～上

* 当てはまる：(4, 自五) 被安上；适合，适用。[记] 当て(大面积地接触)+嵌まる(镶嵌上)→接触后镶嵌进去→安在～上

2. 型どおりの挨拶くらいはできるとしても、内容のある深い話を聞き出すのが難しいです。

* 即使假设能有固定模式的寒暄，但是很难引出有深度的话题。

* 型どおり：(3, 名) 固定模式

* 内容：(0, 名) 内容

* 聞き出す：(3, 他五) 问出

3. 正確に30分後に返事が出来たとしても、あまり満足感はないのです。

* 即使假设准确地在30分钟后做出了回复，但是也不会太满意。

* 正確：(0, 形动) 正确，准确

* 满足感：(4, 名) 满足感

N2 第 60 課 各国婴儿无不同(課文)

う生まれたばかりの赤ちゃんには、文化の違いや国籍による違いは見られない。日本で生まれた
あか赤ちゃんも、アメリカで生まれた赤ちゃんも、アフリカやアジアの諸国で生まれた赤ちゃんも、
さいしょ最初はみんな同じである。たとえ、皮膚の色に違いがあったとしても、その行動様式に大きな
ちが違ひは見られない。

しかしながら、その後数年たつとそれぞれの文化のなかで育った子どもたちは、それぞれの
ぶんか文化に特徴的な様相を示すようになる。食事の仕方、睡眠のとり方、遊び方といったことから、
かんが考え方にも違いが現れる。

(福富護『「らしさ」の心理学』講談社による)

从刚出生的婴儿身上看不出文化的不同以及国籍带来的不同。在日本出生的婴儿、在美国出生的婴儿、在非洲和亚洲各国出生的婴儿，最初大家都一样。即便皮肤颜色上有不同，他们的行为方式却看不出很大差异。

可是几年后，在不同的文化中成长的孩子们开始呈现出带有各个文化特征的状态。从吃饭的方式、睡眠的方式、玩儿的方式到想法，都会呈现出差异。